
笠 間 市
教育振興計画策定のためのアンケート調査
結果報告書

平成 28 年 9 月

笠 間 市

目 次

第1章 調査の概要

1 調査目的	3
2 調査の概要	3
(1) 調査の種類	3
(2) 調査期間	3
3 回収結果	4
4 報告書を読む際の留意点	4

第2章 調査の結果

1 児童生徒調査	
(1) 回答者の属性	7
(2) 学校生活について	9
(3) 近所の人との関わりやさまざまな活動について	16
(4) 将来のことについて	18
2 児童生徒保護者調査	
(1) 子ども（児童生徒）について	22
(2) 回答者の属性	25
(3) 学校教育や学校とのかかわりについて	27
(4) 家庭・地域での教育について	40
(5) 市の教育施策や“笠間らしさ”について	48
3 教職員調査	
(1) 回答者の属性	52
(2) 学校教育について	54
(3) 家庭・地域での教育について	68
(4) 市の教育施策や“笠間らしさ”について	76
4 一般市民調査	
(1) 回答者の属性	
(2) 子どもとの関わりや教育について	
(3) 生涯学習・文化・スポーツ活動等について	
(4) 公民館について	
(5) 図書館について	

第 1 章 調査の概要

1 調査目的

本調査は、笠間市教育振興基本計画の策定に当たり、長期的な教育方針及び今後5年間の教育施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、児童生徒、保護者、教職員、一般市民などの幅広い立場からの意見・意向を集約し、その結果を計画に反映するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査の概要

(1) 調査の種類

調査名	対象者	対象抽出方法	調査方法
①児童生徒調査	市内小学5年生・ 中学2年生の児童生徒 639人 (小5 324人、中2 315人)	原則各学校 1クラス※	学校を通じた 配布・回収
②児童生徒保護者調査	①の保護者 639人		
③教職員調査	市内小中学校 全教職員 (校長・副校長・ 教頭・非常勤を除く) 338人	全数調査	
④一般市民	市内在住 18歳以上の 男女 1,200人	無作為抽出	郵送配布・ 郵送回収

※1学年4学級以上の大規模校については2クラス。

(2) 調査期間

平成28年7月上旬～下旬

3 回収結果

調査名	配布数	回収数 (回収率)	有効回収数※ (有効回収率)
①児童生徒調査	639	616 (96.4%)	616 (96.4%)
②児童生徒保護者調査	639	513 (80.3%)	513 (80.3%)
③教職員調査	338	315 (93.2%)	315 (93.2%)
④一般市民	1,200	(. %)	(. %)

※有効回収数は、返送はあったが無記入の調査票を含めない数。

4 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- 図表中の「n=」とは、回答者数を表します。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中や表・グラフでは省略した表現を用いることがあります。

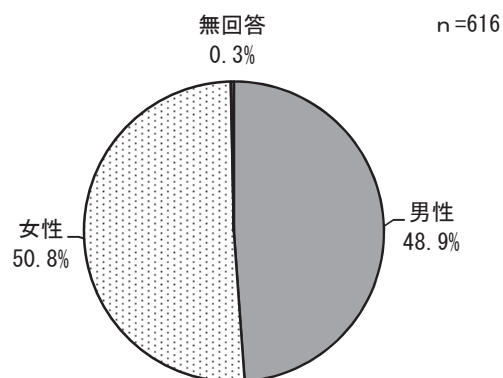
第2章 調査の結果

1 児童生徒調査

(1) 回答者の属性

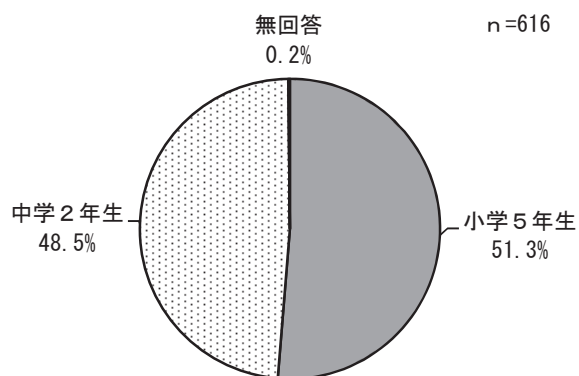
問1 あなたの性別を教えてください。[1つに○]

○性別は、「男性」が48.9%、「女性」が50.8%である。



問2 あなたの学年は次のどちらですか。[1つに○]

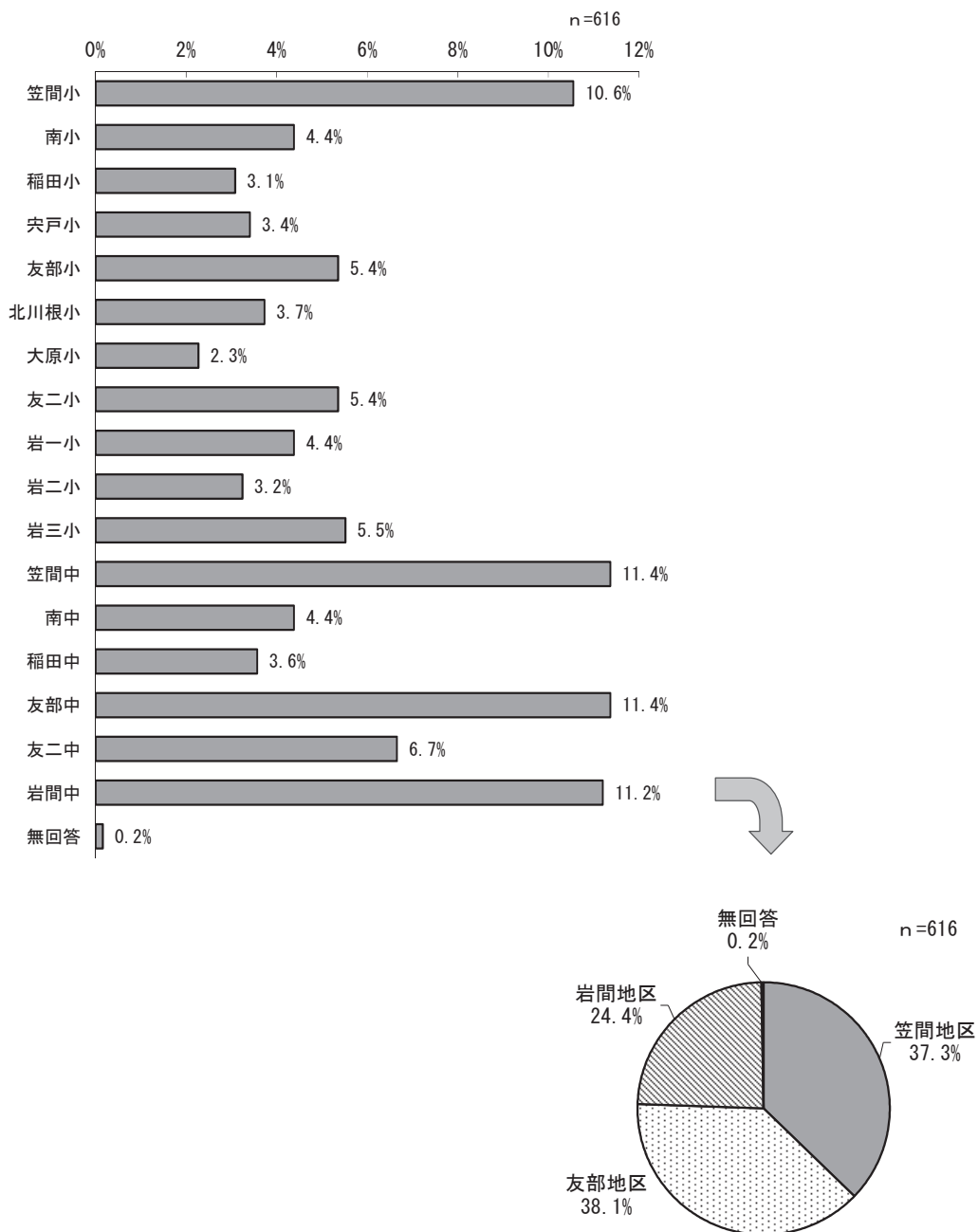
○学年については、「小学5年生」が51.3%、「中学2年生」が48.5%である。



問3 あなたが通っているのは次のどちらですか。[1つに○]

○通う学校については、「笠間小」(10.6%)、「笠間中」(11.4%)、「友部中」(11.4%)、「岩間中」(11.2%)などで1割を超え多くなっている。

○地区別では、「笠間地区」が37.3%、「友部地区」が38.1%、「岩間地区」24.4%となっている。



問5 あなたは、学校で困っていることや不安に思うことがありますか。

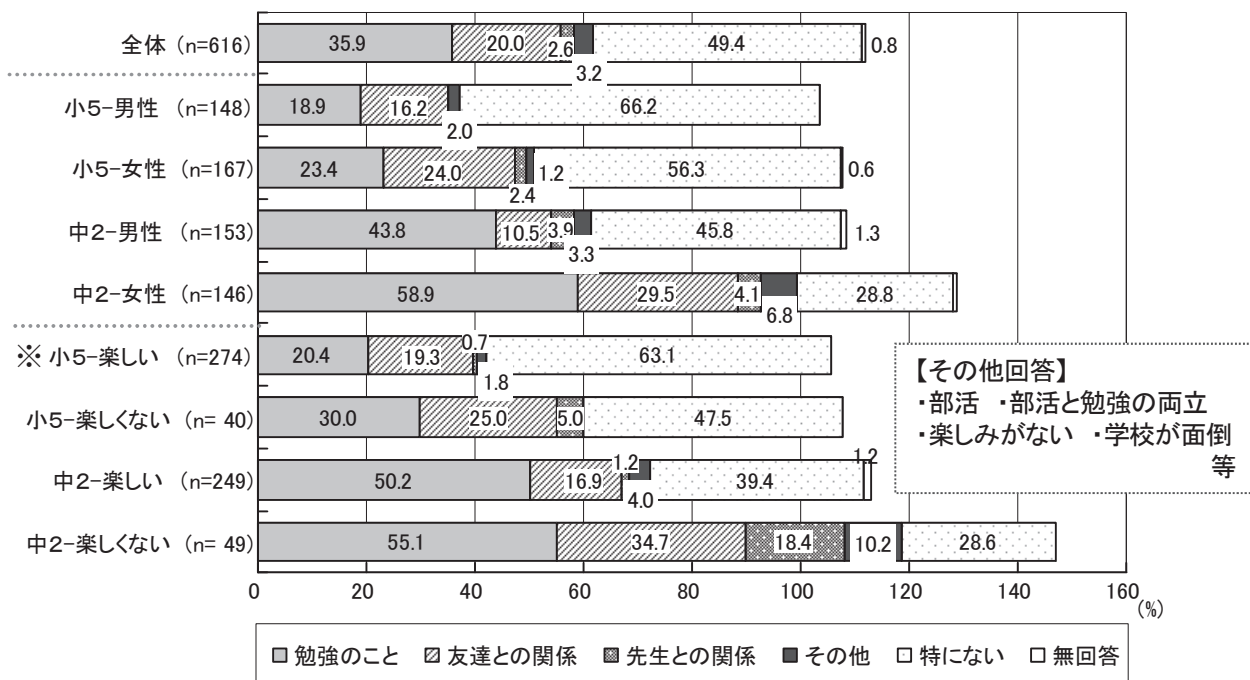
[あてはまるものすべてに○]

○学校での困りごとや不安については、「勉強のこと」(35.9%)が最も多く、次いで「友達との関係」(20.0%)となっている。また、「特にない」(49.4%)という回答も多く見られる。

○学年・性別にみると、小5男性で「特にない」(66.2%)が最も多い。小学生に比べ中学生で「勉強のこと」という回答が多く見られる。また、男性に比べ女性で「友だちとの関係」との回答が多く、特に中2女性では3割近くが「友だちとの関係」をあげている。

○学年・学校が楽しいかどうかでみると、「特にない」は小5・学校が楽しい層で63.1%と最も多く、中2・学校が楽しくない層では28.6%と最も少なくなっている。中2では、学校が楽しい、楽しくないどちらの層も「勉強のこと」が5割を超え多くなっているが、中2・学校が楽しくない層では楽しい層に比べ「友だちとの関係」「先生との関係」との回答が多くなっている。

■ 学年×性別、学年×学校が楽しい



※楽しい：問4学校に行くのが楽しいか

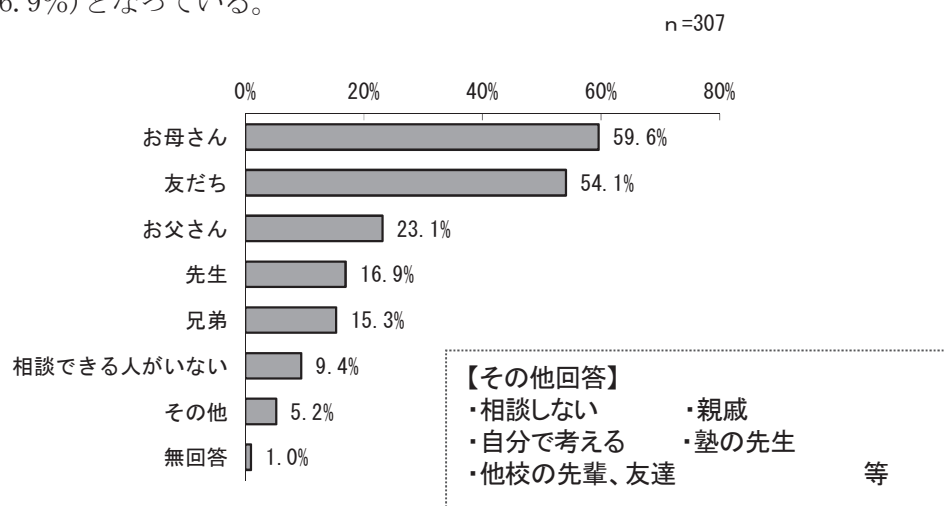
「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒

楽しくない：「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」と回答した児童生徒

【問5で1～4を選んだ人だけが答えてください。】

問6 あなたは、学校で困っていることや、不安に思うことがあるときには、だれに相談しますか。[あてはまるものすべてに○]

○問5で困りごとや不安があると答えた方に、相談相手をたずねたところ、「お母さん」(59.6%)が最も多く、次いで「友だち」(54.1%)、やや差があり「お父さん」(23.1%)、「先生」(16.9%)となっている。



○学年・性別にみると、小5では男女問わず「お母さん」「お父さん」など両親との回答が多い。特に小5女性では、「お母さん」(73.6%)、「お父さん」(37.5%)との回答が他の層に比べ多くなっている。

一方で、中2では男女ともに、「お母さん」「お父さん」など両親との回答は小学生に比べ少なくなり、「友だち」が最も多くなっている。特に、中2女性では「お父さん」(6.8%)、「先生」(8.7%)との回答が他の層を大きく下回っている。

○学年・学校が楽しいかどうかでみると、小5・中2ともに学校が楽しくない層で「相談できる人がいない」との回答が多くなっている。

単位: 上段 人、下段 %

問6 相談相手	合計	お母さん	お父さん	兄弟	友だち	先生	その他	相談できる人がいない	無回答	
全体	307	183	71	47	166	52	16	29	3	
	100.0	59.6	23.1	15.3	54.1	16.9	5.2	9.4	1.0	
学年×性別	小学5年生-男性	50	29	14	8	10	6	3	7	1
		100.0	58.0	28.0	16.0	20.0	12.0	6.0	14.0	2.0
	小学5年生-女性	72	53	27	10	42	21	4	4	0
		100.0	73.6	37.5	13.9	58.3	29.2	5.6	5.6	0.0
	中学2年生-男性	81	40	23	11	47	16	6	5	1
	100.0	49.4	28.4	13.6	58.0	19.8	7.4	6.2	1.2	
中学2年生-女性	103	60	7	18	67	9	3	13	1	
	100.0	58.3	6.8	17.5	65.0	8.7	2.9	12.6	1.0	
学年×学校の楽しさ	小学5年生-楽しい	101	70	34	15	43	22	7	8	1
		100.0	69.3	33.7	14.9	42.6	21.8	6.9	7.9	1.0
	小学5年生-楽しくない	21	13	6	3	9	5	0	3	0
		100.0	61.9	28.6	14.3	42.9	23.8	0.0	14.3	0.0
	中学2年生-楽しい	148	85	26	22	98	21	7	8	0
	100.0	57.4	17.6	14.9	66.2	14.2	4.7	5.4	0.0	
中学2年生-楽しくない	35	15	4	7	16	4	2	9	2	
	100.0	42.9	11.4	20.0	45.7	11.4	5.7	25.7	5.7	

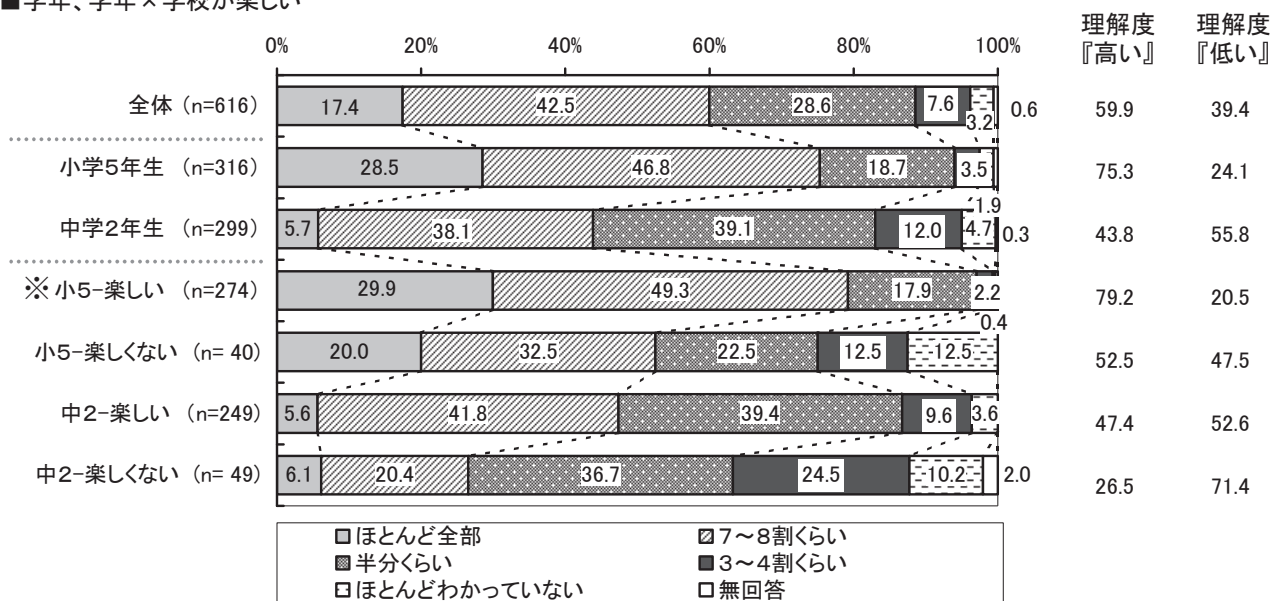
問7 あなたは、学校の授業がどのくらいよくわかりますか。[1つに○]

○授業の理解度については、「ほとんど全部」(17.4%)、「7～8割くらい」(42.5%)を合計した、授業の理解度が『高い』割合は59.9%である。「半分くらい」(28.6%)、「3～4割くらい」(7.6%)、「ほとんどわかっていない」(3.2%)を合計した、授業の理解度が『低い』割合は39.4%となっている。

○学年別にみると、小5では「7～8割」(46.8%)、中2では「半分くらい」(39.1%)との回答が最も多い。それに対応するように、小5では授業の理解度が『高い』割合が7割であるが、中2では授業の理解度が『低い』割合が5割を上回る。

○学年・学校が楽しいかどうかでみると、小5・中2ともに学校が楽しい層で授業の理解度が『高い』割合が多くなっている。(小5 79.2%、中2 47.4%) 反対に、学校が楽しくない層では授業の理解度が『低い』割合が多く(小5 47.5%、中2 71.4%)、小5・中2ともに「ほとんどわかっていない」との回答が1割を超える。

■学年、学年×学校が楽しい



※楽しい：問4 学校に行くのが楽しいか

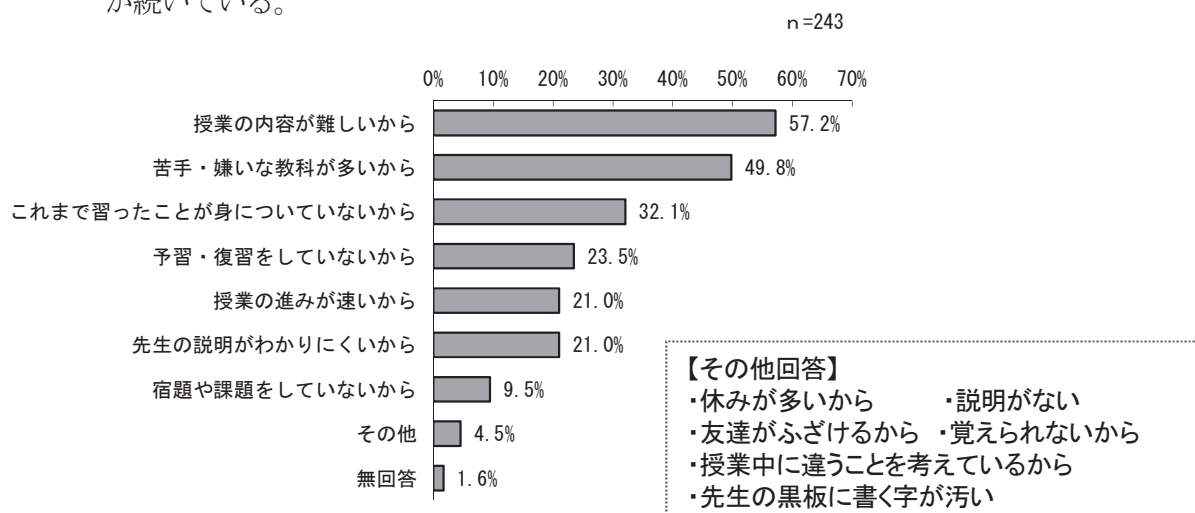
「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒

楽しくない：「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」と回答した児童生徒

【問7で3～5を選んだ人だけが答えてください。】

問8 授業が分からない理由は何ですか。[あてはまるものすべてに○]

○問7で授業の理解度が低いと答えた方に、その原因をたずねたところ、「授業の内容が難しいから」(57.2%)、「苦手・嫌いな教科が多いから」(49.8%)が多く、「これまで習ったことが身につけていないから」(32.1%)、「予習・復習をしていないから」(23.5%)が続いている。



○性別では、ほとんどすべての項目で女性が男性の回答の割合を上回る。特に女性では「授業の進みが速いから」「先生の説明がわかりにくいから」(ともに28.8%)が男性を大きく上回る。

○学年別でみると、小5と比べ中2で「苦手・嫌いな教科が多いから」(52.7%)、「先生の説明がわかりにくいから」(29.3%)、「授業の進みが速いから」(22.8%)との回答が多くなっている。

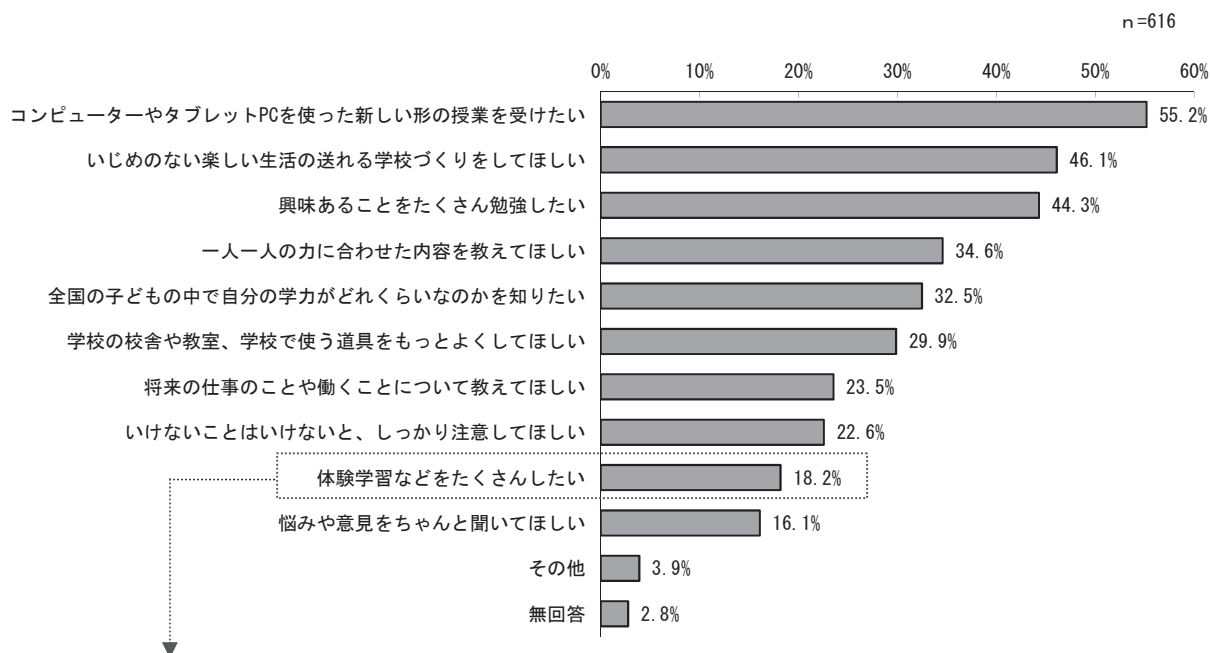
○学年・性別でみると、小5女性で「授業の内容が難しいから」(65.8%)、「苦手・嫌いな教科が多いから」(57.9%)との回答が多い。また、中2女性では「先生の説明がわかりにくいから」(39.1%)、「授業の進みが速いから」(31.0%)が他の層を大きく上回る。

単位:上段 人、下段 %

問8 授業が分からない理由		合計	授業の内容が難しいから	苦手・嫌いな教科が多いから	これまで習ったことが身につけていないから	予習・復習をしていないから	授業の進みが速いから	先生の説明がわかりにくいから	宿題や課題をしていないから	その他	無回答
全体		243	139	121	78	57	51	51	23	11	4
		100.0	57.2	49.8	32.1	23.5	21.0	21.0	9.5	4.5	1.6
問1 性別	男性	118	61	51	34	27	15	15	15	7	3
	女性	125	78	70	44	30	36	36	8	4	1
		100.0	62.4	56.0	35.2	24.0	28.8	28.8	6.4	3.2	0.8
問2 学年	小学5年生	76	46	33	25	16	13	2	6	2	2
	中学2年生	167	93	88	53	41	38	49	17	9	2
		100.0	55.7	52.7	31.7	24.6	22.8	29.3	10.2	5.4	1.2
学年×性別	小学5年生-男性	38	21	11	13	7	4	0	5	1	2
	小学5年生-女性	38	25	22	12	9	9	2	1	1	0
	小学5年生-女性	100.0	65.8	57.9	31.6	23.7	23.7	5.3	2.6	2.6	0.0
	中学2年生-男性	80	40	40	21	20	11	15	10	6	1
	中学2年生-女性	100.0	50.0	50.0	26.3	25.0	13.8	18.8	12.5	7.5	1.3
	中学2年生-女性	87	53	48	32	21	27	34	7	3	1
		100.0	60.9	55.2	36.8	24.1	31.0	39.1	8.0	3.4	1.1

問9 あなたが学校や先生に望むことは何ですか。[あてはまるものすべてに○]

○学校や先生に望むことについては、「コンピューターやタブレットPCを使った新しい形の授業を受けたい」(55.2%)が最も多く、次いで「いじめのない楽しい生活の送れる学校づくりをしてほしい」(46.1%)、「興味あることをたくさん勉強したい」(44.3%)、「一人一人の力に合わせた内容を教えてほしい」(34.6%)、「一人一人の力に合わせた内容を教えてほしい」(34.6%)、「全国の子どもの中で自分の学力がどれくらいなのかを知りたい」(32.5%)となっている。



【体験学習の具体例】(59人より61件の意見)

- ・理科・自然体験(理科の実験、生物・生き物の観察、自然・動物とのふれあい、火おこし 等) 11件
- ・職業体験(学芸員、海上保安官、小さなお店の手伝い 等) 9件
- ・社会科見学(工場、資料館 等) 7件
- ・食育体験(調理、農業体験、野菜の栽培) 6件
- ・スポーツ体験(スポーツ選手による指導・交流、サッカー、バレーボール 等) 5件
- ・校外学習 4件
- ・福祉体験(介護、手話) 3件
- ・プログラミング体験(いろいろなデータをつくりたい) 2件
- ・英語学習(外国人との会話、英語での会話) 2件
- ・臨海学校(釣り) 2件
- ・興味があることに対する体験、興味がわく授業 2件
- ・授業で学んだことを実際にやってみる、授業で役に立つ体験学習 2件
- ・他校との交流
- ・体験授業を受けてどう思うか、どう感じたかを話し合う
- ・勉強に関する体験
- ・創作活動
- ・保健体育の授業で赤ちゃんの人形を使う
- ・社会、算数

○性別では、ほとんどの項目で回答の割合に差は見られないが、「悩みや意見をちゃんと聞いてほしい」(男性 11.3%、女性 20.4%)のみ女性が男性の回答を大きく上回る。

○学年では、小5では「いけないことはいけないと、しっかり注意してほしい」(25.3%)「体験学習などをたくさんしたい」(23.1%)が中2に比べ多くなっている。

また、中2では「一人一人の力に合わせた内容を教えてほしい」(45.2%)、「学校の校舎や教室、学校で使う道具をもっとよくしてほしい」(34.8%)、「悩みや意見をちゃんと聞いてほしい」(18.7%)が小5の回答を大きく上回る。

単位：上段 人、下段 %

問9 学校や先生への希望		合計	タブレットPC等を使った新しい形の授業を受けたい	いけない楽しい生活の送れる学校づくり	興味あることをたくさん勉強したい	一人一人の力に合わせた内容を教えてほしい	全国の子どもの中で自分の学力がどれくらいか知りたい	学校の校舎や教室、学校で使う道具をよくしてほしい
全体		616 100.0	340 55.2	284 46.1	273 44.3	213 34.6	200 32.5	184 29.9
問1 性別	男性	301 100.0	168 55.8	128 42.5	138 45.8	99 32.9	95 31.6	91 30.2
	女性	313 100.0	171 54.6	155 49.5	135 43.1	113 36.1	105 33.5	92 29.4
問2 学年	小学5年生	316 100.0	179 56.6	157 49.7	134 42.4	78 24.7	107 33.9	80 25.3
	中学2年生	299 100.0	161 53.8	127 42.5	139 46.5	135 45.2	93 31.1	104 34.8

問9 学校や先生への希望		合計	将来の仕事のことや働くことについて教えてほしい	いけないことはいけないと、しっかり注意してほしい	体験学習などをたくさんしたい	悩みや意見をちゃんと聞いてほしい	その他	無回答
全体		616 100.0	145 23.5	139 22.6	112 18.2	99 16.1	24 3.9	17 2.8
問1 性別	男性	301 100.0	68 22.6	62 20.6	52 17.3	34 11.3	7 2.3	10 3.3
	女性	313 100.0	77 24.6	76 24.3	60 19.2	64 20.4	17 5.4	6 1.9
問2 学年	小学5年生	316 100.0	79 25.0	80 25.3	73 23.1	43 13.6	12 3.8	12 3.8
	中学2年生	299 100.0	66 22.1	59 19.7	39 13.0	56 18.7	12 4.0	4 1.3

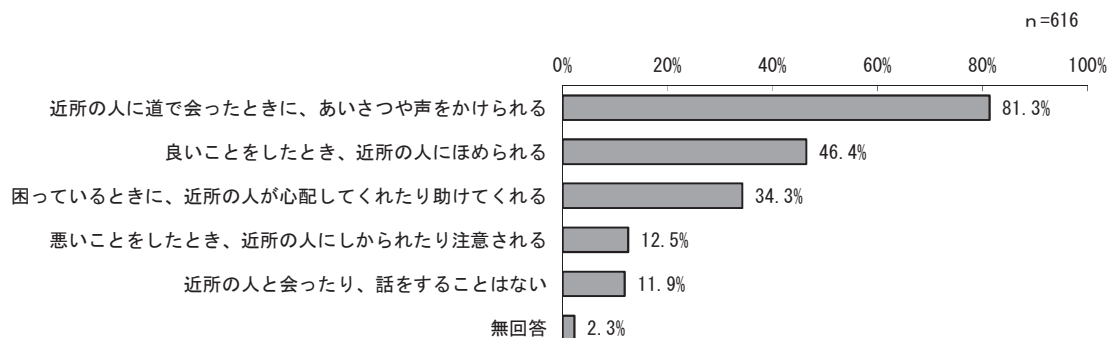
【その他回答】

- ・夏は暑いから教室にエアコンをつけてほしい。(6件)
- ・もっと優しく、丁寧に接してほしい(2件)
- ・自分の好きなことを授業のような形にして面白くしてほしい
- ・誰かを差別するのはやめてほしい
- ・いくら学力が低いからといって、本当に生徒のことを思うのなら差別せずちゃんと教えてほしい
- ・もっと他の学び場を作ってほしい
- ・家が遠い人はバス通学にほしい
- ・生徒のことをちゃんと考えてほしい
- ・昼寝時間が欲しい
- ・運動会などの靴下を白じゃない色にほしい 等

(3) 近所の人との関わりやさまざまな活動について

問10 あなたは、次のような経験がありますか。[あてはまるものすべてに○]

○近所の人との関わりについては、「近所で会ったときに、あいさつや声をかけられる」(81.3%)が群を抜いて多く、次いで「良いことをしたとき、近所の人にほめられる」(46.4%)、「困っているときに、近所の人心配してくれたり助けられる」(34.3%)となっている。



○性別では、女性に比べ男性で「悪いことをしたとき、近所の人にしかられたり注意される」(16.9%)、「近所の人と会ったり、話をすることはない」(14.3%)との回答が多くなっている。

○学年別では、小5の「良いことをしたとき、近所の人にほめられる」(54.1%)が中2の回答を大きく上回る。

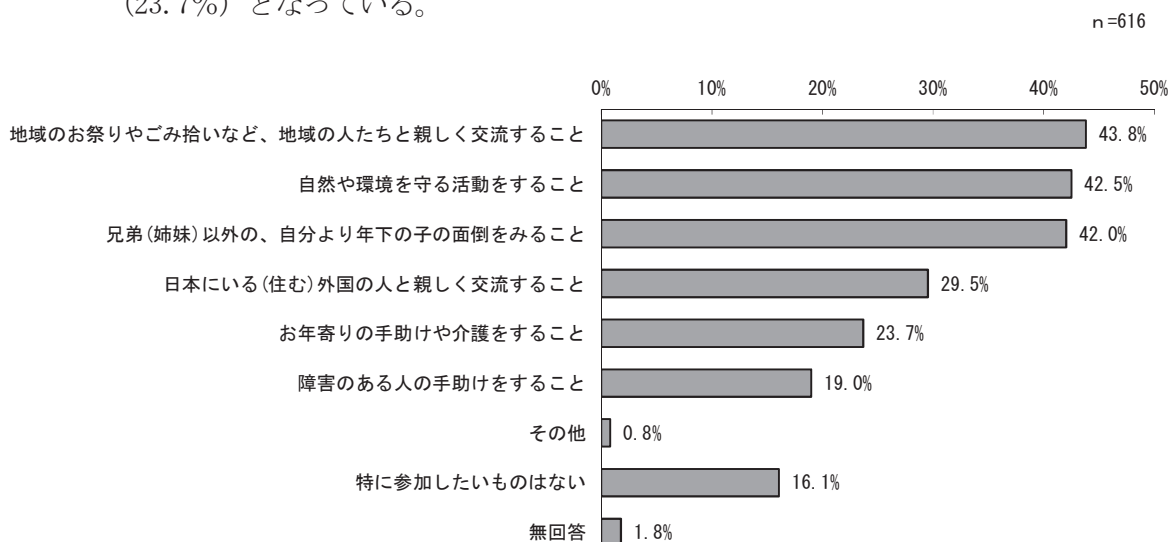
○地区別では、笠間地区のみ「困っているときに、近所の人心配してくれたり助けられる」(43.9%)が4割を超え多くなっている。

単位: 上段 人、下段 %

問10 近所の人との関わり	合計	近所の人に道で会ったときに、あいさつや声をかけられる	良いことをしたとき、近所の人にほめられる	困っているときに、近所の人心配してくれたり助けられる	悪いことをしたとき、近所の人にしかられたり注意される	近所の人と会ったり、話をすることはない	無回答
全体	616 100.0	501 81.3	286 46.4	211 34.3	77 12.5	73 11.9	14 2.3
問1 性別							
男性	301 100.0	233 77.4	134 44.5	99 32.9	51 16.9	43 14.3	6 2.0
女性	313 100.0	268 85.6	151 48.2	111 35.5	26 8.3	29 9.3	7 2.2
問2 学年							
小学5年生	316 100.0	254 80.4	171 54.1	109 34.5	35 11.1	38 12.0	10 3.2
中学2年生	299 100.0	247 82.6	115 38.5	102 34.1	42 14.0	35 11.7	3 1.0
地区別							
笠間地区	230 100.0	195 84.8	101 43.9	101 43.9	33 14.3	27 11.7	5 2.2
友部地区	235 100.0	190 80.9	120 51.1	69 29.4	32 13.6	25 10.6	4 1.7
岩間地区	150 100.0	116 77.3	65 43.3	41 27.3	12 8.0	21 14.0	4 2.7

問11 あなたは、次のような活動をやってみたいと思いますか。[あてはまるものすべてに○]

○やってみたい活動については、「地域のお祭りやごみ拾いなど、地域の人たちと親しく交流すること」(43.8%)、「自然や環境を守る活動をする事」(42.5%)、「兄弟(姉妹)以外の、自分より年下の子の面倒をみる事」(42.0%)が多く、次いで「日本にいる(住む)外国の人と親しく交流すること」(29.5%)、「お年寄りの手助けや介護をする事」(23.7%)となっている。



○学年・性別では、小5男性で「自然や環境を守る活動をする事」(54.1%)が他の層に比べ多くなっている。小5・中2ともに女性で、「兄弟(姉妹)以外の、自分より年下の子の面倒をみる事」が5割を超え多い。

小5女性では、その他に「お年寄りの手助けや介護をする事」(35.9%)、「障害のある人の手助けをする事」(26.9%)などの回答も多くなっている。

中2男性では、「特に参加したいものはない」(22.2%)との回答が、他の層を上回る。

単位:上段 人、下段 %

問11 やりたい活動	合計	地域の人たちと親しく交流すること	自然や環境を守る活動をする事	自分より年下の子の面倒をみる事	外国の人と親しく交流すること	お年寄りの手助けや介護をする事	障害のある人の手助けをする事	その他	特に参加したいものはない	無回答	
全体	616 100.0	270 43.8	262 42.5	259 42.0	182 29.5	146 23.7	117 19.0	5 0.8	99 16.1	11 1.8	
学年×性別	小学5年生-男性	148 100.0	64 43.2	80 54.1	58 39.2	39 26.4	40 27.0	36 24.3	0 0.0	23 15.5	3 2.0
	小学5年生-女性	167 100.0	71 42.5	82 49.1	87 52.1	51 30.5	60 35.9	45 26.9	4 2.4	17 10.2	6 3.6
	中学2年生-男性	153 100.0	61 39.9	63 41.2	39 25.5	45 29.4	17 11.1	16 10.5	0 0.0	34 22.2	0 0.0
	中学2年生-女性	146 100.0	74 50.7	36 24.7	75 51.4	46 31.5	28 19.2	20 13.7	1 0.7	25 17.1	1 0.7
	問4 学校の楽しさ(統合)※	523 100.0	246 47.0	230 44.0	225 43.0	154 29.4	129 24.7	106 20.3	4 0.8	71 13.6	3 1.0
	89 100.0	24 27.0	32 36.0	32 36.0	28 31.5	16 18.0	10 11.2	1 1.1	27 30.3	7 2.3	

※楽しい：問4学校に行くのが楽しいか

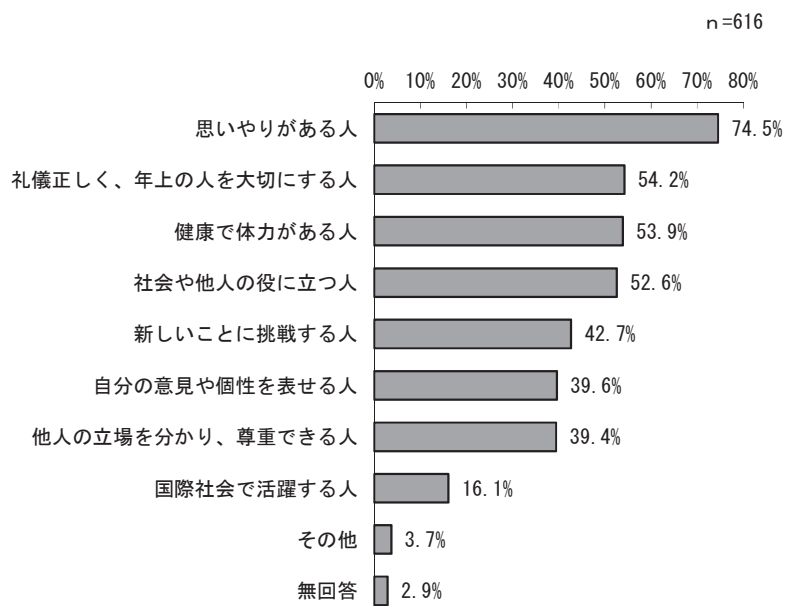
「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒

楽しくない：「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」と回答した児童生徒

(4) 将来のことについて

問12 あなたは、どのような人になりたいですか。[あてはまるものすべてに○]

○将来、どのような人になりたいかについては、「思いやりがある人」(74.5%)が最も多く、次いで「礼儀正しく、年上の人を大切にする人」(54.2%)、「健康で体力がある人」(53.9%)、「社会や他人の役に立つ人」(52.6%)となっている。



○性別では、多くの項目で女性の回答の割合が男性を上回る。特に「他人の立場を分かり、尊重できる人」(46.6%)、「思いやりがある人」(83.1%)、「礼儀正しく、年上の人を大切ににする人」(60.1%)は女性の回答が男性を10ポイント以上上回る。

一方、男性が女性を上回るのは「国際社会で活躍する人」(18.6%)となっている。

○学年では、小5で「新しいことに挑戦する人」(49.7%)で約14ポイント、「国際社会で活躍する人」(18.7%)で約5ポイント、中2の回答を上回る。

反対に中2では「自分の意見や個性を表せる人」(47.5%)、「他人の立場を分かり、尊重できる人」(46.8%)、「礼儀正しく、年上の人を大切ににする人」(60.5%)などで、小5の回答を10ポイント以上上回る。

単位:上段 人、下段 %

問12 なりたい姿		合計	思いやり がある人	礼儀正し く、年上 の人を大切 にする人	健康で体 力がある 人	社会や他 人の役に 立つ人	新しいこと に挑戦す る人
全体		616 100.0	459 74.5	334 54.2	332 53.9	324 52.6	263 42.7
問1 性別	男性	301 100.0	199 66.1	146 48.5	165 54.8	145 48.2	119 39.5
	女性	313 100.0	260 83.1	188 60.1	167 53.4	179 57.2	143 45.7
問2 学年	小学5年生	316 100.0	234 74.1	153 48.4	176 55.7	164 51.9	157 49.7
	中学2年生	299 100.0	225 75.3	181 60.5	156 52.2	160 53.5	106 35.5

問12 なりたい姿		合計	自分の意 見や個性 を表せる 人	他人の立 場を分か り、尊重 できる人	国際社会 で活躍す る人	その他	無回答
全体		616 100.0	244 39.6	243 39.4	99 16.1	23 3.7	18 2.9
問1 性別	男性	301 100.0	105 34.9	97 32.2	56 18.6	9 3.0	10 3.3
	女性	313 100.0	139 44.4	146 46.6	43 13.7	14 4.5	7 2.2
問2 学年	小学5年生	316 100.0	102 32.3	103 32.6	59 18.7	14 4.4	9 2.8
	中学2年生	299 100.0	142 47.5	140 46.8	40 13.4	9 3.0	8 2.7

問13 あなたには、将来の夢やなりたい職業がありますか。[1つに○]

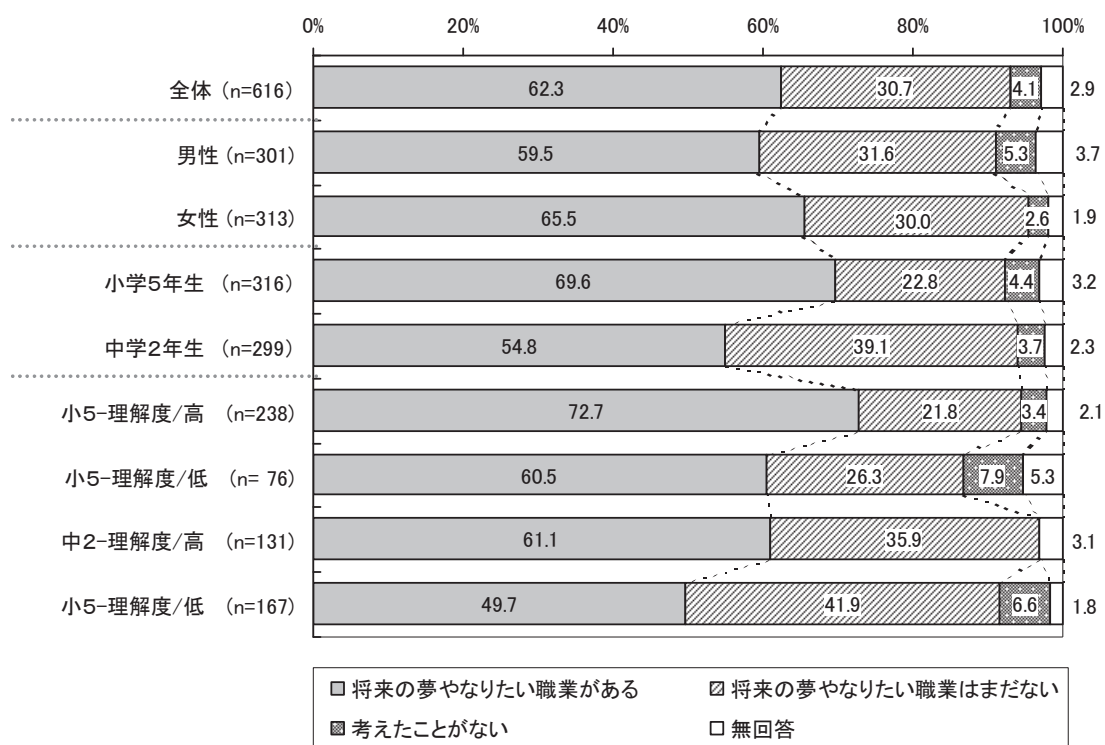
○将来の夢やなりたい職業があるかどうかについては、「将来の夢やなりたい職業がある」が62.3%、「将来の夢やなりたい職業はまだない」が30.7%となっている。「考えたことがない」は4.1%である。

○性別では、男性に比べ女性で「将来の夢やなりたい職業がある」(65.5%)の割合が多くなっている。

○学年では、小5に比べ中2で「将来の夢やなりたい職業はまだない」(39.1%)の割合が多くなっている。

○学年・授業の理解度別では、小5・中2ともに理解度が高い層で低い層に比べ「将来の夢やなりたい職業がある」との回答が多い。

■性別、学年別、学年×授業の理解度別



【将来の夢・なりたい職業】(339人より376件の意見)

- ・スポーツ選手(サッカー、野球、水泳、テニス、バドミントン、バスケットボール、スポーツトレーナー等) 56件
- ・医療・介護(看護師、医師、介護士、薬剤師、理学療法士、言語療法士等) 49件
- ・アート・表現(漫画家、芸能人、声優、ディズニーランドのキャスト、ダンサー、イラストレーター、YouTuber等) 46件
- ・教育(保育士、幼稚園教諭、教師、図書館司書、学者等) 46件
- ・食に関わる仕事(パティシエ、調理師、栄養士、寿司職人、漁師等) 32件
- ・行政・法律(消防士、警察官、科捜研、公務員、弁護士等) 28件
- ・科学技術・ものづくり(ゲームクリエイター、CGデザイナー、プログラマー、科学者、開発者等) 24件
- ・ファッション・美容(ファッションデザイナー、美容師、ネイリスト、メイクアップアーティスト等) 24件
- ・自然・動物に関わる仕事(獣医師、トリマー、生物学者、トレーナー、農家等) 21件
- ・乗り物・旅行関係(キャビンアテンダント、ホテルマン、整備士、通訳等) 21件
- ・建築・まちづくり(大工、建築家、植木職人等) 12件
- ・接客・小売(花屋、本・ゲーム屋、焼物店等) 8件
- ・その他(会社員、海外で働く、安定した仕事等) 5件
- ・金融(会計士、税理士、銀行員等) 4件

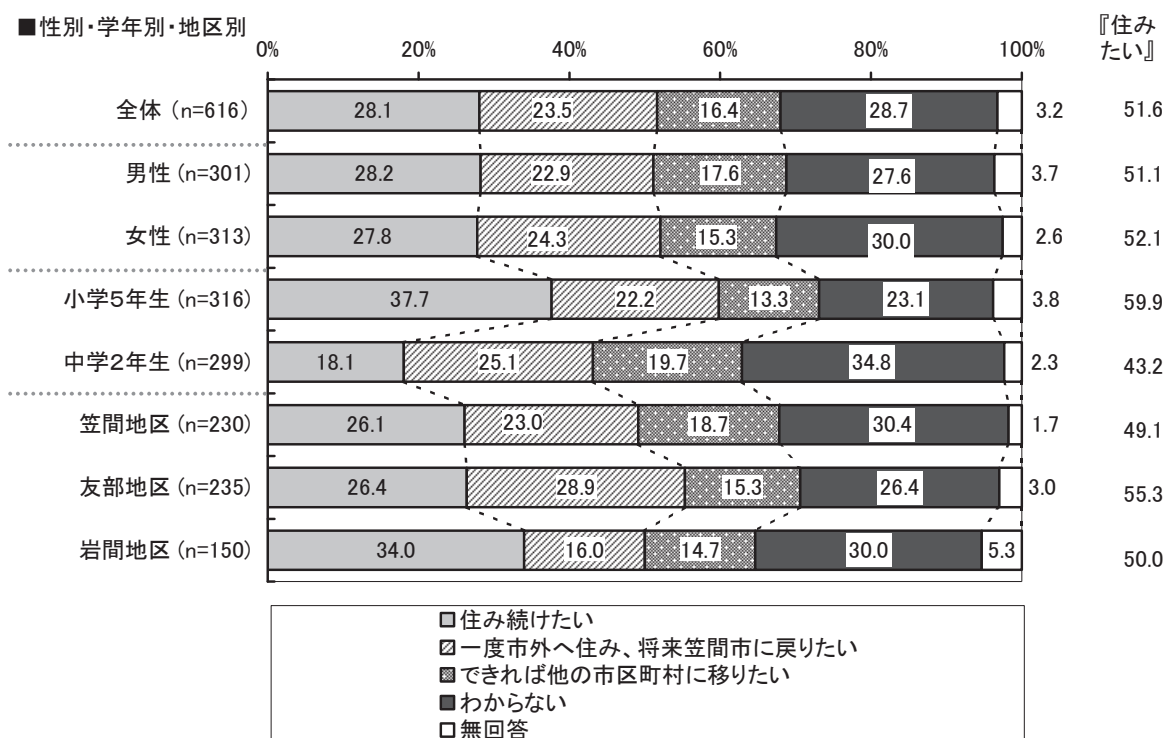
問14 あなたは、将来、笠間市に住み続けたいと思いますか。[1つに○]

○笠間市への定住意向については、「住み続けたい」(28.1%)と「一度市外へ住み、将来笠間市に戻りたい」(23.5%)を合わせた『住みたい』は51.6%と5割を超える。「できれば他の市区町村に移りたい」は16.4%である。

○性別では、大きな差は見られない。

○学年別では、小5は「住み続けたい」(37.7%)、中2は「わからない」(34.8%)との回答が最も多い。それに対応して『住みたい』割合は、小5で6割程度、中2で4割強となっている。

○地区別でみると、岩間地区で「住み続けたい」(34.0%)との割合が他の地区よりも多くなっている。他方、『住みたい』割合は、友部地区(55.3%)が最も多い。

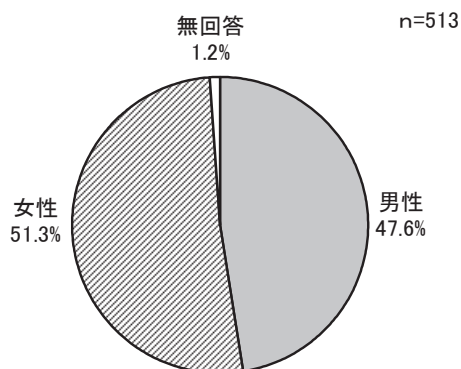


2 児童生徒保護者調査

(1) 子ども（児童生徒）について

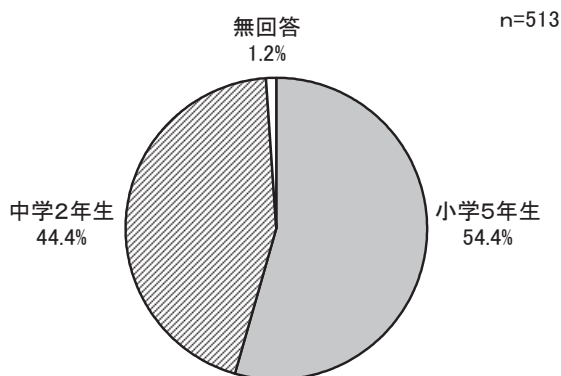
問1 お子さんの性別はどちらですか。[1つに○]

○子どもの性別は、「男性」が47.6%、「女性」が51.3%である。



問2 お子さんの学年は次のどちらですか。[1つに○]

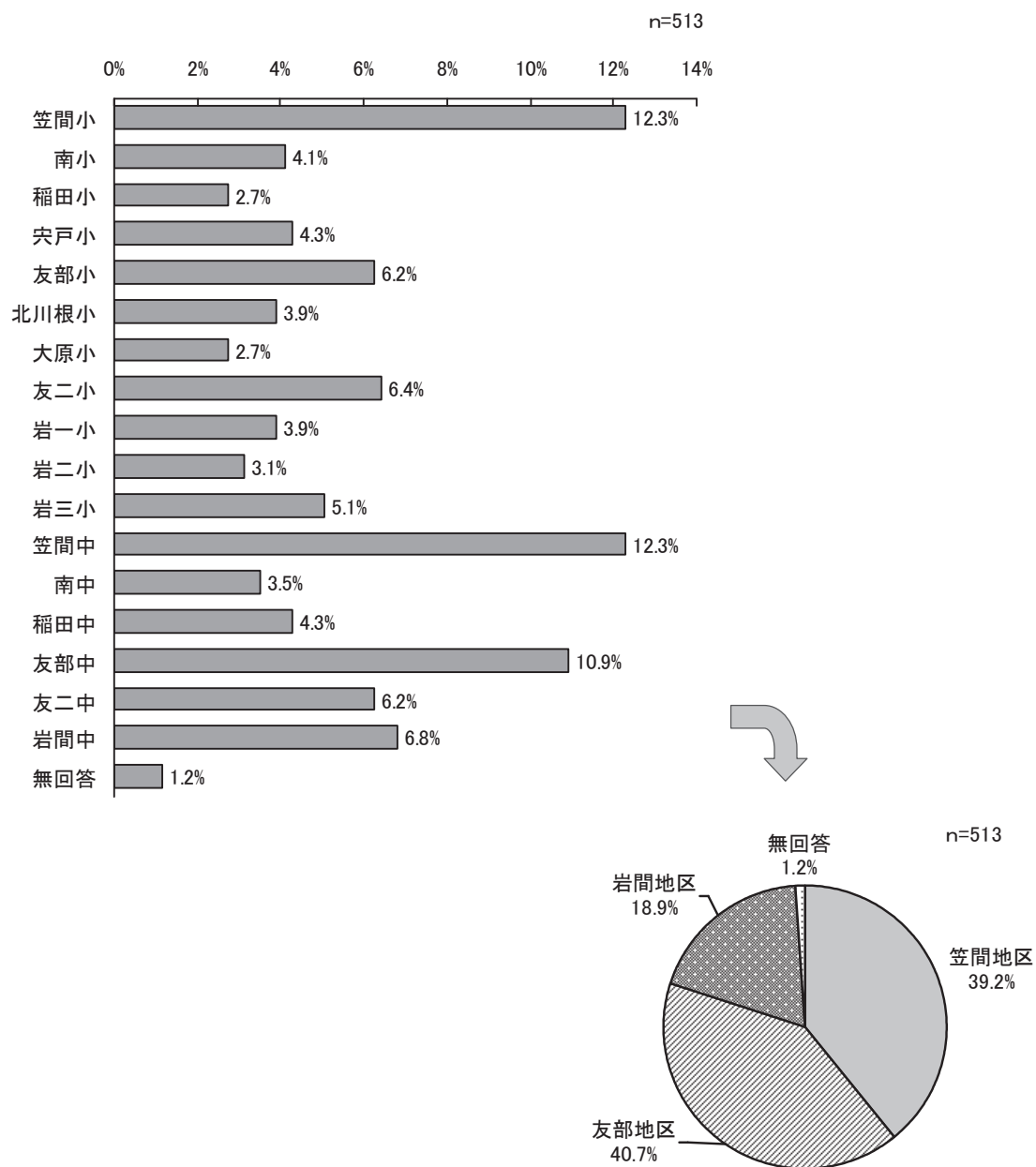
○子どもの学年については、「小学5年生」が54.4%、「中学2年生」が44.4%である。



問3 お子さんの通う学校はどちらですか。[1つに○]

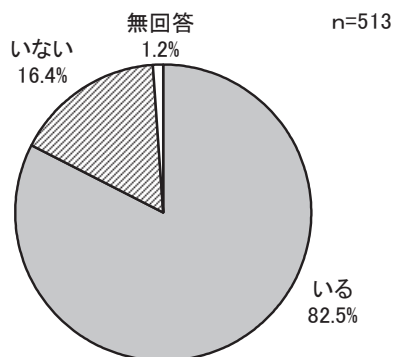
○子どもの通う学校については、「笠間小」(12.3%)、「笠間中」(12.3%)、「友部中」(10.9%)などで1割を超え多くなっている。

○地区別では、「笠間地区」(39.2%)、「友部地区」(40.7%)、「岩間地区」(18.9%)のようになっている。



問4 調査票を持ち帰ったお子さんに兄弟姉妹はいますか。[1つに○]

○子どもに兄弟姉妹がいるかどうかについては、「いる」が82.5%、「いない」が16.4%である。

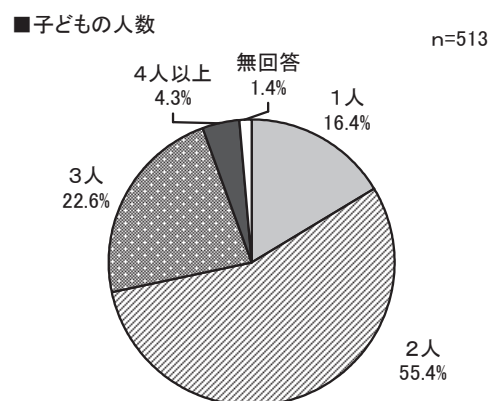
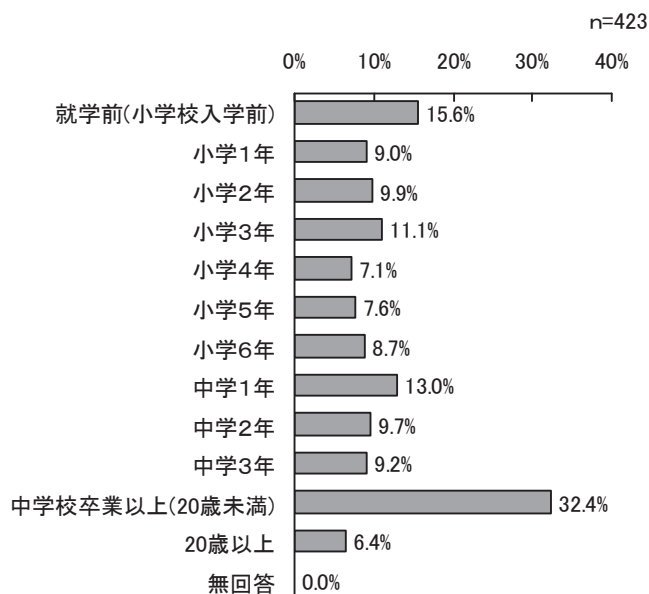


【問4で1と回答した方のみお答えください。】

問5 兄弟姉妹は何年生（何歳）ですか。[あてはまるものすべてに○]

○子どもの兄弟姉妹がいると回答した人に、兄弟姉妹の学年をたずねたところ、「中学校卒業以上(20歳未満)」(32.4%)が最も多く、次いで「就学前(小学校入学前)」(15.6%)、「中学1年」(13.0%)、「小学3年」(11.1%)などが続く。

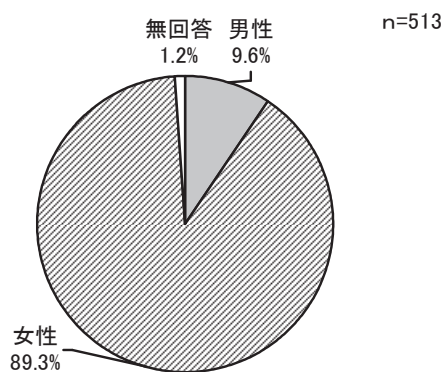
○また、問4・問5の回答より子どもの人数を算出したところ、「2人」(55.4%)が最も多く、次いで「3人」(22.6%)、「1人」(16.4%)、「4人以上」(4.3%)となっている。



(2) 回答者の属性

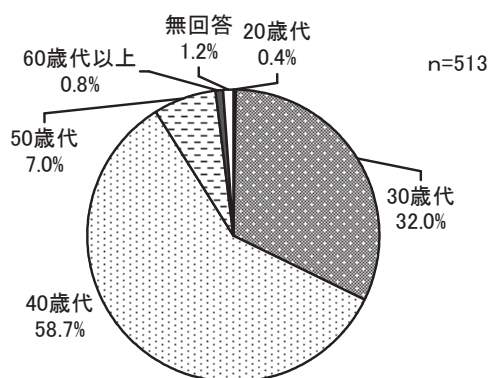
問6 あなたの性別はどちらですか。[1つに〇]

○回答者の性別は、「女性」が89.3%、「男性」が9.6%となっている。



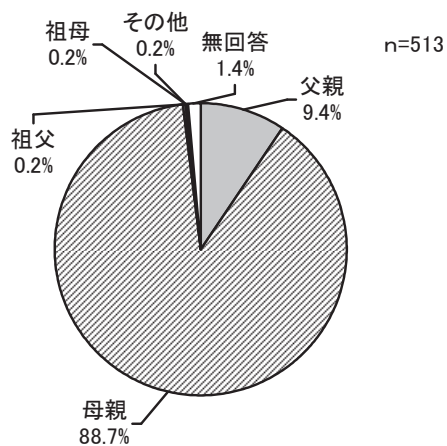
問7 あなたの年代はどちらですか。[1つに〇]

○回答者の年代は、「40歳代」(58.7%)と「30歳代」(32.0%)が多数を占め、その他の年代は数%にとどまる。



問8 あなたとお子さんの続柄は何ですか。[1つに〇]

○回答者と子どもの続柄は、「母親」が88.7%、「父親」が9.4%であり、その他の続柄を選択した人はごくわずかである。



(3) 学校教育や学校とのかかわりについて

問9 お子さんは、学校の授業をどのくらいわかっていると思いますか。[1つに○]

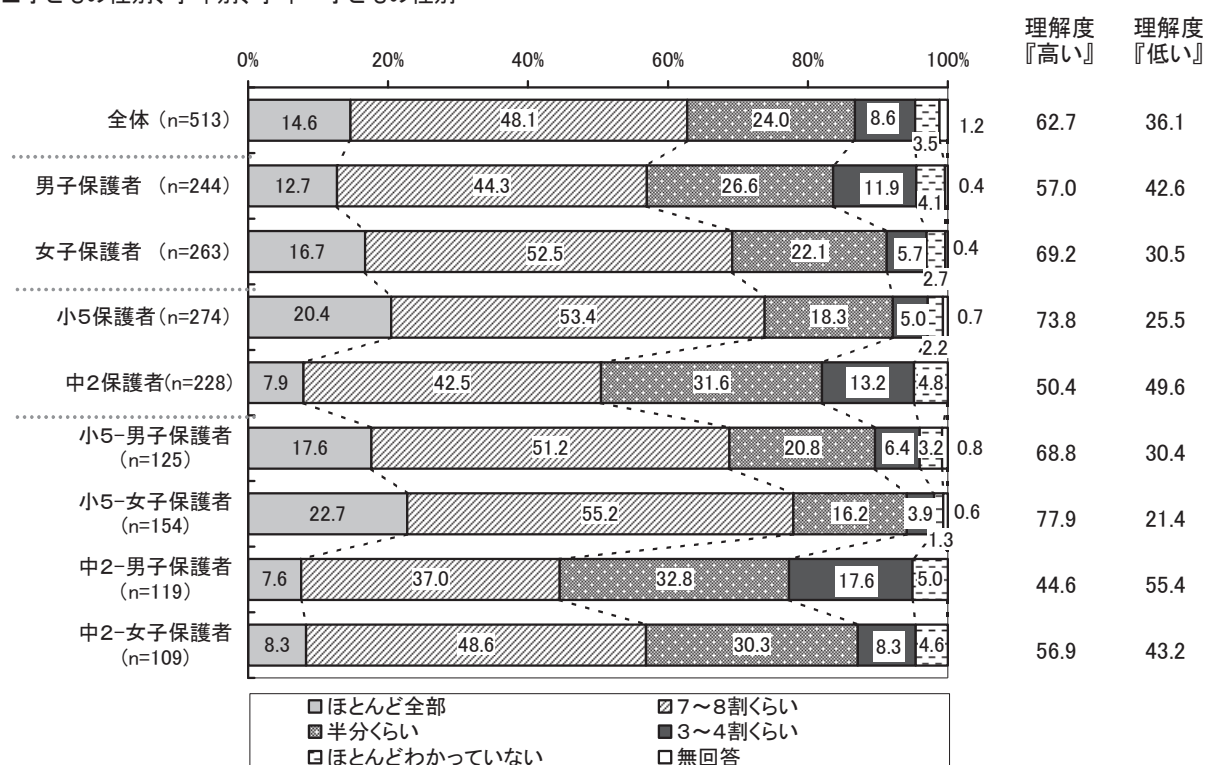
○子どもの授業の理解度については、「ほとんど全部」(14.6%)、「7～8割くらい」(48.1%)を合計した、授業の理解度が『高い』割合は62.7%である。「半分くらい」(24.0%)、「3～4割」(8.6%)、「ほとんどわかっていない」(3.5%)を合計した、授業の理解度が『低い』割合は36.1%である。

○子どもの性別でみると、男子保護者に比べ女子保護者で、授業の理解度が『高い』との回答が多くなっている。

○子どもの学年別では、中2に比べ小5で授業の理解度が『高い』との回答が多くなっている。

○学年×子どもの性別では、小5・中2ともに、女子保護者で理解度が『高い』との回答が多く、中2男子保護者では、理解度が『低い』との回答が、理解度が『高い』との回答を上回る。

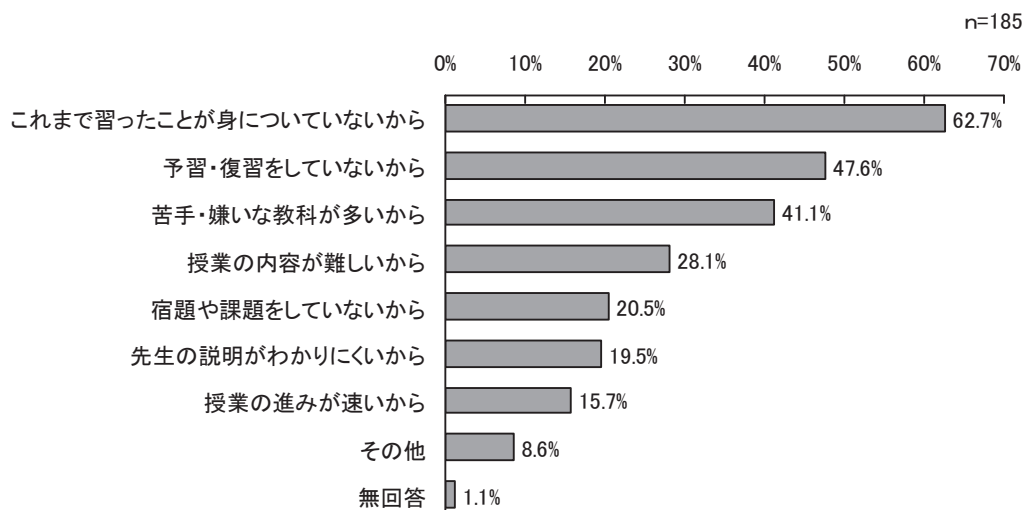
■子どもの性別、学年別、学年×子どもの性別



【問9で3～5を選んだ方のみお答えください。】

問10 お子さんが、授業がわからない原因は何だとお考えですか。[あてはまるものすべてに○]

○問9で子どもの授業の理解度が低いと答えた方に、その原因をたずねたところ、「これまで習ったことが身についていないから」(62.7%)が最も多く、次いで「予習・復習をしていないから」(47.6%)、「苦手・嫌いな教科が多いから」(41.1%)、「授業の内容が難しいから」(28.1%)となっている。



【その他回答】

- ・部活にほとんどの時間を取られているから(2件)
- ・本人のやる気(2件)
- ・家庭学習の時間が少なすぎる(2件)
- ・欠席・遅刻が多いから(2件)
- ・できないままでもどうにかなるという気持ち
- ・その日習ったもので分からないところをそのままに過ごしているため
- ・本人の理解が平均に追いついていないから
- ・分からないところが分からず質問できないのでは
- ・勉強方法が分からないのでは
- ・宿題が少ない
- ・先生のフォローがない 等

○子どもの性別では、男子保護者では「宿題や課題をしていないから」、女子保護者では「授業の内容が難しいから」「先生の説明がわかりにくいから」との回答が、互いの性別を上回る。

○子どもの学年別では、ほとんどの項目で中2の回答の割合が小5を上回る。特に「先生の説明がわかりにくいから」「授業の内容が難しいから」「予習・復習をしていないから」などで差が大きくなっている。

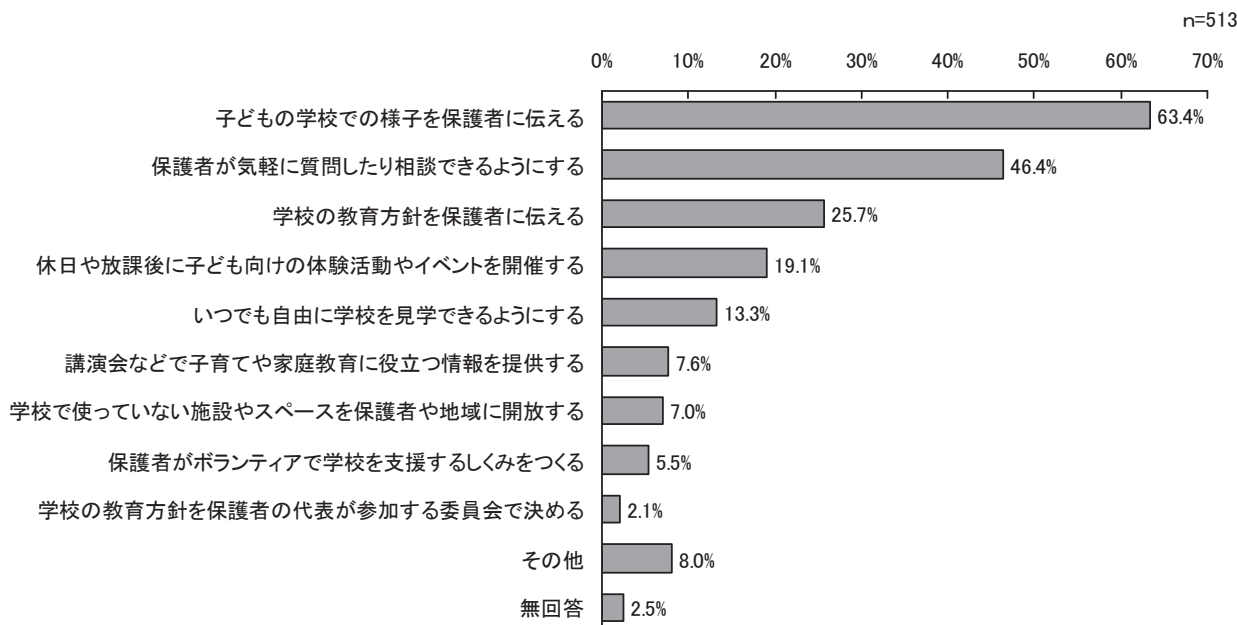
○学年・子どもの性別では、小5男子保護者で「宿題や課題をしていないから」「授業の進みが速いから」が2割を超え多い。小5女子保護者では「苦手・嫌いな教科が多いから」、中2男子保護者では「予習・復習をしていないから」が多くなっている。
中2女子では、「授業の内容が難しいから」「先生の説明がわかりにくいから」が4割を超えるなど、他の層を大きく上回る。

単位: 上段 人、下段 %

問10 授業がわからない原因		合計	これまで 習ったこと が身に ついて いない から	予習・復 習をして いない から	苦手・嫌 いな教 科が多 いから	授業の 内容が 難しい から	宿題や 課題を してい ない から	先生の 説明が わかり にくい から	授業の 進みが 速い から	その他	無回答
全体		185 100.0	116 62.7	88 47.6	76 41.1	52 28.1	38 20.5	36 19.5	29 15.7	16 8.6	2 1.1
問1 子どもの性別	男子保護者	104 100.0	65 62.5	54 51.9	40 38.5	23 22.1	24 23.1	16 15.4	18 17.3	9 8.7	1 1.0
	女子保護者	80 100.0	50 62.5	34 42.5	35 43.8	29 36.3	14 17.5	19 23.8	11 13.8	7 8.8	1 1.3
問2 子どもの学年	小5保護者	71 100.0	42 59.2	30 42.3	28 39.4	15 21.1	14 19.7	3 4.2	10 14.1	9 12.7	2 2.8
	中2保護者	113 100.0	73 64.6	58 51.3	47 41.6	37 32.7	24 21.2	32 28.3	19 16.8	7 6.2	0 0.0
学年×性別	小5男子保護者	38 100.0	21 55.3	15 39.5	12 31.6	5 13.2	10 26.3	3 7.9	8 21.1	7 18.4	1 2.6
	小5女子保護者	33 100.0	21 63.6	15 45.5	16 48.5	10 30.3	4 12.1	0 0.0	2 6.1	2 6.1	1 3.0
	中2男子保護者	66 100.0	44 66.7	39 59.1	28 42.4	18 27.3	14 21.2	13 19.7	10 15.2	2 3.0	0 0.0
	中2女子保護者	47 100.0	29 61.7	19 40.4	19 40.4	19 40.4	10 21.3	19 40.4	9 19.1	5 10.6	0 0.0

問11 あなたは、お子さんが通われている学校に、どのようなことを望みますか。
 [あてはまるものすべてに○]

○子どもが通う学校に望むことについては、「子どもの学校での様子を保護者に伝える」(63.4%)が最も多く、次いで「保護者が気軽に質問したり相談できるようにする」(46.4%)、「学校の教育方針を保護者に伝える」(25.7%)、「休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを開催する」(19.1%)となっている。



【その他回答】

- ・教育、学力の向上(2件)
- ・勉強をしっかりと教えていただきたい
- ・土曜日の午前中等に補習をしてほしい
- ・午前中だけでもいいので土曜も授業をしてほしい
- ・長期休み(夏休み等)のとき、学習会を開催
- ・水戸市のように夏休みを8月の3週目までにする
- ・塾みたいな頭の良くなるものにしてもらいたい
- ・希望者には月1・2回補習をしてほしい。授業で分からないことがあっても、その場で質問できる生徒ばかりではないので。
- ・復習(基礎)を中心にしたプリントなどを子どもが持ち帰って勉強できるようにしてほしいです。
- ・授業が終了してから、先生に質問しやすい環境を作ってほしい。
- ・いじめのない学校、子どものいじめの現状を伝えてほしい。(2件)
- ・子どもたちが先生方に納得いかないことがあるようです。
- ・子どもが楽しく安全に勉強できる環境を保つ(2件)
- ・不審者や犯罪等の不測の事態に対する迅速な対応
- ・学校がより良いところであるために頑張ってくださいれば、それが一番です
- ・課外授業
- ・施設の充実、エアコンの設置
- ・学力の向上を第一に考えてほしい。部活動に力を入れすぎだと思ふ。
- ・卓球部のやっている場所を変えてほしい
- ・部活の連絡をしっかりとる。集金網が見えない。
- ・活気。部活動も熱心に指導してほしい
- ・宿題を減らしてほしい
- ・親が学校に行く機会を減らしてほしい

○子どもの性別では、男女ともに、「子どもの学校での様子を保護者に伝える」が最も多いが、男子保護者の回答が女子保護者の回答を上回る。男子保護者では、「保護者が気軽に質問したり相談できるようにする」との回答についても女子保護者の回答を上回る。その他は大きな差は見られない。

○子どもの学年別では、小5保護者の「休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを開催する」との回答が中2保護者を大きく上回る。

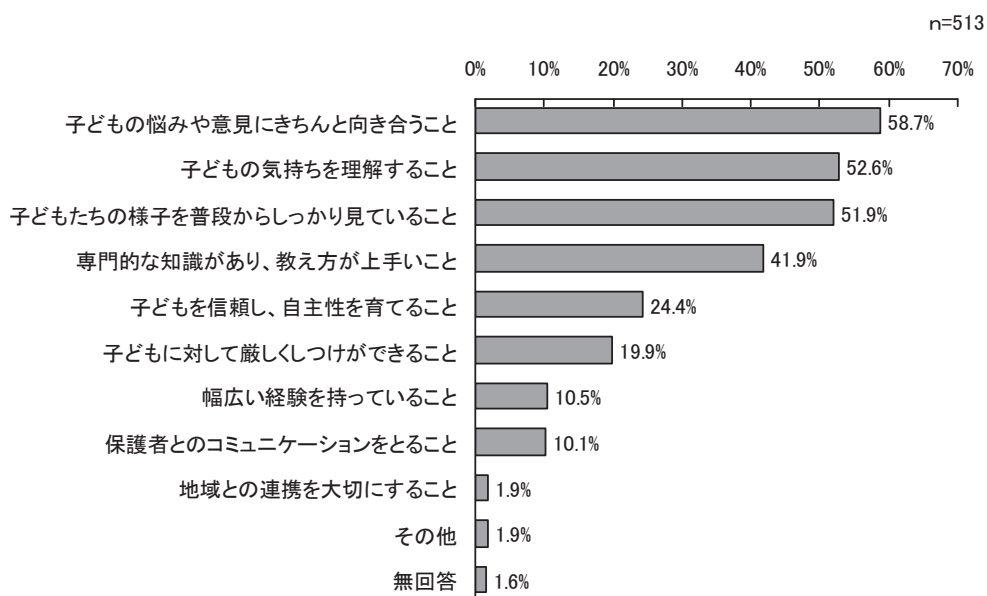
単位:上段 人、下段 %

問11 学校へ望むこと		合計	子どもの学校での様子を保護者に伝える	保護者が気軽に質問したり相談できるようにする	学校の教育方針を保護者に伝える	休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを開催する	いつでも自由に学校を見学できるようにする	講演会などで子育てや家庭教育に役立つ情報を提供する
全体		513 100.0	325 63.4	238 46.4	132 25.7	98 19.1	68 13.3	39 7.6
問1 子どもの性別	男子保護者	244 100.0	162 66.4	122 50.0	64 26.2	45 18.4	35 14.3	23 9.4
	女子保護者	263 100.0	162 61.6	116 44.1	68 25.9	53 20.2	33 12.5	16 6.1
問2 子どもの学年	小5保護者	279 100.0	184 65.9	126 45.2	66 23.7	68 24.4	38 13.6	20 7.2
	中2保護者	228 100.0	140 61.4	112 49.1	66 28.9	30 13.2	30 13.2	19 8.3

問11 学校へ望むこと		合計	学校で使っていない施設やスペースを保護者や地域に開放	保護者がボランティアで学校を支援するしくみをつくる	学校の教育方針を保護者の代表が参加する委員会で決定	その他	無回答
全体		513 100.0	36 7.0	28 5.5	11 2.1	41 8.0	13 2.5
問1 子どもの性別	男子保護者	244 100.0	17 7.0	13 5.3	7 2.9	19 7.8	7 2.9
	女子保護者	263 100.0	19 7.2	15 5.7	4 1.5	22 8.4	6 2.3
問2 子どもの学年	小5保護者	279 100.0	18 6.5	13 4.7	5 1.8	15 5.4	13 4.7
	中2保護者	228 100.0	18 7.9	15 6.6	6 2.6	26 11.4	0 0.0

問12 あなたは学校の教員にどのようなことを期待しますか。[主なもの3つまでに○]

○学校の教員に望むことについては、「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」(58.7%)が最も多く、次いで「子どもの気持ちを理解すること」(52.6%)、「子どもたちの様子を普段からしっかり見ていること」(51.9%)、「専門的な知識があり、教え方が上手いこと」(19.1%)となっている。



○子どもの性別では、男女ともに「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」が最も多い。女子保護者で、「子どもを信頼し、自主性を育てること」との回答が男子保護者を上回る。

○子どもの学年別では、小5・中2ともに「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」が最も多いが、回答の割合については、小5が中2を6ポイント近く上回る。学年で差がみられるのは、小5の「子どもたちの様子を普段からしっかり見ていること」、中2の「専門的な知識があり、教え方が上手いこと」であり、それぞれ互いを上回る。

単位：上段 人、下段 %

問12 教員へ期待すること		合計	子どもの 悩みや意 見にきち んと向き 合うこと	子どもの 気持ちを 理解する こと	子どもた ちの様子 を普段か らしっかり 見ている こと	専門的な 知識があ り、教え 方が上手 いこと	子どもを 信頼し、 自主性を 育てること	子どもに 対して厳 しくつけ ができるこ と
全体		513 100.0	301 58.7	270 52.6	266 51.9	215 41.9	125 24.4	102 19.9
問1 子どもの性別	男子保護者	244 100.0	141 57.8	133 54.5	127 52.0	102 41.8	53 21.7	51 20.9
	女子保護者	263 100.0	158 60.1	137 52.1	138 52.5	111 42.2	72 27.4	50 19.0
問2 子どもの学年	小5保護者	279 100.0	172 61.6	146 52.3	153 54.8	103 36.9	70 25.1	54 19.4
	中2保護者	228 100.0	127 55.7	124 54.4	112 49.1	110 48.2	55 24.1	47 20.6

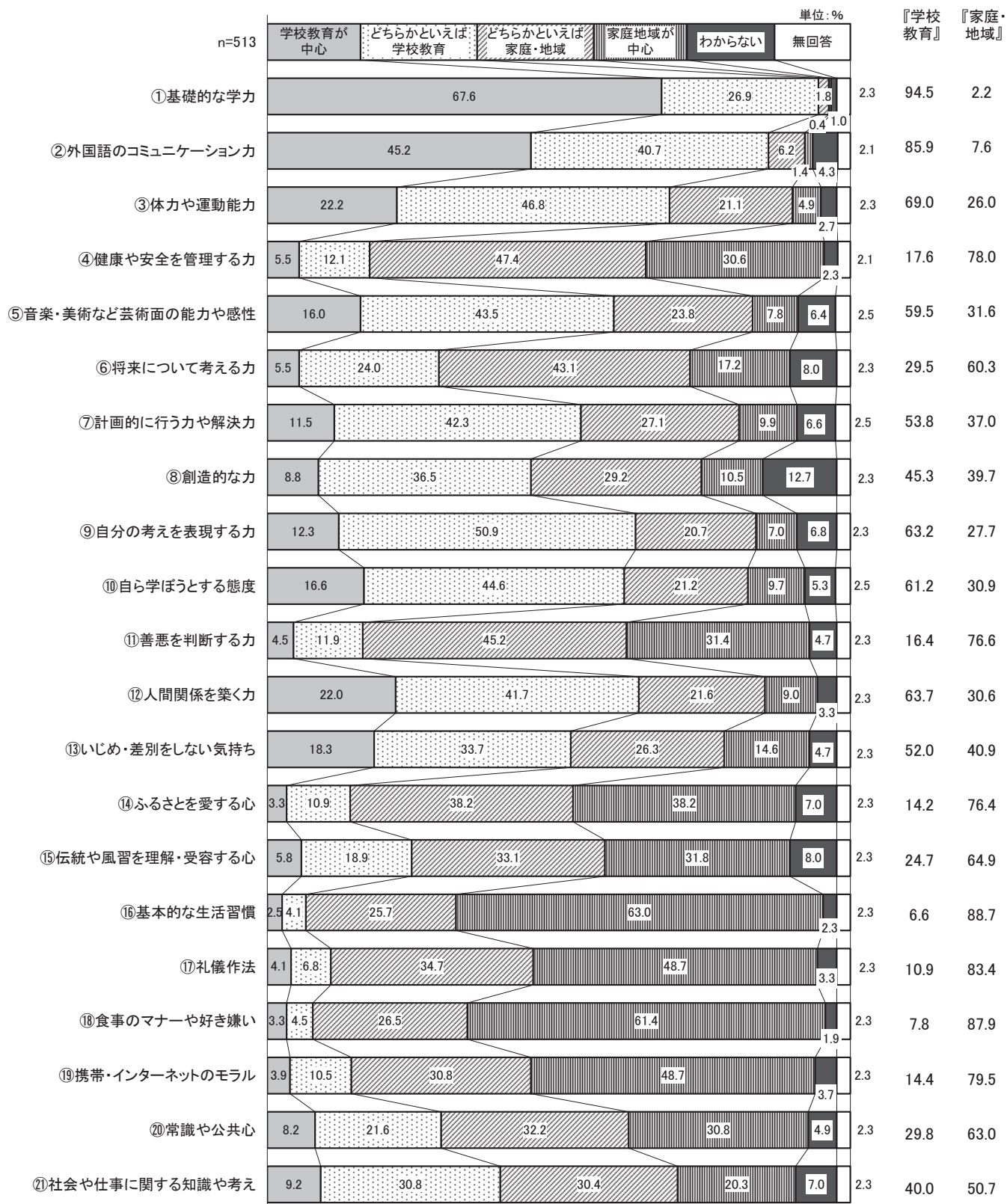
問12 教員へ期待すること		合計	幅広い経 験を持っ ていること	保護者と のコミュニ ケーション をとること	地域との 連携を大 切にするこ と	その他	無回答
全体		513 100.0	54 10.5	52 10.1	10 1.9	10 1.9	8 1.6
問1 子どもの性別	男子保護者	244 100.0	29 11.9	26 10.7	4 1.6	2 0.8	3 1.2
	女子保護者	263 100.0	25 9.5	26 9.9	5 1.9	8 3.0	2 0.8
問2 子どもの学年	小5保護者	279 100.0	30 10.8	31 11.1	5 1.8	6 2.2	1 0.4
	中2保護者	228 100.0	24 10.5	21 9.2	4 1.8	4 1.8	4 1.8

問 13 (1) 次の項目は、「学校教育」と「家庭・地域」が協力して、お子さんに身に付けさせたい力ですが、「学校教育」と「家庭・地域」のどちらが主となって取り組むべきと思いますか。(2) また、それぞれの力がお子さんに身に付いていると思いますか。
[それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○]

① 取組の主体

○子どもに身に付けさせたい力の取組主体については、「学校教育が中心」と「どちらかといえば学校教育」を合わせた『学校教育』が6割を超えるのは、「①教科の基礎的な学力」(94.5%)、「②外国語を使ってコミュニケーションする力」(85.9%)、「③体力や運動能力」(69.0%)、「⑫友だちと仲良くなるなど人間関係を築く力」(63.7%)、「⑨自分の考えを表現する力」(63.2%)、「⑩自ら学ぼうとする態度」(61.2%)など6項目である。

○反対に、「家庭・地域が中心」と「どちらかといえば家庭・地域」を合わせた『家庭・地域』が6割を超えるのは、「⑩基本的な生活習慣」(88.7%)、「⑱食事のマナーや好き嫌いのない食事」(87.9%)、「⑰言葉づかいなど礼儀作法」(83.4%)、「④健康や安全を管理する力」(78.0%)、「⑪善悪を判断する力」(76.6%)、「⑭ふるさとを愛する心」(76.4%)、「⑳社会生活に必要な常識や公共心」(63.0%)、「⑥自己をみつめ、将来について考える力」(60.3%)など8項目となっている。



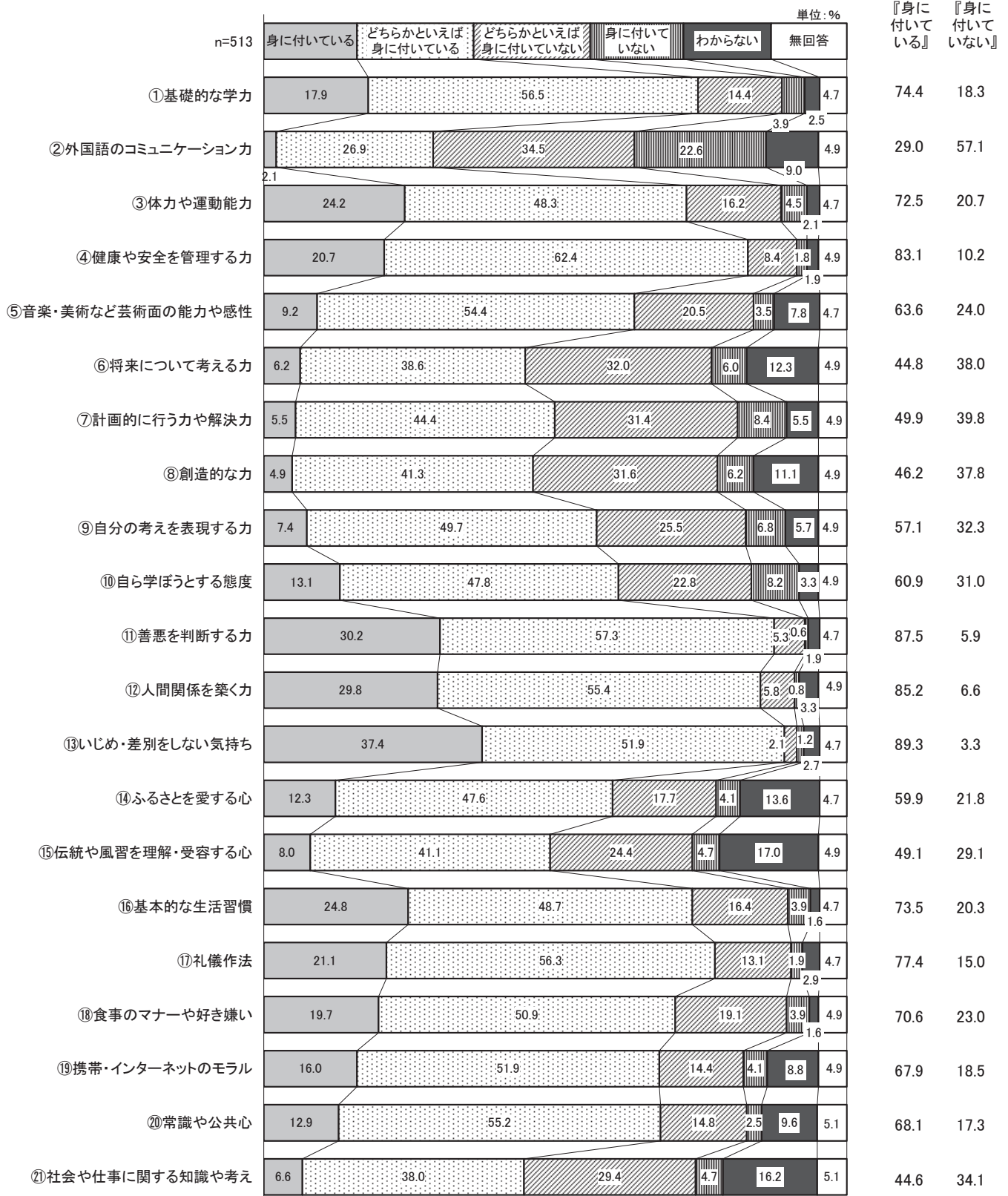
② 子どもに身に付いているか

○それぞれの力が子どもに身に付いているかどうかについてたずねた。

「②外国語を使ってコミュニケーションする力」を除き、「②「身に付いている」と「どちらかといえば身に付いている」を合わせた『身に付いている』が「身に付いていない」と「どちらかといえば身に付いている」を合わせた『身に付いていない』を上回っている。

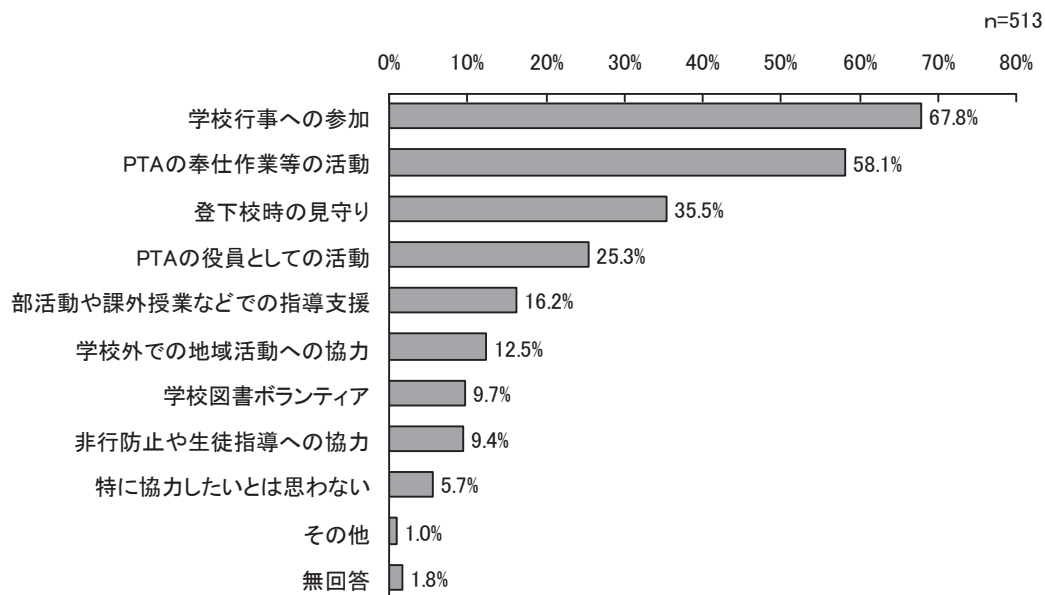
○『身に付いている』が『身に付いていない』を50ポイント以上上回るのは、「⑬いじめ・差別をしない気持ち」「⑪善悪を判断する力」「⑫友だちと仲良くなるなど人間関係を築く力」「④健康や安全を管理する力」「⑰言葉づかいなど礼儀作法」「①教科の基礎的な学力」「③体力や運動能力」「⑳社会生活に必要な常識や公共心」など8項目となっている。

○『身に付いていない』は、「②外国語を使ってコミュニケーションする力」(57.1%)の他、「⑦ものごとを計画的に行う力や解決する力」(39.8%)、「⑥自己を見つめ、将来について考える力」(38.0%)、「⑧新しいものごとを生み出す創造的な力」(37.8%)、「⑨自分の考えを表現する力」(32.3%)、「⑩自ら学ぼうとする態度」(31.0%)の6項目で3割を超え、やや多くなっている。



問14 お子さんの通っている学校と協力したり、参加しても良いと思う活動はありますか。
 [あてはまるものすべてに○]

○子どもの通う学校へ協力や参加してもよいと思う活動については、「学校行事への参加」(67.8%)が最も多く、次いで「PTAの奉仕作業等の活動」(58.1%)、やや差があり「登下校時の見守り」(35.5%)、「PTAの役員としての活動」(25.3%)となっている。



○子どもの性別でみると、男女ともに「学校行事への参加が」最も多くなっている。男子保護者の回答が女子保護者を上回るのは、「部活動や課外授業などでの指導支援」や「学校外での地域活動への協力」となっている。反対に女子保護者の回答が男子保護者を上回るのは、「登下校の見守り」である。

○子どもの学年別では、小5・中2ともに「学校行事への参加」が最も多くなっている。小5保護者では「登下校の見守り」との回答が中2保護者を大きく上回る。

○子どもの学年・性別では、いずれの層も「学校行事への参加」が最も多くなっている。差が見られるのは、小5女子保護者の「登下校の見守り」で4割を超え、他の層を大きく上回る。小5男子保護者では「学校図書ボランティア」との回答がやや多くなっている。

単位: 上段 人、下段 %

問14 協力・参加できる活動		合計	学校行事 への参加	PTAの奉 仕作業等 の活動	登下校時 の見守り	PTAの役 員として の活動	部活動や 課外授業 などでの 指導支援	学校外で の地域活 動への協 力
全体		513 100.0	348 67.8	298 58.1	182 35.5	130 25.3	83 16.2	64 12.5
問1 子どもの性別	男子保護者	244 100.0	172 70.5	140 57.4	80 32.8	57 23.4	45 18.4	33 13.5
	女子保護者	263 100.0	175 66.5	158 60.1	101 38.4	73 27.8	38 14.4	31 11.8
問2 子どもの学年	小5保護者	279 100.0	195 69.9	163 58.4	118 42.3	75 26.9	48 17.2	36 12.9
	中2保護者	228 100.0	152 66.7	135 59.2	63 27.6	55 24.1	35 15.4	28 12.3
学年×性別	小5男子保護者	125 100.0	89 71.2	70 56.0	48 38.4	33 26.4	24 19.2	19 15.2
	小5女子保護者	154 100.0	106 68.8	93 60.4	70 45.5	42 27.3	24 15.6	17 11.0
	中2男子保護者	119 100.0	83 69.7	70 58.8	32 26.9	24 20.2	21 17.6	14 11.8
	中2女子保護者	109 100.0	69 63.3	65 59.6	31 28.4	31 28.4	14 12.8	14 12.8

問14 協力・参加できる活動		合計	学校図書 ボラン ティア	非行防止 や生徒指 導への協 力	特に協力 したいと は思わな い	その他	無回答
全体		513 100.0	50 9.7	48 9.4	29 5.7	5 1.0	9 1.8
問1 子どもの性別	男子保護者	244 100.0	26 10.7	23 9.4	14 5.7	1 0.4	6 2.5
	女子保護者	263 100.0	24 9.1	25 9.5	14 5.3	4 1.5	3 1.1
問2 子どもの学年	小5保護者	279 100.0	34 12.2	24 8.6	17 6.1	4 1.4	8 2.9
	中2保護者	228 100.0	16 7.0	24 10.5	11 4.8	1 0.4	1 0.4
学年×性別	小5男子保護者	125 100.0	17 13.6	12 9.6	9 7.2	0 0.0	5 4.0
	小5女子保護者	154 100.0	17 11.0	12 7.8	8 5.2	4 2.6	3 1.9
	中2男子保護者	119 100.0	9 7.6	11 9.2	5 4.2	1 0.8	1 0.8
	中2女子保護者	109 100.0	7 6.4	13 11.9	6 5.5	0 0.0	0 0.0

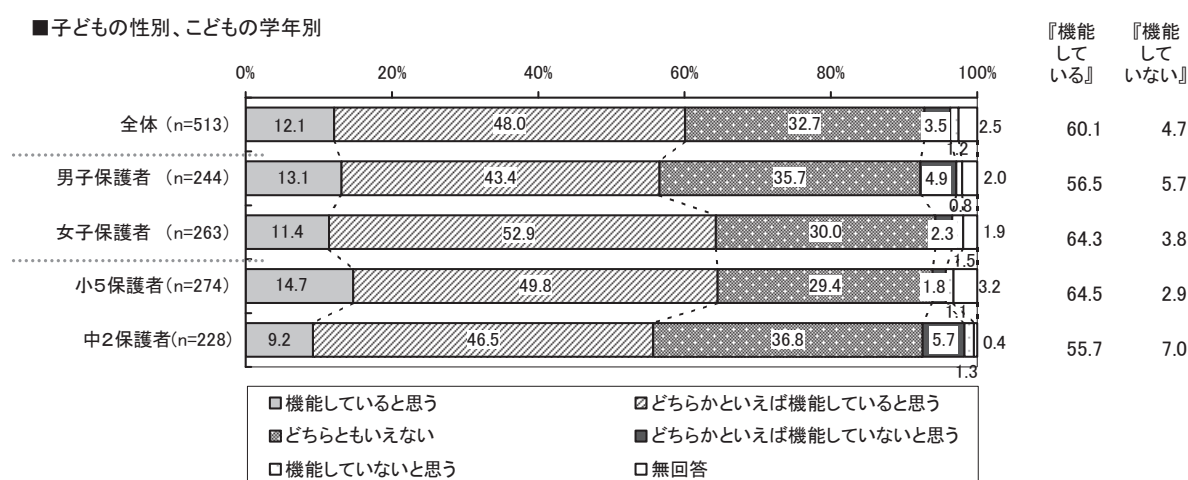
(4) 家庭・地域での教育について

問15 現在の状況を見て、家庭や地域の教育力が機能していると思いますか。
[それぞれ1つに○]

① 家庭の教育力

○家庭の教育力については、「機能していると思う」(12.1%)、「どちらかといえば機能していると思う」(48.0%)を合計した『機能している』との回答は60.1%となっている。

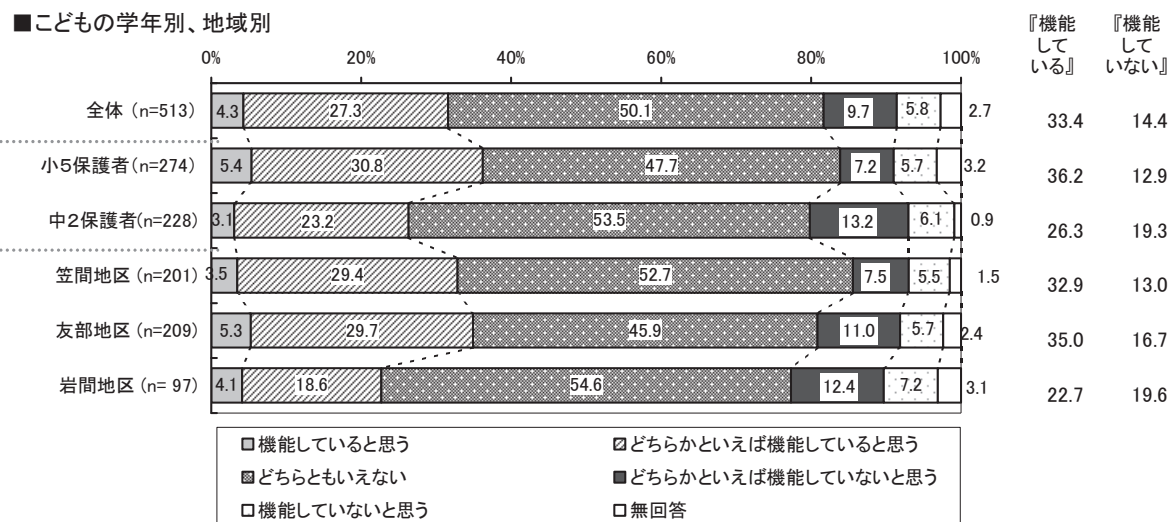
○子どもの性別では、男子保護者に比べ女子保護者で『機能している』との回答が多くなっている。子どもの学年別では、中2保護者に比べ小5保護者で『機能している』との回答が多くなっている。



② 地域の教育力

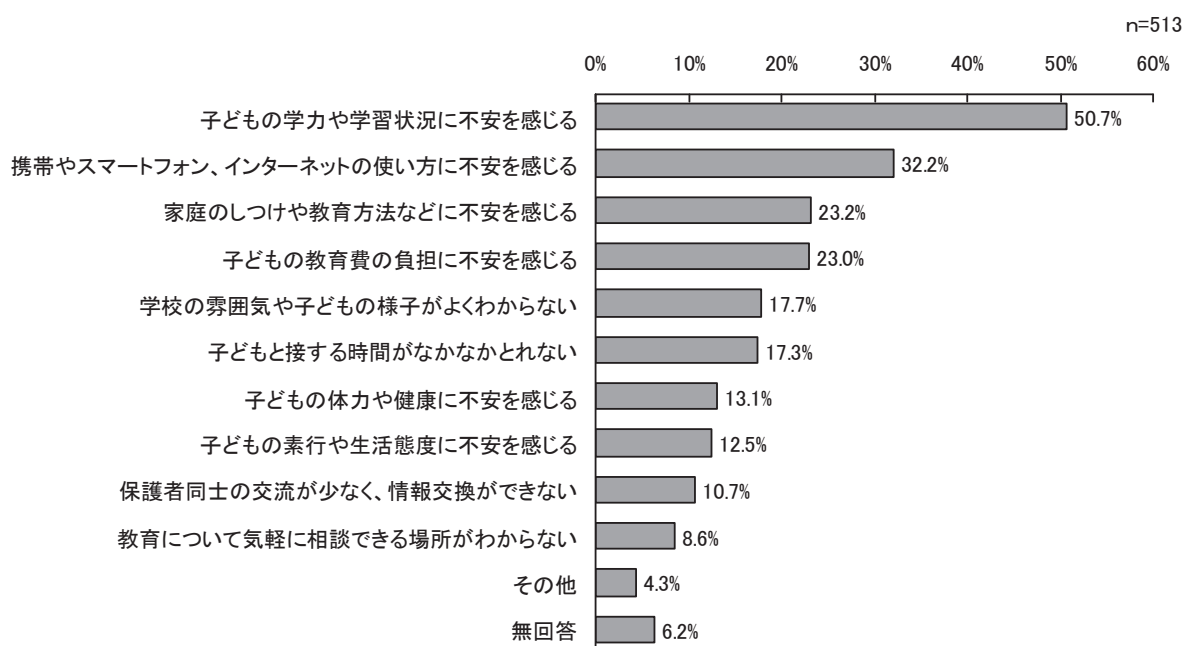
○地域の教育力については、「機能していると思う」(4.3%)、「どちらかといえば機能していると思」(27.3%)を合計した『機能している』との回答は31.6%にとどまる。

○子どもの学年別では、中2保護者に比べ小5保護者で『機能している』との回答が多くなっている。地区別では、友部地区と笠間地区で『機能している』が3割を超え多い。



問16 家庭での教育についてお困りのことはありますか。[あてはまるものすべてに○]

○家庭での教育での困りごとについては、「子どもの学力や学習状況に不安を感じる」(50.7%)が5割を超え最も多く、次いで「携帯やスマートフォン、インターネットの使い方などに不安を感じる」(32.2%)、「家庭のしつけや教育方法などに不安を感じる」(23.2%)、「子どもの教育費の負担に不安を感じる」(23.0%)となっている。



○子どもの性別でみると、多くの項目で男子保護者の回答の割合が女子保護者を上回る。
特に「子どもの学力や学習状況に不安を感じる」「携帯やスマホ、インターネットの使い方に不安を感じる」「家庭のしつけや教育方法などに不安を感じる」などでやや差がある。

○子どもの学年別では、小5保護者で「家庭のしつけや教育方法などに不安を感じる」、中2保護者で「子どもの学力や学習状況に不安を感じる」「携帯やスマホ、インターネットの使い方に不安を感じる」「子どもの教育費の負担に不安を感じる」との回答が多くなっている。

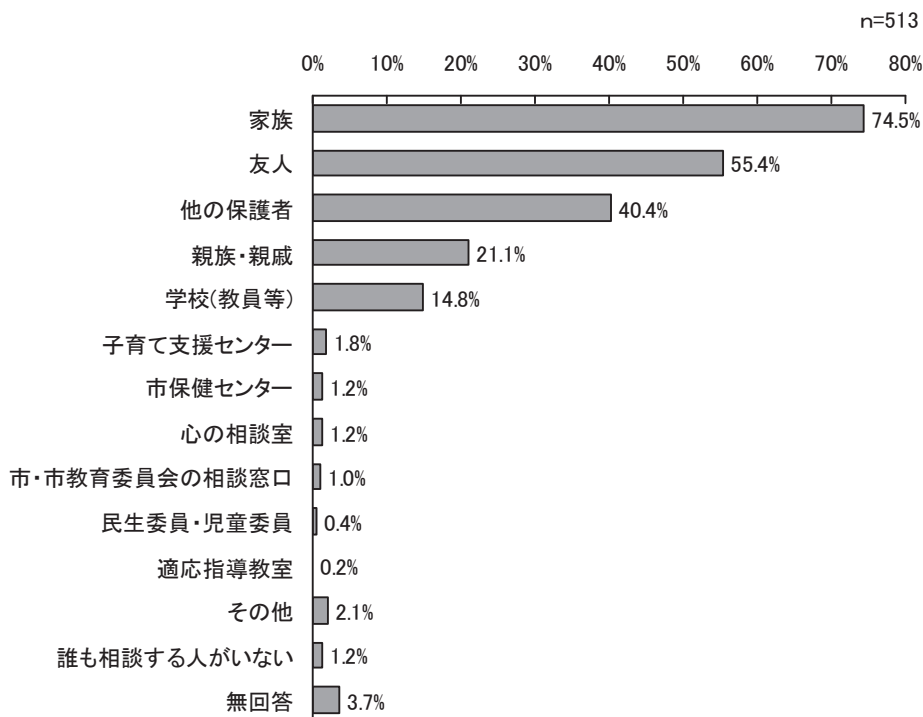
単位: 上段 人、下段 %

問16 家庭教育の困りごと		合計	子どもの 学力や学 習状況に 不安を感 じる	携帯やス マホ、イン ターネット の使い方 に不安を 感じる	家庭のし つけや教 育方法な どに不安 を感じる	子どもの 教育費の 負担に不 安を感じ る	学校の雰 囲気や子 どもの様 子がよく わからない	子どもと 接する時 間がなか なかとれ ない
全体		513 100.0	260 50.7	165 32.2	119 23.2	118 23.0	91 17.7	89 17.3
問1 子どもの性別	男子保護者	244 100.0	138 56.6	86 35.2	63 25.8	61 25.0	44 18.0	44 18.0
	女子保護者	263 100.0	120 45.6	79 30.0	55 20.9	56 21.3	46 17.5	44 16.7
問2 子どもの学年	小5保護者	279 100.0	116 41.6	81 29.0	73 26.2	50 17.9	47 16.8	52 18.6
	中2保護者	228 100.0	142 62.3	84 36.8	45 19.7	67 29.4	43 18.9	36 15.8

問16 家庭教育の困りごと		合計	子どもの 体力や健 康に不安 を感じる	子どもの 素行や生 活態度に 不安を感 じる	保護者同 士の交流 が少なく、 情報交換 ができない	教育につ いて気軽 に相談で きる場所 がわから ない	その他	無回答
全体		513 100.0	67 13.1	64 12.5	55 10.7	44 8.6	22 4.3	32 6.2
問1 子どもの性別	男子保護者	244 100.0	33 13.5	33 13.5	31 12.7	21 8.6	5 2.0	12 4.9
	女子保護者	263 100.0	33 12.5	31 11.8	24 9.1	23 8.7	17 6.5	20 7.6
問2 子どもの学年	小5保護者	279 100.0	38 13.6	36 12.9	26 9.3	24 8.6	15 5.4	31 11.1
	中2保護者	228 100.0	28 12.3	28 12.3	29 12.7	20 8.8	7 3.1	1 0.4

問17 家庭の教育での困り事について、誰かに相談しましたか。[あてはまるものすべてに○]

○家庭での教育での困りごとの相談相手については、「家族」(74.5%)が群を抜いて多く、次いで「友人」(55.4%)、「他の保護者」(40.4%)、やや差があり「親族・親戚」(21.1%)、「学校(教員等)」(14.8%)となっている。「誰も相談する人がいない」やその他の相談機関等の回答は数%にとどまる。



○子どもの性別でみると、ほとんどの項目で大きな差は見られないが、男子保護者では「学校(教員等)」との回答が女子保護者を大きく上回る。

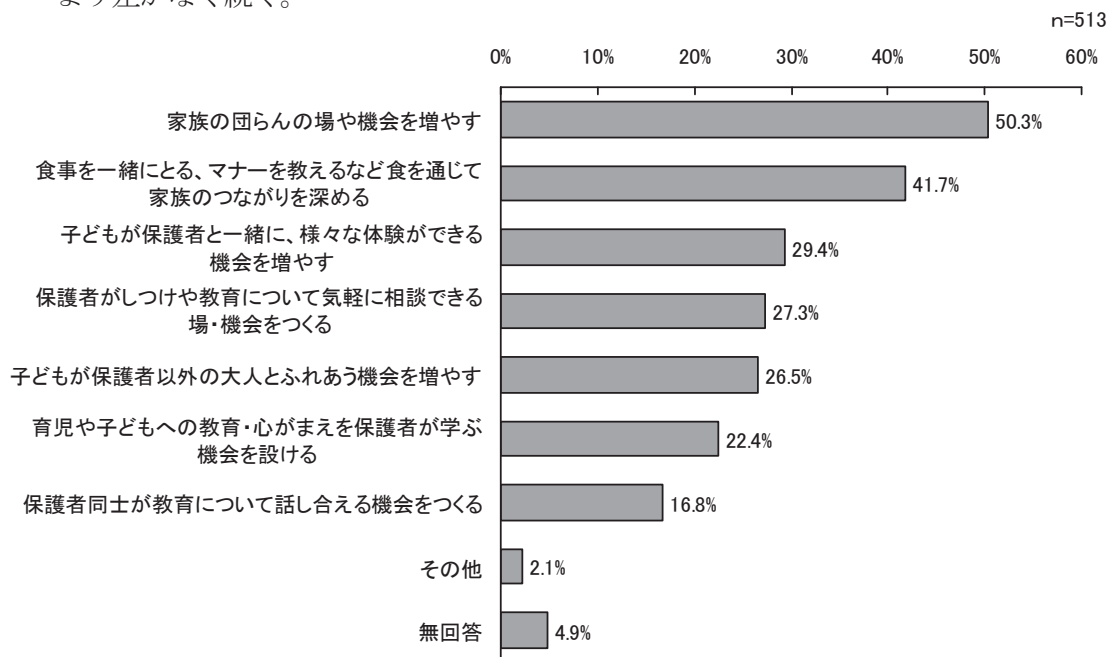
単位: 上段 人、下段 %

問17 相談相手	合計	家族	友人	他の保護者	親族・親戚	学校(教員等)	子育て支援センター	市保健センター
全体	513 100.0	382 74.5	284 55.4	207 40.4	108 21.1	76 14.8	9 1.8	6 1.2
問1 子どもの性別								
男子保護者	244 100.0	186 76.2	140 57.4	101 41.4	54 22.1	49 20.1	6 2.5	3 1.2
女子保護者	263 100.0	194 73.8	143 54.4	105 39.9	54 20.5	27 10.3	3 1.1	3 1.1

問17 相談相手	合計	心の相談室	市・市教育委員会の相談窓口	民生委員・児童委員	適応指導教室	その他	誰も相談する人がいない	無回答
全体	513 100.0	6 1.2	5 1.0	2 0.4	1 0.2	11 2.1	6 1.2	19 3.7
問1 子どもの性別								
男子保護者	244 100.0	5 2.0	3 1.2	2 0.8	1 0.4	6 2.5	4 1.6	10 4.1
女子保護者	263 100.0	1 0.4	2 0.8	0 0.0	0 0.0	5 1.9	2 0.8	9 3.4

問18 あなたは、家庭の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。
[主なものを3つまでに○]

○家庭の教育力を高めるための取組については、「家族の団らんの場や機会を増やす」(50.3%)、「食事を一緒にとる、マナーを教えるなど食を通じて家族のつながりを深める」(41.7%)が多く、「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」(29.4%)、「保護者がしつけや教育について気軽に相談できる場・機会をつくる」(27.3%)、「子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」(26.5%)などが、あまり差がなく続く。



○子どもの性別でみると、男子保護者では「保護者がしつけや教育について気軽に相談できる場・機会をつくる」「育児や子どもへの教育・心がまえを保護者が学ぶ機会を設ける」の回答が女子保護者を上回る。一方、女子保護者では「家族の団らんの場や機会を増やす」の回答が男子保護者を大きく上回る。

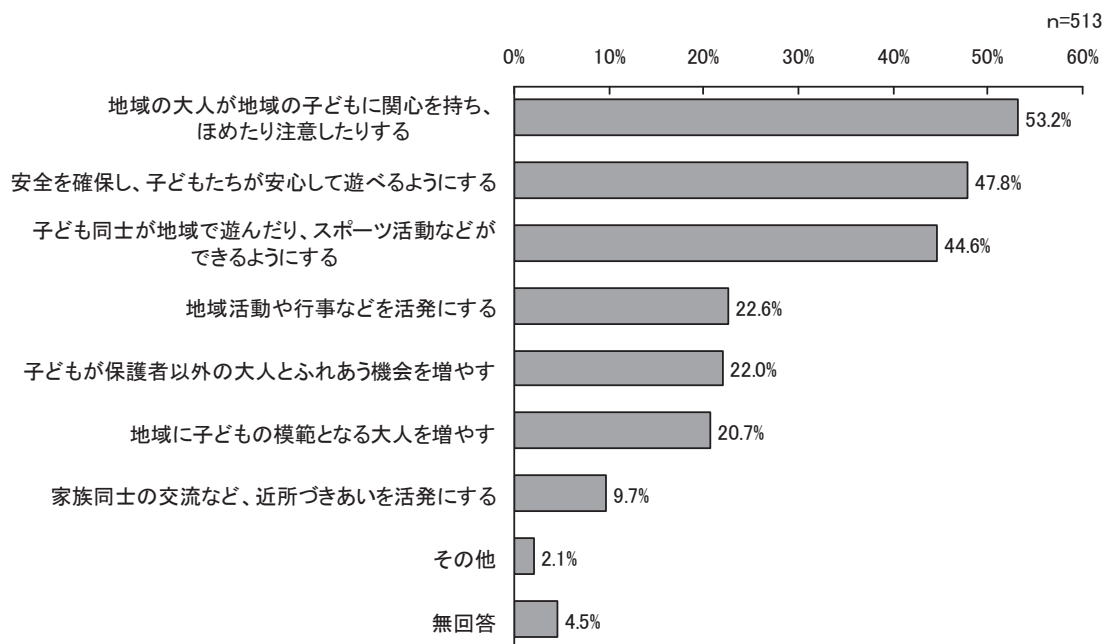
○子どもの学年別では、小5保護者で「家族の団らんの場や機会を増やす」「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」、中2保護者で「保護者同士が教育について話し合える機会をつくる」との回答が多くなっている。

単位: 上段 人、下段 %

問18 家庭の教育力向上への取組	合計	家族の団らんの場や機会を増やす	食事を一緒にとる、マナーを教えるなど食を通じて家族のつながりを深める	子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす	保護者がしつけや教育について気軽に相談できる場・機会をつくる	子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす	育児や子どもへの教育・心がまえを保護者が学ぶ機会を設ける	保護者同士が教育について話し合える機会をつくる	その他	無回答
全体	513 100.0	258 50.3	214 41.7	151 29.4	140 27.3	136 26.5	115 22.4	86 16.8	11 2.1	25 4.9
問1 子どもの性別										
男子保護者	244 100.0	108 44.3	99 40.6	70 28.7	78 32.0	65 26.6	62 25.4	39 16.0	6 2.5	14 5.7
女子保護者	263 100.0	148 56.3	113 43.0	80 30.4	61 23.2	71 27.0	53 20.2	47 17.9	5 1.9	8 3.0
問2 子どもの学年										
小5保護者	279 100.0	149 53.4	122 43.7	89 31.9	76 27.2	77 27.6	58 20.8	40 14.3	2 0.7	12 4.3
中2保護者	228 100.0	107 46.9	90 39.5	61 26.8	63 27.6	59 25.9	57 25.0	46 20.2	9 3.9	10 4.4

問19 あなたは、地域の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。
 [主なものを3つまでに○]

○地域の教育力を高めるための取組については、「地域の大人が地域の子どもに関心を持ち、ほめたり注意したりする」(53.2%)が最も多く、次いで「安全を確認し、子どもたちが安心して遊べるようにする」(47.8%)、「子ども同士が地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」(44.6%)となっている。



○子どもの性別では、男子保護者で「子ども同士が地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」、女子保護者で「地域の大人が地域の子どもの関心を持ち、ほめたり注意したりする」との回答が多くなっている。

○子どもの学年別では、小5保護者で「安全を確保し、子どもたちが安心して遊べるようにする」「子ども同士が地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」が多くなっている。中2保護者では、「地域の大人が地域の子どもの関心を持ち、ほめたり注意したりする」との回答が小5をやや上回る。

○地区別でみると、笠間地区では「子ども同士が地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」「地域活動や行事などを活発にする」、友部地区では「安全を確保し、子どもたちが安心して遊べるようにする」、岩間地区では「子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」との回答が他の地区を上回っている。

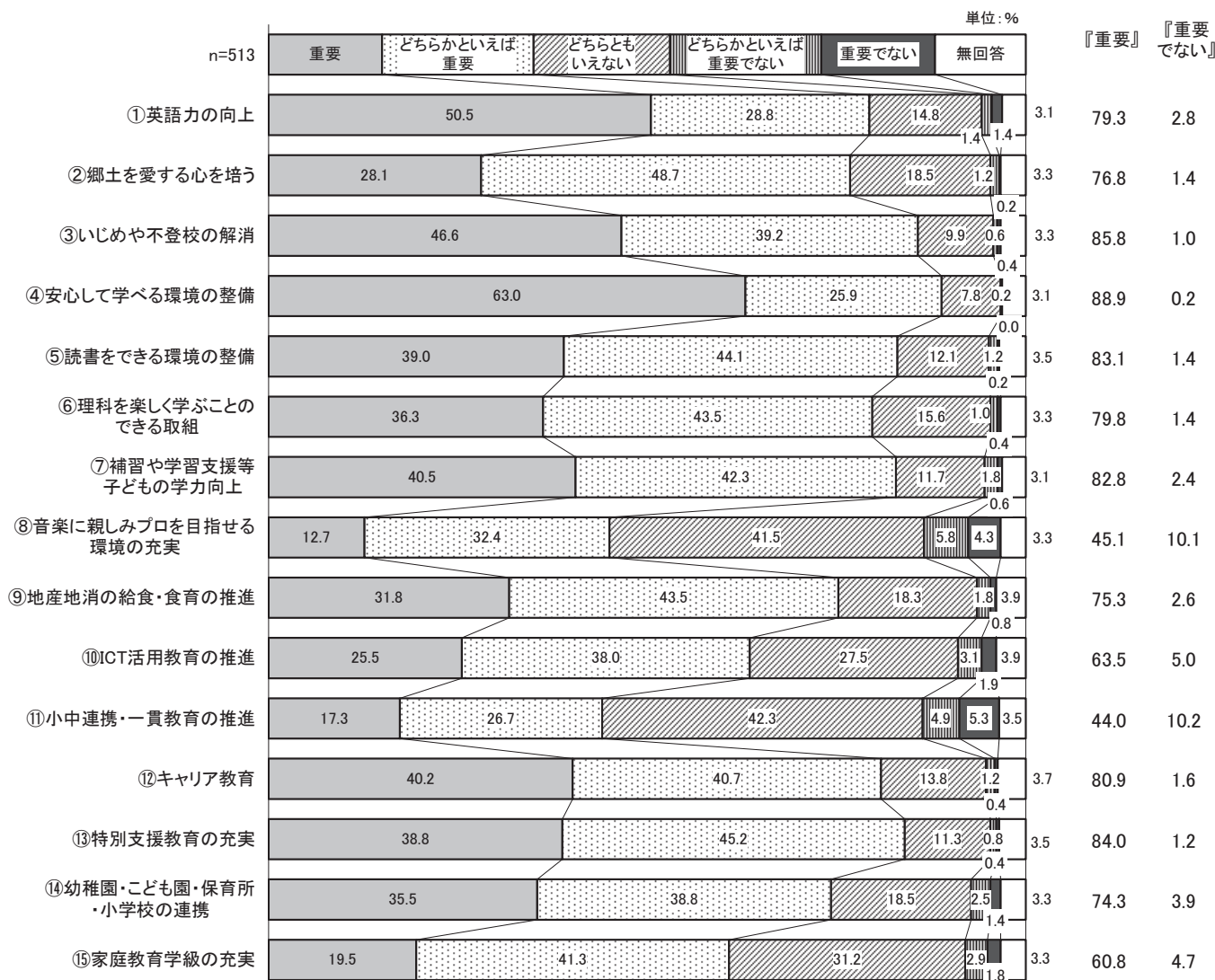
単位:上段 人、下段 %

問19 地域の教育力向上への取組	合計	地域の大人が地域の子どもの関心を持ち、ほめたり注意したりする	安全を確保し、子どもたちが安心して遊べるようにする	子ども同士が地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする	地域活動や行事などを活発にする	子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす	地域に子どもの模範となる大人を増やす	家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする	その他	無回答
全体	513 100.0	273 53.2	245 47.8	229 44.6	116 22.6	113 22.0	106 20.7	50 9.7	11 2.1	23 4.5
問1 子どもの性別										
男子保護者	244 100.0	121 49.6	112 45.9	123 50.4	55 22.5	53 21.7	49 20.1	23 9.4	5 2.0	11 4.5
女子保護者	263 100.0	151 57.4	132 50.2	105 39.9	60 22.8	60 22.8	57 21.7	27 10.3	6 2.3	9 3.4
問2 子どもの学年										
小5保護者	279 100.0	143 51.3	157 56.3	136 48.7	58 20.8	59 21.1	54 19.4	26 9.3	4 1.4	11 3.9
中2保護者	228 100.0	129 56.6	87 38.2	92 40.4	57 25.0	54 23.7	52 22.8	24 10.5	7 3.1	9 3.9
地区別										
笠間地区	201 100.0	104 51.7	86 42.8	96 47.8	53 26.4	45 22.4	37 18.4	20 10.0	5 2.5	10 5.0
友部地区	209 100.0	115 55.0	113 54.1	89 42.6	45 21.5	42 20.1	49 23.4	25 12.0	3 1.4	6 2.9
岩間地区	97 100.0	53 54.6	45 46.4	43 44.3	17 17.5	26 26.8	20 20.6	5 5.2	3 3.1	4 4.1

(5) 市の教育施策や“笠間らしさ”について

問20 笠間市が取り組んでいる教育施策について、いずれの施策が重要だと思いますか。

○笠間市が取り組む教育施策について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』が8割を超えるのは、「④安心して学べる環境の整備」(88.9%)、「③いじめや不登校の解消」(85.8%)、「⑬特別支援教育の充実」(84.0%)、「⑤読書をできる環境の整備」(83.1%)、「⑦補習や学習支援等子どもの学力向上」(82.8%)、「⑫キャリア教育」(80.9%)となっている。



問 21 あなたは、笠間市に愛着を感じますか。[〇は1つ]

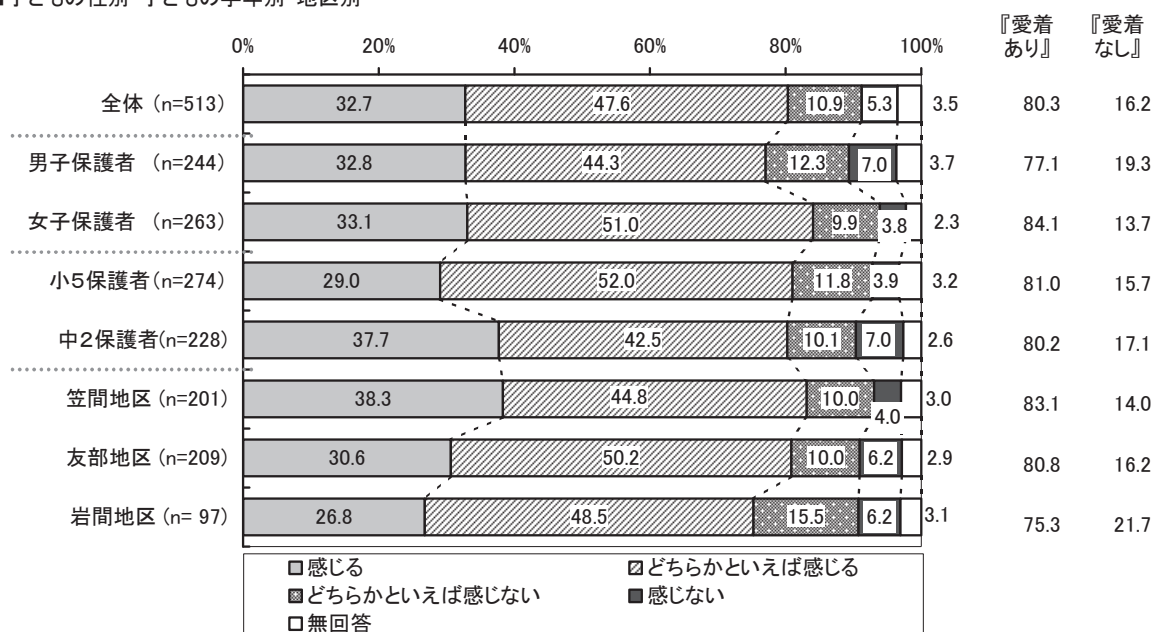
○笠間市に愛着を感じるかどうかについては、「感じる」(32.7%)、「どちらかといえば感じる」(47.6%)、を合計した『愛着あり』との回答は80.3%と8割を超える。

○子どもの性別では、男子保護者に比べ女子保護者で『愛着あり』が多くなっている。

○子どもの学年別では、小5・中2ともに『愛着あり』が8割を超えるが、愛着を「感じる」割合は、中2保護者が小5保護者を上回る。

○地区別では、笠間地区の『愛着あり』の割合が最も多く、愛着を「感じる」割合は、4割近くと他の地区を上回る。一方、岩間地区では『愛着なし』が2割を超えるなど、他の属性と比較してやや多い。

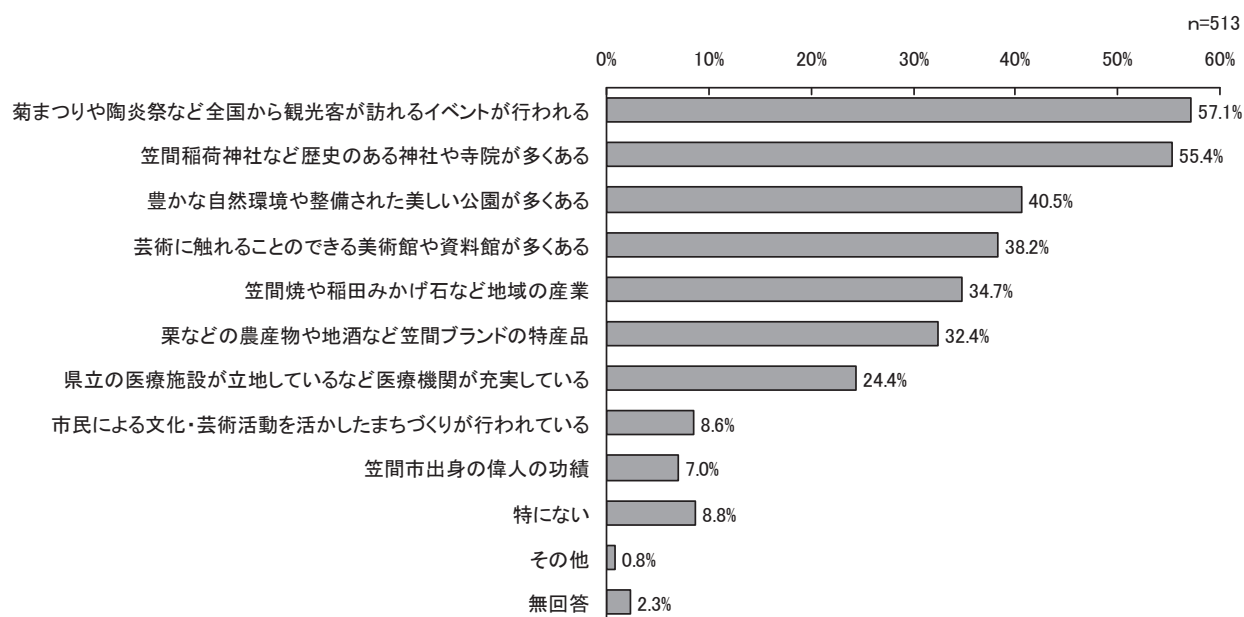
■子どもの性別・子どもの学年別・地区別



問22 あなたが、笠間市の特長や誇りと思うことはどのようなことですか。

[あてはまるものすべてに○]

○笠間市の特長や誇りと思うことについては、「菊まつりや陶炎祭など全国から観光客が訪れるイベントがある」(57.1%)、「笠間稲荷神社など歴史のある神社や寺院が多くある」(55.4%)が5割を超え多く、「豊かな自然環境や整備された美しい公園が多くある」(40.5%)、「芸術に触れることのできる美術館や資料館が多くある」(38.2%)、「笠間焼や稲田みかげ石など地域の産業」(34.7%)、「栗などの農産物や地酒など笠間ブランドの特産品」(32.4%)など多岐にわたる。



○地区別では、笠間地区で「菊まつりや陶炎祭など全国から観光客が訪れるイベントが行われる」「笠間稲荷神社など歴史のある神社や寺院が多くある」が6割、「豊かな自然環境や整備された美しい公園が多くある」「芸術に触れることのできる美術館や資料館が多くある」「芸術に触れることのできる美術館や資料館が多くある」が4割を超えるなど、回答の割合が多くなっている。友部地区では「県立の医療施設が立地しているなど医療機関が充実している」、岩間地区では「栗などの農産物や地酒など笠間ブランドの特産品」との回答が他の地区を上回る。

○問21 笠間市への愛着の有無別で見ると、ほとんどの項目で「愛着あり」の層で回答の割合が「愛着なし」を大きく上回っている。「愛着なし」では、「特にない」が3割を超え多くなっている。

単位:上段 人、下段 %

問22 笠間市の特長や誇り		合計	菊まつり や陶炎祭 など全国 から観光 客が訪れ るイベント が行われ る	笠間稲荷 神社など 歴史のあ る神社や 寺院が多 くある	豊かな自 然環境や 整備され た美しい 公園が多 くある	芸術に触 れること のできる 美術館や 資料館が 多くある	笠間焼や 稲田みか げ石など 地域の産 業	栗などの 農産物や 地酒など 笠間ブラ ンドの特 産品
全体		513 100.0	293 57.1	284 55.4	208 40.5	196 38.2	178 34.7	166 32.4
地区別	笠間地区	201 100.0	131 65.2	128 63.7	96 47.8	96 47.8	85 42.3	51 25.4
	友部地区	209 100.0	115 55.0	101 48.3	82 39.2	68 32.5	60 28.7	68 32.5
	岩間地区	97 100.0	44 45.4	53 54.6	28 28.9	30 30.9	30 30.9	46 47.4
問21 笠間市への 愛着(統合)	愛着あり	412 100.0	261 63.3	262 63.6	200 48.5	180 43.7	161 39.1	156 37.9
	愛着なし	83 100.0	31 37.3	21 25.3	8 9.6	16 19.3	16 19.3	9 10.8

問22 笠間市の特長や誇り		合計	県立の医 療施設が 立地して いるなど 医療機関 が充実し ている	市民によ る文化・芸 術活動を 活かした まちづくり が行われ ている	笠間市出 身の偉人 の功績	特にない	その他	無回答
全体		513 100.0	125 24.4	44 8.6	36 7.0	45 8.8	4 0.8	12 2.3
地区別	笠間地区	201 100.0	36 17.9	31 15.4	22 10.9	8 4.0	2 1.0	6 3.0
	友部地区	209 100.0	69 33.0	10 4.8	9 4.3	23 11.0	1 0.5	4 1.9
	岩間地区	97 100.0	20 20.6	2 2.1	4 4.1	14 14.4	1 1.0	2 2.1
問21 笠間市への 愛着(統合) ※	愛着あり	412 100.0	111 26.9	42 10.2	36 8.7	18 4.4	4 1.0	1 0.2
	愛着なし	83 100.0	14 16.9	2 2.4	0 0.0	25 30.1	0 0.0	2 2.4

※愛着あり:問21 笠間市に愛着を感じるか

「感じる」+「どちらかといえば感じる」と回答した保護者

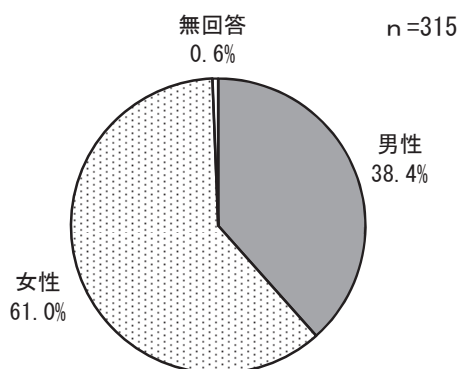
愛着なし:「感じない」+「どちらかといえば感じない」と回答した保護者

3 教職員調査

(1) 回答者の属性

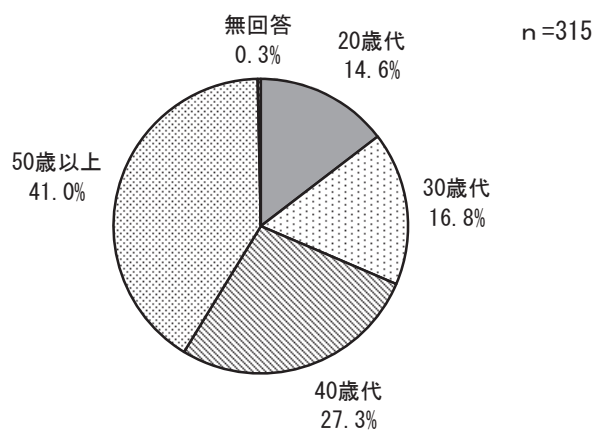
問1 性別 [1つに○]

○性別は、「男性」が38.4%、「女性」が61.0%である。



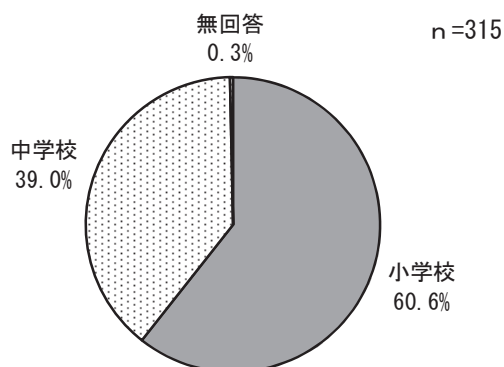
問2 年代 [1つに○]

○年代は、「50歳以上」が(41.0%)が最も多く、次いで「40歳代」(27.3%)、「30歳代」(16.8%)、「20歳代」(14.6%)となっている。



問3 勤務先 [1つに○]

○勤務先については、「小学校」が60.6%、「中学校」が39.0%である。

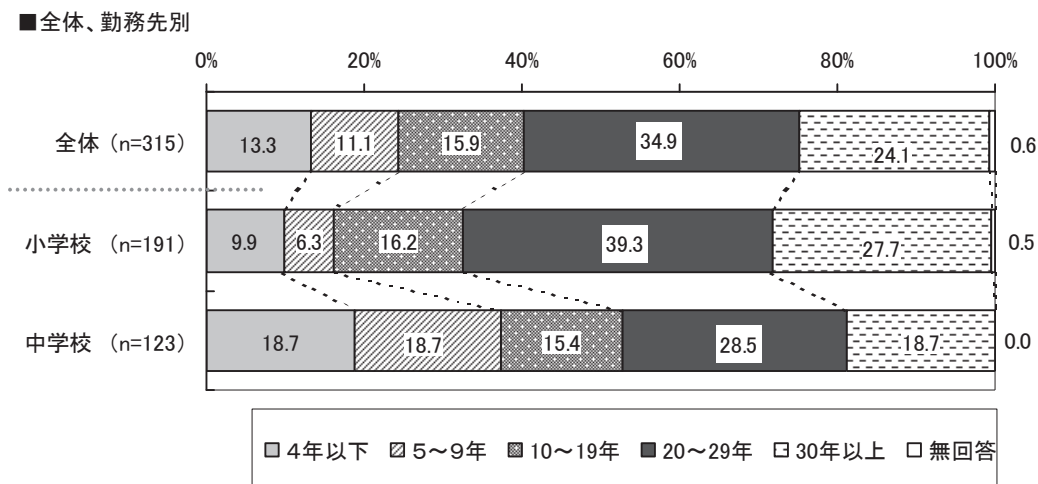


問4 教職員経験年数 [1つに○]

○教職員経験年数については、「20～29年」(34.9%)が最も多く、次いで「30年以上」(24.1%)、「10～19年」(15.9%)となっている。

○勤務先別でみると、小学校教諭では「20～29年」(39.3%)が最も多く、次いで「30年以上」(27.7%)と、勤務年数が20年以上の教諭が半数を超える。

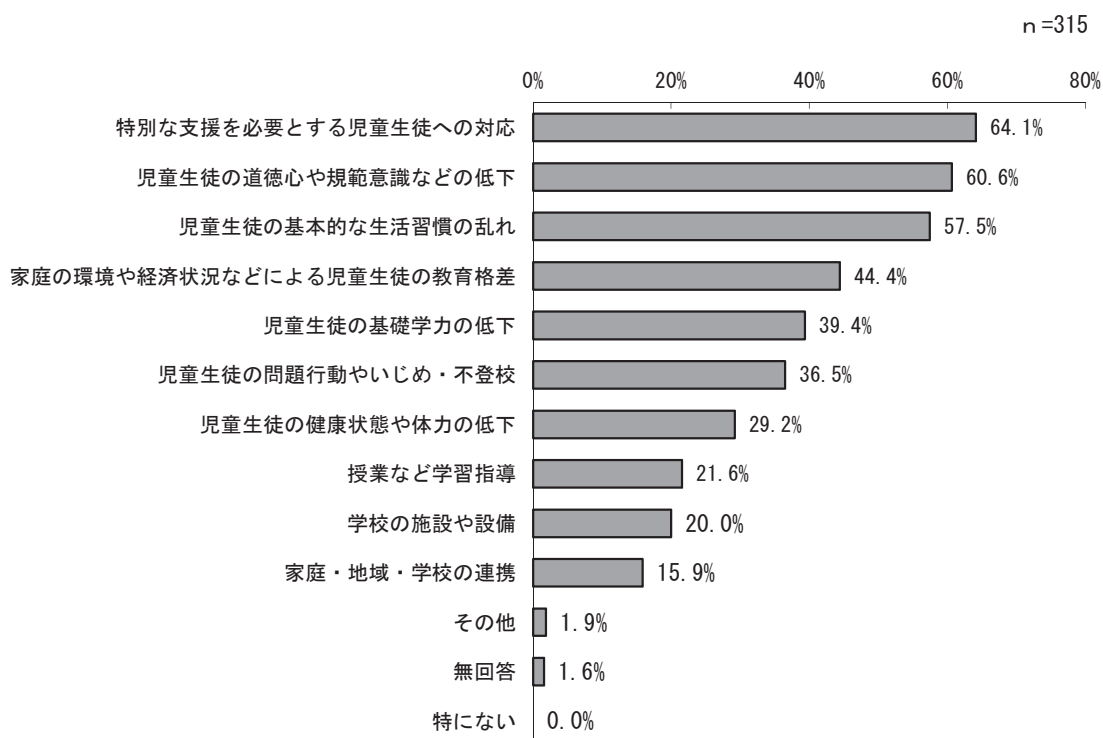
一方、中学校教諭では、「20～29年」(28.5%)が最も多いが、「4年以下」「5～9年」(ともに18.7%)など、勤務年数が10年未満の教諭が4割近くと、小学校に比べると経験年数の少ない教諭がやや多くなっている。



(2) 学校教育について

問5 日々の職務の中で課題と感ずることは何ですか。[あてはまるものすべてに○]

○日々の職務における課題については、「特別な支援を必要とする児童生徒への対応」(64.1%)、「道徳心や規範意識などの低下」(60.6%)、「基本的な生活習慣の乱れ」(57.5%)が多く、次いで「家庭の環境や経済状況などによる教育格差」(44.4%)、「基礎学力の低下」(39.4%)、「問題行動やいじめ・不登校」(36.5%)となっている。



○勤務先別にみると、小学校では「特別な支援を必要とする児童生徒への対応」(71.7%)が最も多く、中学校の回答の割合を大きく上回る。

反対に中学校では、「基本的な生活習慣の乱れ」(63.4%)、「問題行動やいじめ・不登校」(50.4%)において、小学校の回答の割合を大きく上回る。

単位:上段 人、下段 %

問5 職務の課題		合計	特別な支援を必要とする児童生徒への対応	児童生徒の道徳心や規範意識などの低下	児童生徒の基本的な生活習慣の乱れ	家庭の環境や経済状況などによる児童生徒の教育格差	児童生徒の基礎学力の低下	児童生徒の問題行動やいじめ・不登校	児童生徒の健康状態や体力の低下
全体		315 100.0	202 64.1	191 60.6	181 57.5	140 44.4	124 39.4	115 36.5	92 29.2
問3 勤務先	小学校	191 100.0	137 71.7	114 59.7	103 53.9	85 44.5	69 36.1	53 27.7	57 29.8
	中学校	123 100.0	65 52.8	77 62.6	78 63.4	55 44.7	55 44.7	62 50.4	35 28.5

問5 職務の課題		合計	授業など学習指導	学校の施設や設備	家庭・地域・学校の連携	特にない	その他	無回答
全体		315 100.0	68 21.6	63 20.0	50 15.9	0 0.0	6 1.9	5 1.6
問3 勤務先	小学校	191 100.0	46 24.1	39 20.4	31 16.2	0 0.0	2 1.0	2 1.0
	中学校	123 100.0	22 17.9	24 19.5	19 15.4	0 0.0	4 3.3	2 1.6

問6 授業の内容を概ね理解している児童生徒の割合はどれくらいだと思いますか。[1つに○]

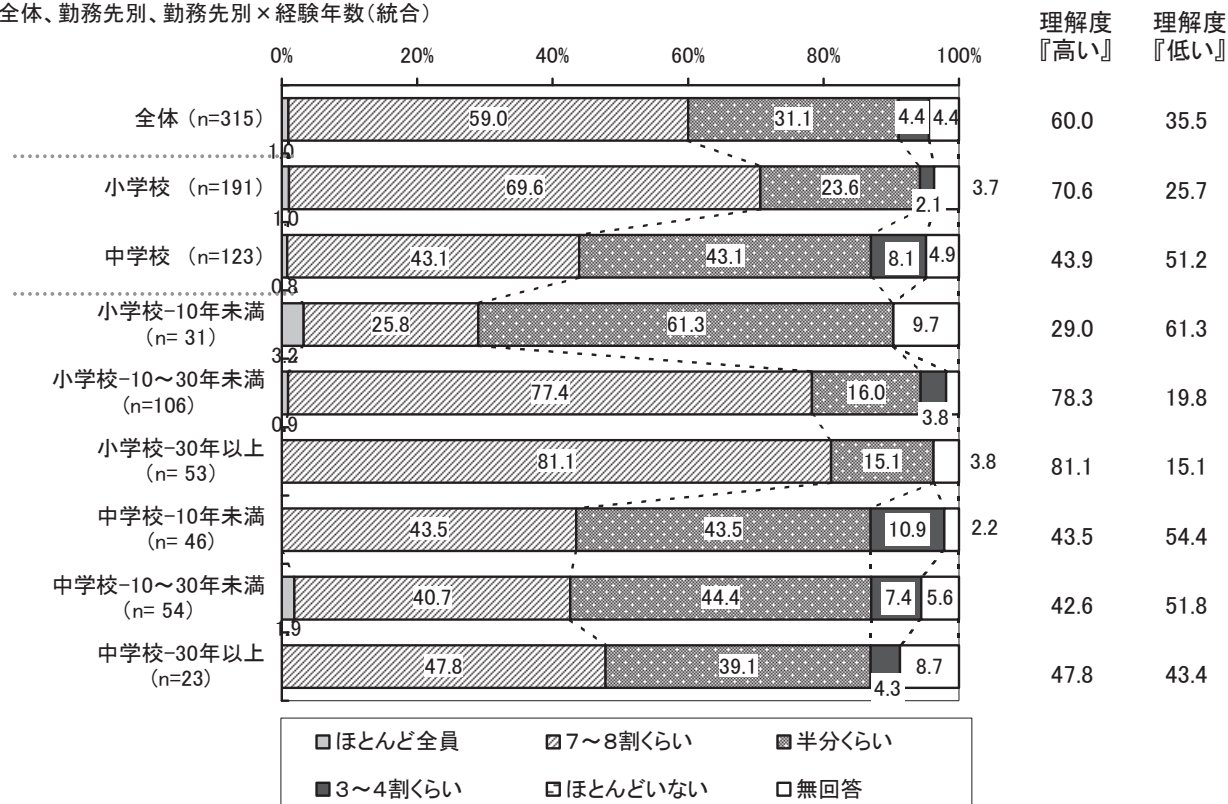
○児童生徒全体の授業の理解度については、「ほとんど全員」(1.0%)、「7～8割くらい」(59.0%)を合計した、授業の理解度が『高い』児童生徒の割合は60.0%である。「半分くらい」(31.1%)、「3～4割くらい」(4.4%)、「ほとんどいない」(0.0%)を合計した、授業の理解度が『低い』児童生徒の割合は35.5%である。

○勤務先別では、小学校では「7～8割くらい」(69.6%)、中学校では「7～8割くらい」「半分くらい」(ともに43.1%)との回答が多くなっている。それに対応するように、小学校では、授業度の理解度が『高い』割合が7割を超えるが、中学校では4割程度にとどまっている。

○勤務先・経験年数別でみると、小学校・10年未満では、「半分くらい」(61.3%)との回答が他を大きく上回る。小学校・10～30年未満、30年以上では、「7～8割くらい」が8割近くと多くなっている。

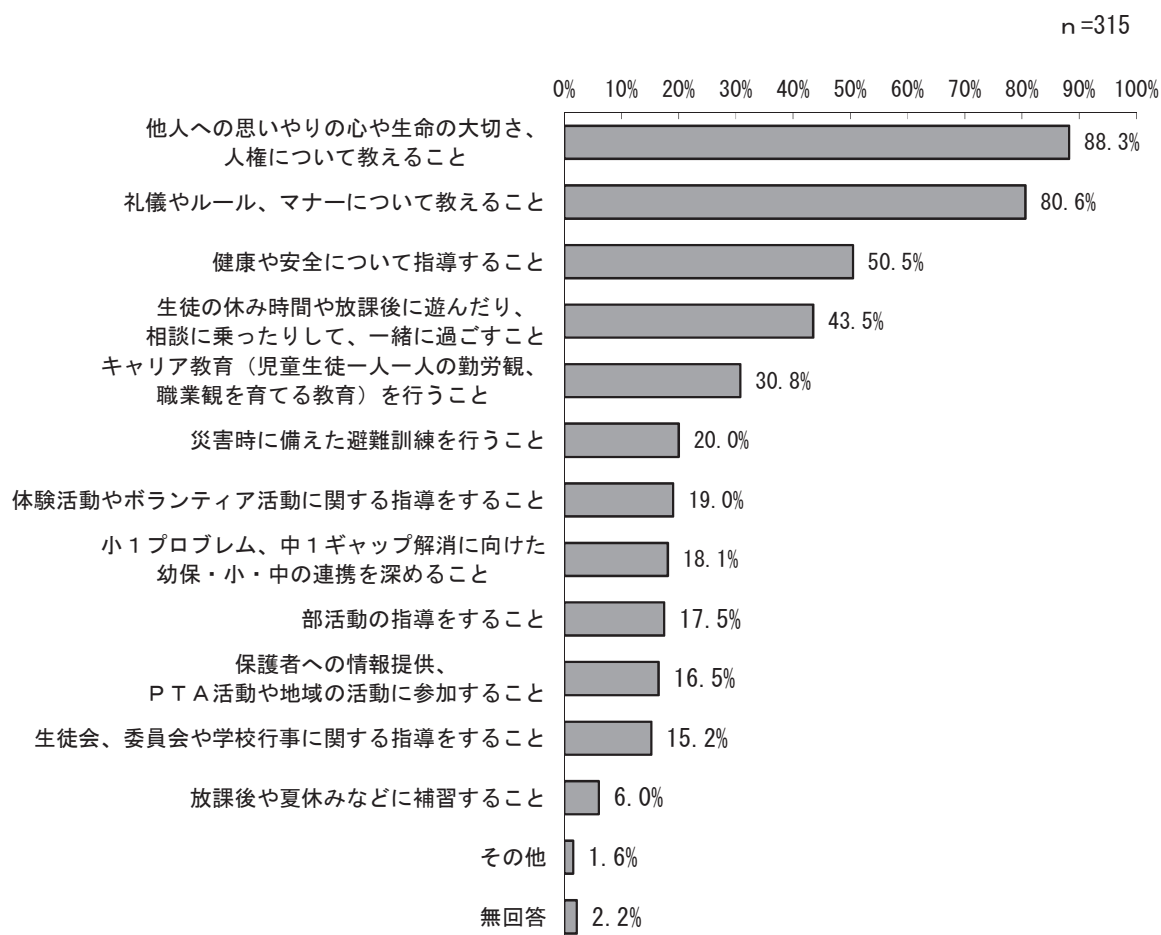
一方で、中学校では、半分くらいとの回答がいずれの層も4割程度であり、「3～4割くらい」との回答は、経験年数が少ないほど多く、10年未満では1割程度となっている。

■ 全体、勤務先別、勤務先別×経験年数(統合)



問7 あなたは、教員として通常の授業以外で特に力を入れて行うべきことは何だと思いますか。[あてはまるものすべてに○]

○通常の授業以外で力を入れるべきことについては、「他人への思いやりの心や生命の大切さ、人権について教えること」(88.3%)、「礼儀やルール、マナーについて教えること」(80.6%)が多く、やや差があり「健康や安全について指導すること」(50.5%)、「生徒の休み時間や放課後に一緒に過ごすこと」(43.5%)となっている。



○性別では、男性で「部活動の指導をすること」、女性で「健康や安全について指導すること」「災害時に備えた避難訓練を行うこと」「幼保・小・中の連携を深めること」との回答が多くなっている。

○勤務先別では、いずれも「他人への思いやりの心や生命の大切さ、人権について教えること」が最も多くなっている。

小学校では「健康や安全について指導すること」「生徒の休み時間や放課後に一緒に過ごすこと」「幼保・小・中の連携を深めること」との回答が多い。

中学校では、「礼儀やルール、マナーについて教えること」「部活動の指導をすること」などである。

○勤務先・経験年数別では、小学校、中学校ともに10年未満で「生徒の休み時間等に一緒に過ごすこと」の回答が多くなっている。小学校では、10～30年未満、30年以上で「他人への思いやりの心や生命の大切さ、人権について教えること」が9割を超え多い。

その他、30年以上では、その他に「健康や安全について指導すること」「幼保・小・中の連携を深めること」「体験活動やボランティア活動に関する指導をすること」などの回答が多くなっている。

中学校では、10年未満で「礼儀やルール、マナーについて教えること」「部活動の指導をすること」「生徒会、委員会や学校行事に関する指導をすること」など、全体の回答を上回る項目が多くなっている。

また、10～30年未満では「他人への思いやりの心や生命の大切さ、人権について教えること」「キャリア教育を行うこと」、30年以上では「キャリア教育を行うこと」「保護者への情報提供、PTA活動や地域の活動に参加すること」などの回答が他の層を上回る。

単位:上段人、下段%

問7 通常の授業以外で 力を入れるべきこと		合計	他人への 思いやり の心や生 命の大切 さ、人権に ついて教 える	礼儀や ルール、 マナーに ついて教 えること	健康や安 全につい て指導す ること	生徒の休 み時間等 に一緒に 過ごすこと	キャリア教 育を行うこ と	災害時に 備えた避 難訓練を 行うこと	体験活動 やボラン ティア活動 に関する 指導をす ること
全体		315 100.0	278 88.3	254 80.6	159 50.5	137 43.5	97 30.8	63 20.0	60 19.0
問1 性別	男性	121 100.0	103 85.1	94 77.7	50 41.3	57 47.1	41 33.9	16 13.2	25 20.7
	女性	192 100.0	174 90.6	160 83.3	109 56.8	80 41.7	56 29.2	47 24.5	35 18.2
問3 勤務先	小学校	191 100.0	174 91.1	150 78.5	109 57.1	92 48.2	56 29.3	43 22.5	36 18.8
	中学校	123 100.0	104 84.6	104 84.6	50 40.7	45 36.6	41 33.3	20 16.3	24 19.5
勤務先×経験 年数(統合)	小学校-10年 未満	31 100.0	26 83.9	25 80.6	16 51.6	21 67.7	8 25.8	7 22.6	4 12.9
	小学校-10~ 30年未満	106 100.0	98 92.5	86 81.1	57 53.8	46 43.4	33 31.1	23 21.7	19 17.9
	小学校-30年 以上	53 100.0	49 92.5	39 73.6	36 67.9	25 47.2	15 28.3	13 24.5	13 24.5
	中学校-10年 未満	46 100.0	37 80.4	42 91.3	23 50.0	25 54.3	12 26.1	12 26.1	11 23.9
	中学校-10~ 30年未満	54 100.0	49 90.7	44 81.5	19 35.2	18 33.3	21 38.9	6 11.1	8 14.8
	中学校-30年 以上	23 100.0	18 78.3	18 78.3	8 34.8	2 8.7	8 34.8	2 8.7	5 21.7

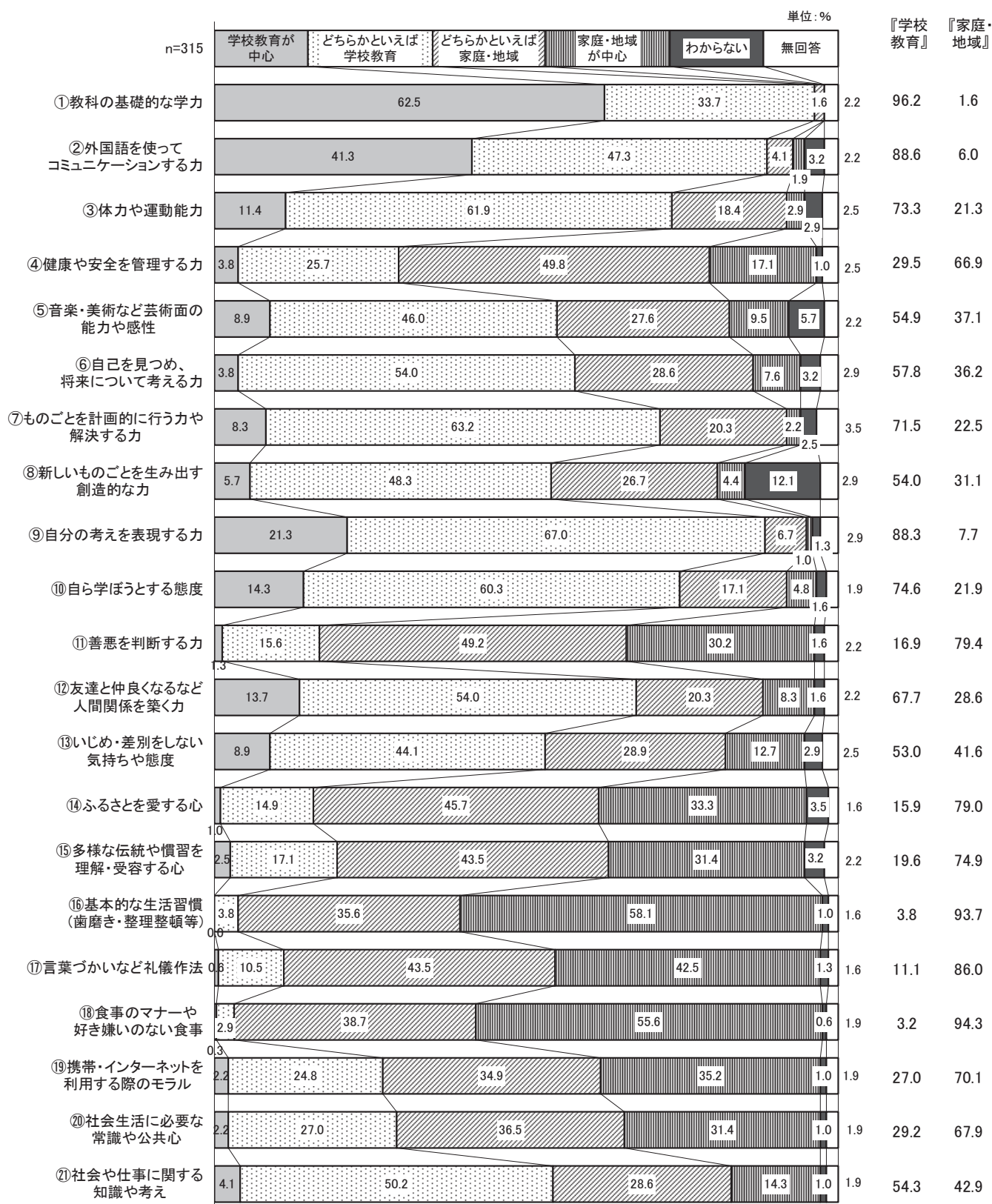
問7 通常の授業以外で 力を入れるべきこと		合計	幼保・小・ 中の連携 を深めるこ と	部活動の 指導をす ること	保護者へ の情報提 供、PTA 活動や地 域の活動 に参加す ること	生徒会、 委員会や 学校行事 に関する 指導をす ること	放課後や 夏休みな どに補習 すること	その他	無回答
全体		315 100.0	57 18.1	55 17.5	52 16.5	48 15.2	19 6.0	5 1.6	7 2.2
問1 性別	男性	121 100.0	12 9.9	41 33.9	20 16.5	24 19.8	7 5.8	3 2.5	2 1.7
	女性	192 100.0	45 23.4	14 7.3	32 16.7	24 12.5	12 6.3	2 1.0	4 2.1
問3 勤務先	小学校	191 100.0	42 22.0	8 4.2	30 15.7	27 14.1	11 5.8	0 0.0	4 2.1
	中学校	123 100.0	15 12.2	47 38.2	22 17.9	21 17.1	8 6.5	5 4.1	2 1.6
勤務先×経験 年数(統合)	小学校-10年 未満	31 100.0	5 16.1	1 3.2	7 22.6	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	小学校-10~ 30年未満	106 100.0	22 20.8	5 4.7	15 14.2	16 15.1	8 7.5	0 0.0	2 1.9
	小学校-30年 以上	53 100.0	15 28.3	2 3.8	8 15.1	9 17.0	3 5.7	0 0.0	2 3.8
	中学校-10年 未満	46 100.0	7 15.2	22 47.8	9 19.6	11 23.9	5 10.9	1 2.2	1 2.2
	中学校-10~ 30年未満	54 100.0	6 11.1	17 31.5	8 14.8	7 13.0	2 3.7	3 5.6	0 0.0
	中学校-30年 以上	23 100.0	2 8.7	8 34.8	5 21.7	3 13.0	1 4.3	1 4.3	1 4.3

問8 (1) 次の項目は、「学校教育」と「家庭・地域」が協力して、子どもたちに身につけさせたい力ですが、「学校教育」と「家庭・地域」のどちらが主となって取り組むべきと思いますか。(2) また、それぞれの力があなたの受け持つ児童生徒に身に付いていると思いますか。お考えに近いものをお選びください。
[各項目について、あてはまる番号1つに○]

① 取組の主体

○子どもに身に付けさせたい力の取組主体について、「学校教育が中心」と「どちらかといえば学校教育」を合わせた『学校教育』が6割を超えるのは、「①教科の基礎的な学力」(96.2%)、「②外国語を使ってコミュニケーションする力」(88.6%)、「⑨自分の考えを表現する力」(88.3%)、「⑩自ら学ぼうとする態度」(74.6%)、「③体力や運動能力」(73.3%)、「⑦ものごとを計画的に行う力や解決する力」(71.5%)、「⑫友だちと仲良くなるなど人間関係を築く力」(67.7%)など7項目である。

○反対に、「家庭・地域が中心」と「どちらかといえば家庭・地域」を合わせた『家庭・地域』が6割を超えるのは、「⑮食事のマナーや好き嫌いのない食事」(94.3%)「⑯基本的な生活習慣」(93.7%)、「⑰言葉づかいなど礼儀作法」(86.0%)、「⑪善悪を判断する力」(79.4%)、「⑭ふるさとを愛する心」(79.0%)、「⑮多様な伝統や慣習を理解・受容する心」(74.9%)、「⑲携帯・インターネットを利用する際のモラル」(70.1%)、「⑳社会生活に必要な常識や公共心」(67.9%)、「④健康や安全を管理する力」(66.9%)など9項目となっている。



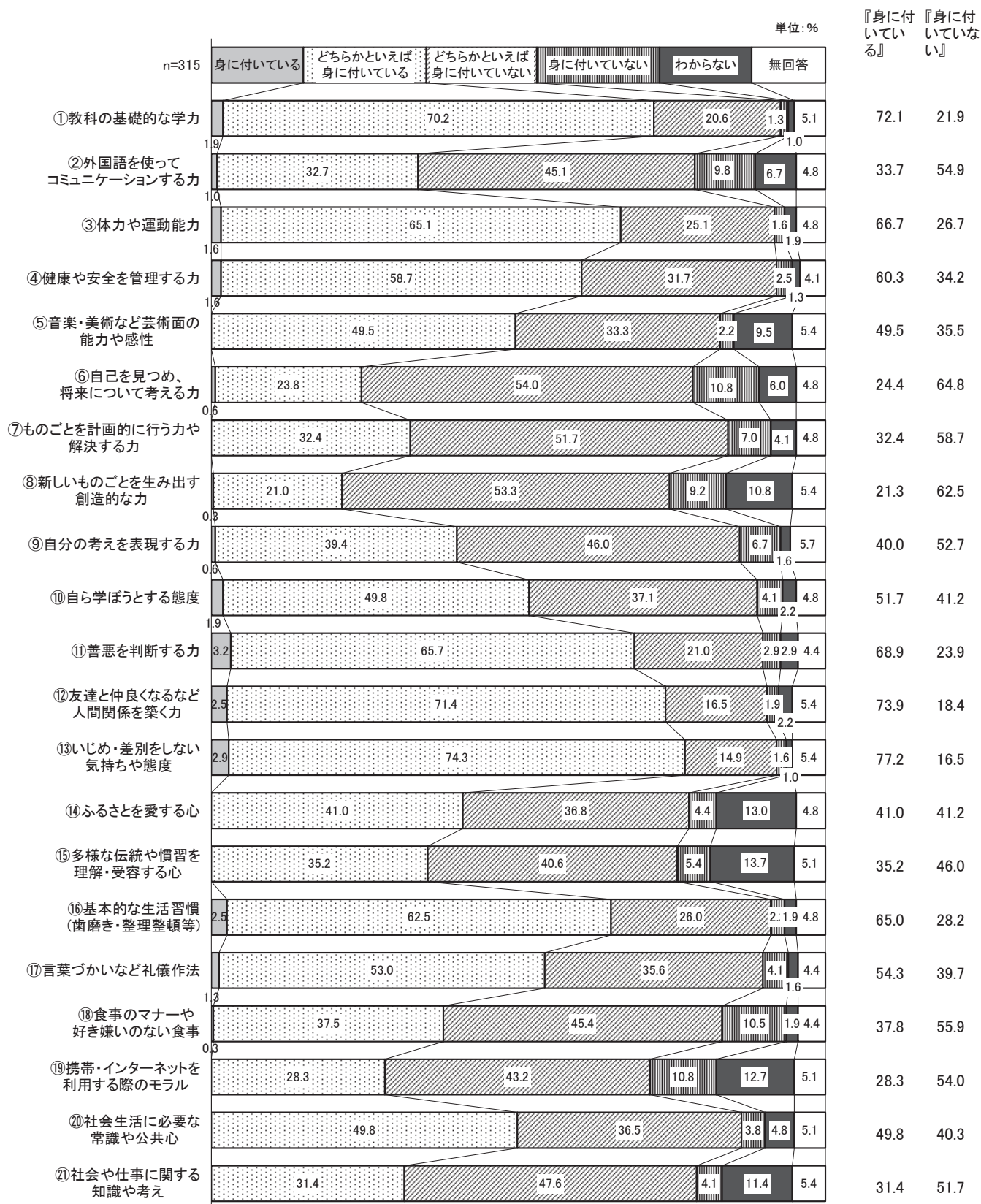
② 子どもに身に付いているか

それぞれの力が子どもに身に付いているかどうかについてたずねた。

○約半数の項目で「身に付いている」と「どちらかといえば身に付いている」を合わせた『身に付いている』が、「身に付いていない」と「どちらかといえば身に付いていない」を合わせた『身に付いていない』を上回っている。

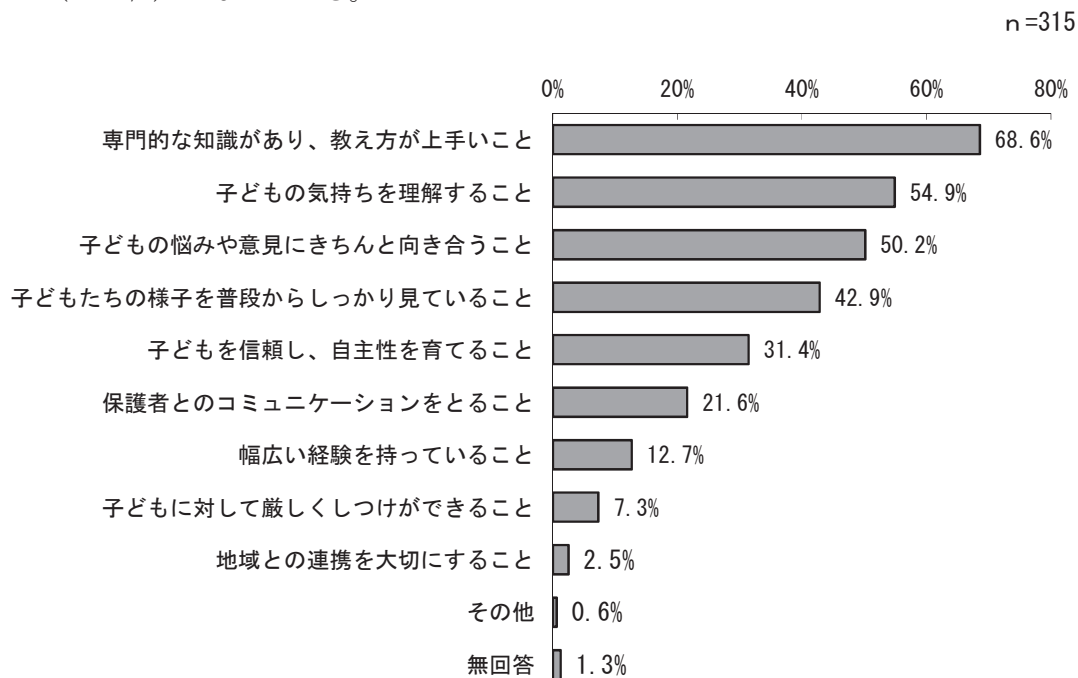
○『身に付いている』が『身に付いていない』を50ポイント以上上回るのは、「⑬いじめ・差別をしない気持ち」「⑫友だちと仲良くなるなど人間関係を築く力」「①教科の基礎的な学力」など3項目となっている。

○『身に付いていない』は、「⑥自己を見つめ、将来について考える力」(64.8%)、「⑧新しいものごとを生み出す創造的な力」(62.5%)、「⑦ものごとを計画的に行う力や解決する力」(58.7%)、「⑱食事のマナーや好き嫌いのない食事」(55.9%)、「②外国語を使ってコミュニケーションする力」(54.9%)、「⑲携帯・インターネットを利用する際のモラル」(54.0%)、「⑨自分の考えを表現する力」(52.7%)、「⑳社会や仕事に関する知識や考え」(51.7%)などの8項目で、5割を超え多くなっている。



問9 あなたは、どのような教員でありたいですか。あるいは、どのような教員が望ましいとお考えですか。[主なものを3つまでに○]

○望ましい教員像については、「専門的な知識があり、教え方が上手いこと」(68.6%)が最も多く、次いで「子どもの気持ちを理解すること」(54.9%)、「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」(50.2%)、「子どもたちの様子を普段からしっかり見ていること」(42.9%)となっている。



○性別でみると、男性では「専門的な知識があり、教え方が上手いこと」「子どもの気持ちを理解すること」「幅広い経験を持っていること」、女性では「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」「子どもたちの様子を普段からしっかり見ていること」がそれぞれお互いの回答を上回る。

○勤務先別では、小学校で「子どもを信頼し、自主性を育てること」、中学校では「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」、「幅広い経験を持っていること」との回答が多くなっている。

○勤務先・経験年数別でみると、小学校、中学校ともに10年未満で「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」が他の層に比べ多くなっている。同様に、10～30年未満では「専門的な知識があり、教え方が上手いこと」、30年以上では「保護者とのコミュニケーションをとること」が多くなっている。

その他、中学校・30年以上では、「子どもの気持ちを理解すること」「幅広い経験を持っていること」との回答が他の層に比べ多い。

単位:上段人、下段%

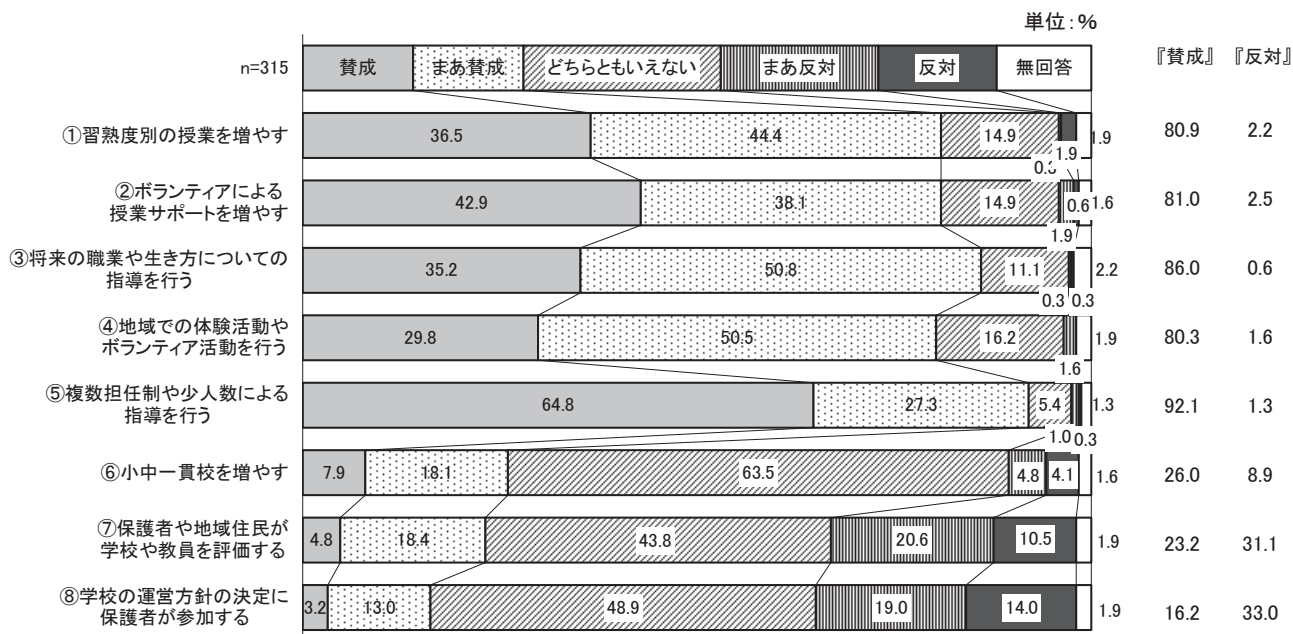
問9 望ましい教員像		合計	専門的な知識があり、教え方が上手いこと	子どもの気持ちを理解すること	子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと	子どもたちの様子を普段からしっかり見ていること	子どもを信頼し、自主性を育てること	保護者とのコミュニケーションをとること
全体		315 100.0	216 68.6	173 54.9	158 50.2	135 42.9	99 31.4	68 21.6
問1 性別	男性	121 100.0	87 71.9	72 59.5	56 46.3	43 35.5	35 28.9	29 24.0
	女性	192 100.0	128 66.7	100 52.1	101 52.6	92 47.9	64 33.3	39 20.3
問3 勤務先	小学校	191 100.0	134 70.2	104 54.5	89 46.6	82 42.9	64 33.5	41 21.5
	中学校	123 100.0	82 66.7	69 56.1	69 56.1	53 43.1	35 28.5	27 22.0
勤務先×経験年数(統合)	小学校-10年未満	31 100.0	21 67.7	14 45.2	18 58.1	9 29.0	9 29.0	7 22.6
	小学校-10~30年未満	106 100.0	77 72.6	62 58.5	46 43.4	51 48.1	37 34.9	20 18.9
	小学校-30年以上	53 100.0	35 66.0	28 52.8	25 47.2	21 39.6	18 34.0	14 26.4
	中学校-10年未満	46 100.0	30 65.2	24 52.2	29 63.0	23 50.0	12 26.1	8 17.4
	中学校-10~30年未満	54 100.0	38 70.4	31 57.4	31 57.4	19 35.2	18 33.3	11 20.4
	中学校-30年以上	23 100.0	14 60.9	14 60.9	9 39.1	11 47.8	5 21.7	8 34.8

問9 望ましい教員像		合計	幅広い経験を持っていること	子どもに対して厳しくしつけができること	地域との連携を大切にする	その他	無回答
全体		315 100.0	40 12.7	23 7.3	8 2.5	2 0.6	4 1.3
問1 性別	男性	121 100.0	21 17.4	12 9.9	4 3.3	1 0.8	0 0.0
	女性	192 100.0	19 9.9	11 5.7	4 2.1	1 0.5	3 1.6
問3 勤務先	小学校	191 100.0	20 10.5	14 7.3	5 2.6	1 0.5	3 1.6
	中学校	123 100.0	20 16.3	9 7.3	3 2.4	1 0.8	0 0.0
勤務先×経験年数(統合)	小学校-10年未満	31 100.0	5 16.1	3 9.7	2 6.5	1 3.2	1 3.2
	小学校-10~30年未満	106 100.0	8 7.5	6 5.7	2 1.9	0 0.0	1 0.9
	小学校-30年以上	53 100.0	6 11.3	5 9.4	1 1.9	0 0.0	1 1.9
	中学校-10年未満	46 100.0	3 6.5	6 13.0	3 6.5	0 0.0	0 0.0
	中学校-10~30年未満	54 100.0	10 18.5	3 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中学校-30年以上	23 100.0	7 30.4	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0

問10 現在の教育改革で取り入れられたり検討されたりしている、次のような取り組みについて、賛成ですか反対ですか。お考えに近いものをお選びください。[それぞれ1つに〇]

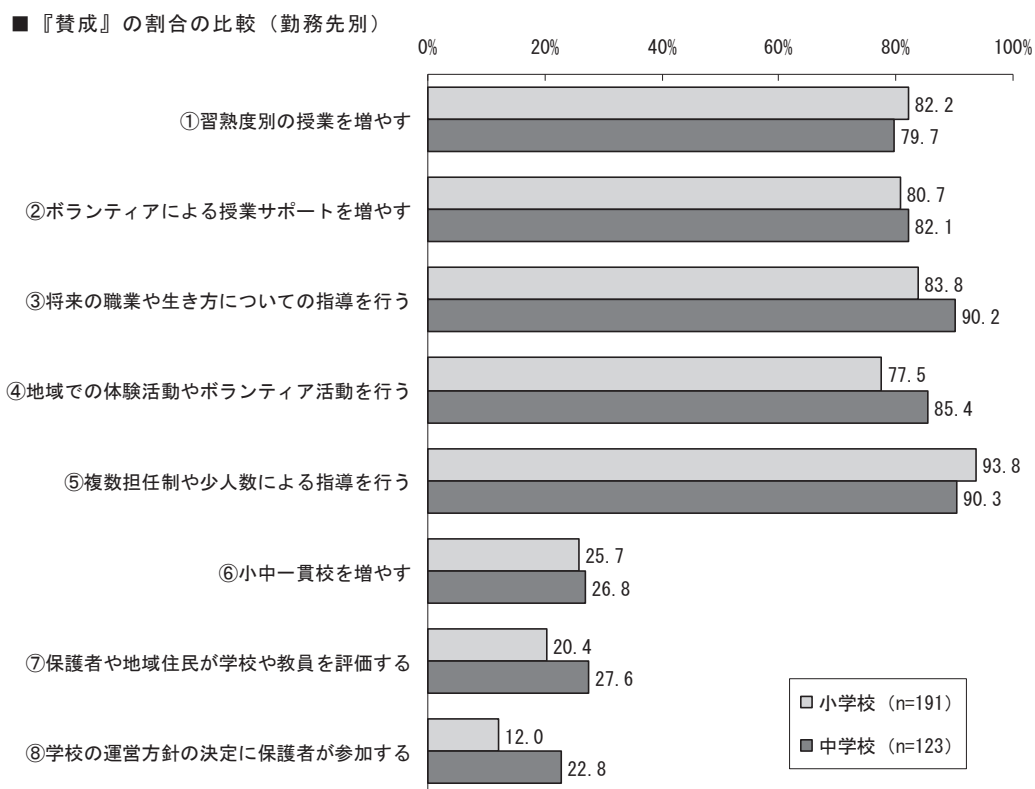
○現在の教育改革で取り入れられたり検討されたりしている施策の重要度について、「賛成」と「まあ賛成」を合わせた『賛成』が8割を超えるのは、「⑤複数担任制や少人数による指導を行う」(92.1%)、「③将来の職業や生き方についての指導を行う」(86.0%)、「②ボランティアによる授業サポートを増やす」(81.0%)、「①習熟度別の授業を増やす」(80.9%)、「④地域での体験活動やボランティア活動を行う」(80.3%) など5項目である。

○反対に、「反対」と「まあ反対」を合わせた『反対』が3割を超えているのは、「⑧学校の運営方針の決定に保護者が参加する」(33.0%)、「⑦保護者や地域住民が学校や教員を評価する」(31.1%) など2項目となっている。



○『賛成』の割合を勤務先別で比較すると、多くの項目で小学校よりも中学校で『賛成』の割合が高くなっている。

特に、「⑧学校の運営方針の決定に保護者が参加する」「④地域での体験活動やボランティア活動を行う」「⑦保護者や地域住民が学校や教員を評価する」「③将来の職業や生き方についての指導を行う」などで5ポイント以上上回る。



(3) 家庭・地域での教育について

問11 現在の状況を見て、家庭や地域の教育力が機能していると思いますか。
[それぞれ1つに○]

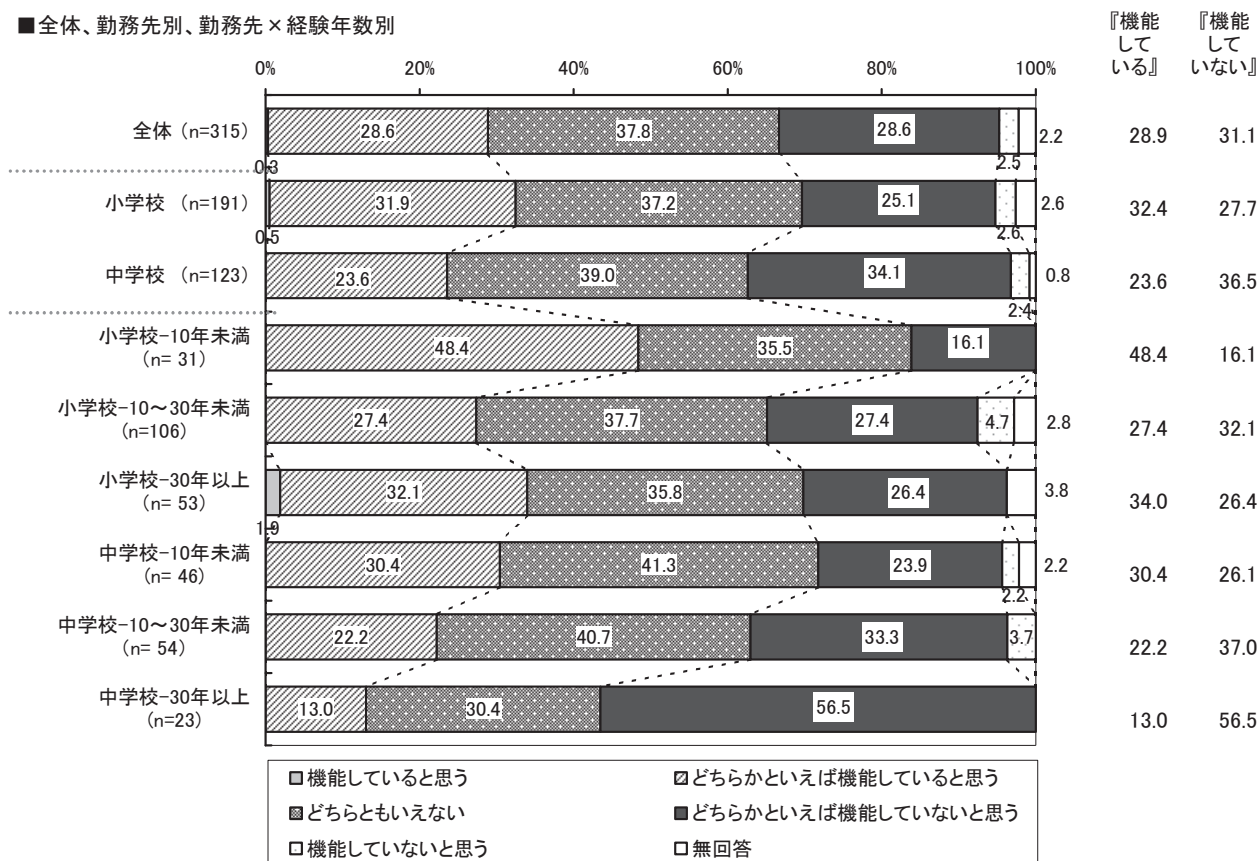
① 家庭の教育力

○家庭の教育力については、「機能していると思う」(0.3%)、「どちらかといえば機能していると思う」(28.6%)を合計した『機能している』との回答は28.9%となっている。

○勤務先別でみると、小学校では『機能している』との回答が『機能していない』(「機能していないと思う」+「どちらかといえば機能していないと思う」の合計)を上回る。

反対に、中学校では『機能していない』との回答が『機能している』を上回る。

○勤務先・経験年数別では、小学校に比べ中学校で、また経験年数が長くなるほど、『機能していない』との回答が多い傾向にある。

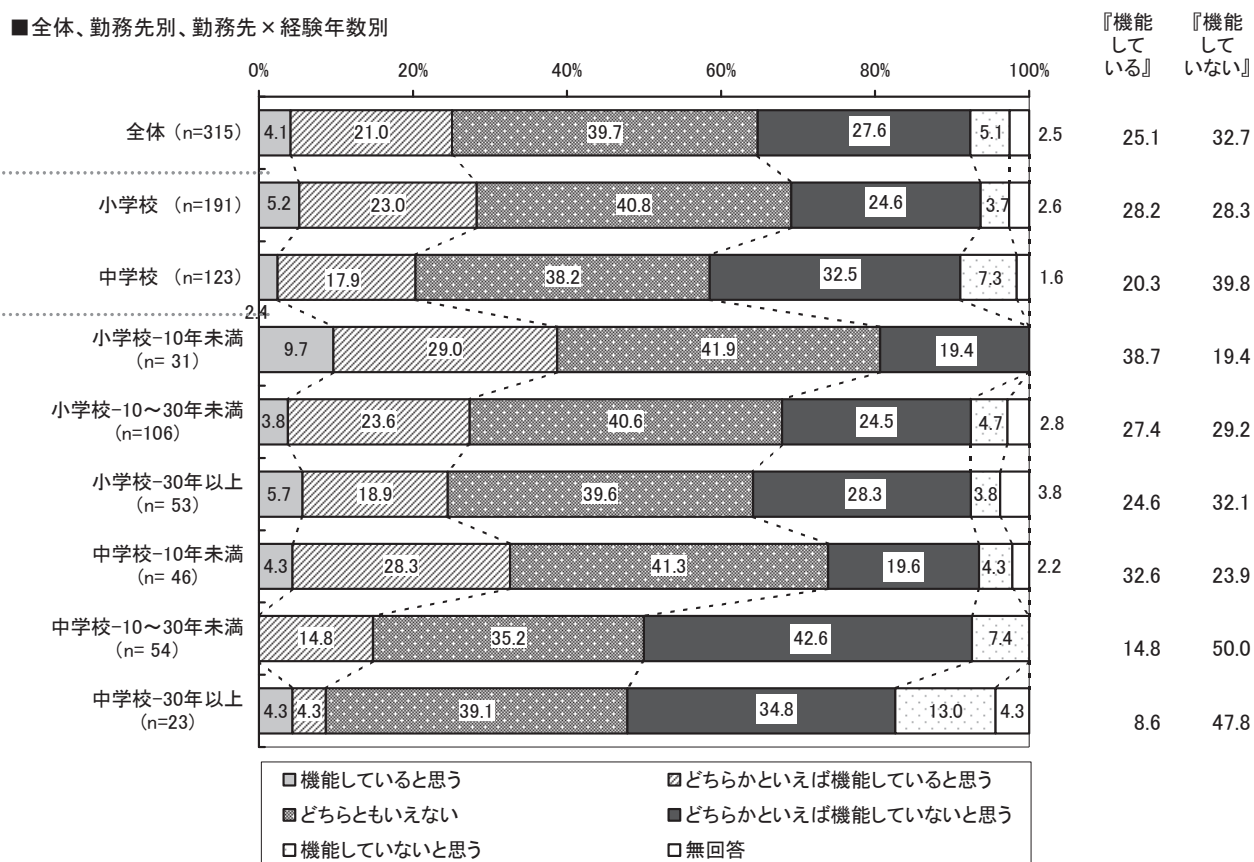


② 地域の教育力

○地域の教育力については、「機能していると思う」(4.1%)、「どちらかといえば機能していると思う」(21.0%)を合計した『機能している』との回答は25.1%となっている。

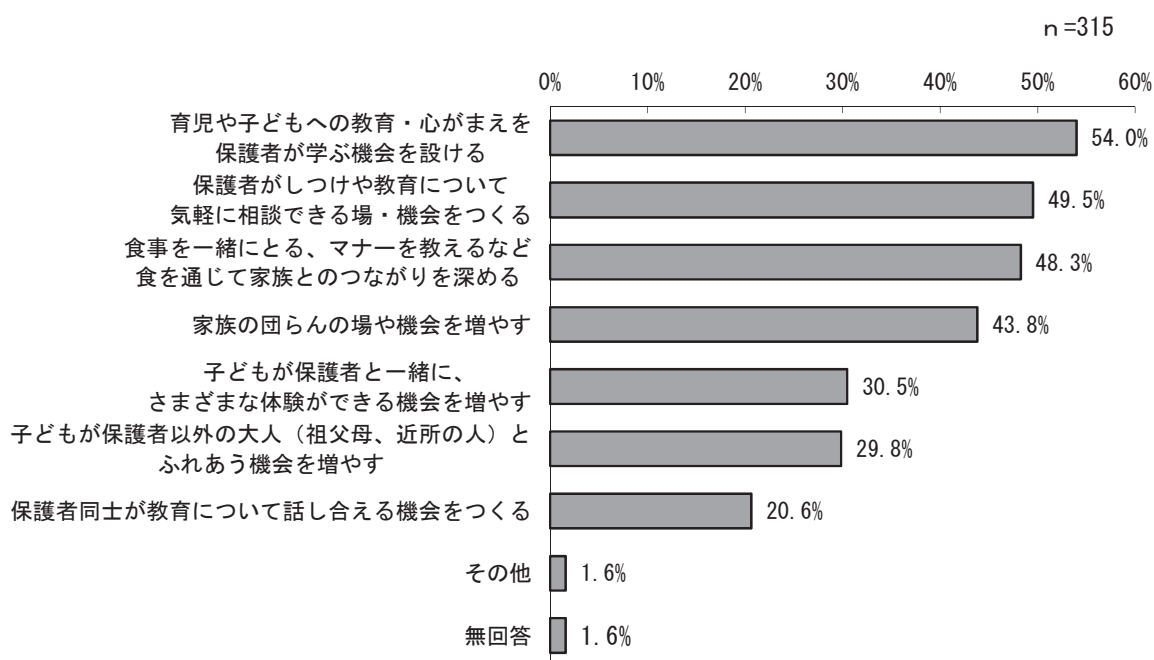
○勤務先別でみると、小学校、中学校ともに『機能していない』との回答が『機能している』を上回る。

○勤務先・経験年数別では、小学校、中学校ともに経験年数が長くなるほど『機能している』との回答が少なくなる傾向にある。



問12 あなたは、家庭の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。
 [主なものを3つまでに○]

○家庭の教育力を高めるための取組については、「育児や子どもへの教育・心がまえを保護者が学ぶ機会を設ける」(54.0%)、「保護者がしつけや教育について気軽に相談できる場・機会をつくる」(49.5%)、「食事を一緒にとる、マナーを教えるなど食を通じて家族とのつながりを深める」(48.3%)、「家族の団らんの場や機会を増やす」(43.8%)などで4割を超え多く、少し差があり「子どもが保護者と一緒にさまざまな体験ができる機会を増やす」(30.5%)、「子どもが保護者以外の大人(祖父母、近所の人)とふれあう機会を増やす」(29.8%)などが続いている。



○性別でみると、男性では「家族の団らんの場や機会を増やす」「保護者同士が教育について話し合える機会をつくる」が、女性では「保護者がしつけや教育について気軽に相談できる場・機会をつくる」「食を通じて家族とのつながりを深める」などで、それぞれの回答の割合を上回る。

○勤務先別でみると、小学校では「子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」、中学校では「保護者がしつけや教育について気軽に相談できる場・機会をつくる」「子どもが保護者が一緒に、さまざまな体験ができる機会を増やす」「保護者同士が教育について話し合える機会をつくる」などの回答が多くなっている。

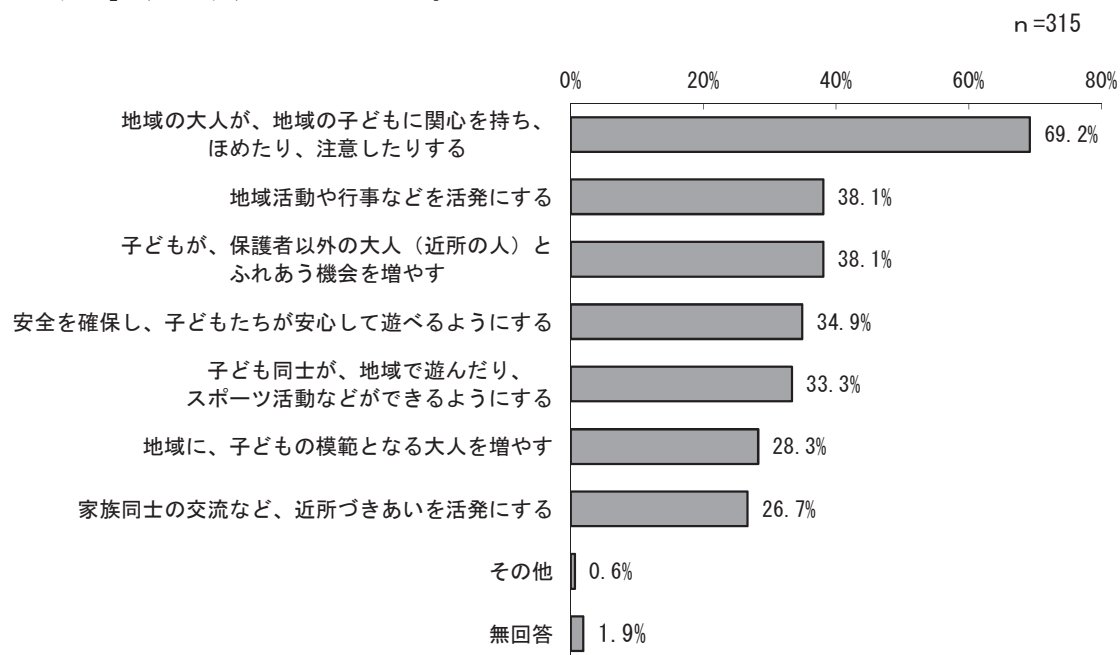
○勤務先・経験年数別にみると、小学校、中学校ともに10年未満で「家族の団らんの場や機会を増やす」が多くなっている。また、10～30年未満では「子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」との回答が多い。30年以上は、小学校で「食を通じて家族とのつながりを深める」、中学校では「育児や子どもへの教育・心がまえを保護者が学ぶ機会を設ける」「子どもが保護者と一緒に、さまざまな体験ができる機会を増やす」などの回答が他の層に比べ多くなっている。

単位：上段 人、下段 %

問12 家庭の教育力を高めるために		合計	育児や子どもへの教育・心がまえを保護者が学ぶ機会を設ける	保護者がしつけや教育について気軽に相談できる場・機会をつくる	食を通じて家族とのつながりを深める	家族の団らんの場や機会を増やす	子どもが保護者と一緒に、さまざまな体験ができる機会を増やす	子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす	保護者同士が教育について話し合える機会をつくる	その他	無回答
全体		315 100.0	170 54.0	156 49.5	152 48.3	138 43.8	96 30.5	94 29.8	65 20.6	5 1.6	5 1.6
問1 性別	男性	121 100.0	65 53.7	54 44.6	55 45.5	58 47.9	40 33.1	37 30.6	30 24.8	4 3.3	1 0.8
	女性	192 100.0	104 54.2	101 52.6	97 50.5	80 41.7	55 28.6	57 29.7	35 18.2	1 0.5	3 1.6
問3 勤務先	小学校	191 100.0	100 52.4	91 47.6	93 48.7	85 44.5	54 28.3	61 31.9	36 18.8	3 1.6	4 2.1
	中学校	123 100.0	70 56.9	65 52.8	59 48.0	53 43.1	42 34.1	33 26.8	29 23.6	2 1.6	0 0.0
勤務先× 経験年数 (統合)	小学校-10年未満	31 100.0	13 41.9	14 45.2	16 51.6	20 64.5	10 32.3	9 29.0	6 19.4	2 6.5	0 0.0
	小学校-10～30年未満	106 100.0	59 55.7	49 46.2	44 41.5	45 42.5	26 24.5	37 34.9	20 18.9	1 0.9	3 2.8
	小学校-30年以上	53 100.0	28 52.8	28 52.8	32 60.4	19 35.8	18 34.0	15 28.3	9 17.0	0 0.0	1 1.9
	中学校-10年未満	46 100.0	23 50.0	24 52.2	25 54.3	24 52.2	18 39.1	10 21.7	10 21.7	0 0.0	0 0.0
	中学校-10～30年未満	54 100.0	32 59.3	29 53.7	24 44.4	23 42.6	14 25.9	17 31.5	15 27.8	1 1.9	0 0.0
	中学校-30年以上	23 100.0	15 65.2	12 52.2	10 43.5	6 26.1	10 43.5	6 26.1	4 17.4	1 4.3	0 0.0

問13 あなたは、地域の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。
 [主なものを3つまでに○]

○地域の教育力を高めるための取組については、「地域の大人が地域の子どもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする」(69.2%) が群を抜いて多く7割近い。次いでやや差があつて、「地域活動や行事などを活発にする」(38.1%)、「子どもが、保護者以外の大人(近所の人)とふれあう機会を増やす」(38.1%)、「安全を確保し、子どもたちが安心して遊べるようにする」(34.9%)、「子ども同士が地域で遊んだり、スポーツ活動ができるようにする」(33.3%) となっている。



○性別でみると、男性では「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」「地域に、子どもの模範となる大人を増やす」が、女性では「地域活動や行事などを活発にする」「安全を確保し、子どもたちが安心して遊べるようにする」などで、それぞれの回答の割合を上回る。

○勤務先別でみると、小学校では「地域活動や行事などを活発にする」「安全を確保し、子どもたちが安心して遊べるようにする」、中学校では「地域の大人が、地域の子どもの関心を持ち、ほめたり、注意したりする」「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」「地域に、子どもの模範となる大人を増やす」「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」などの回答が多くなっている。

○勤務先・経験年数別にみると、小学校では、10年未満で「子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」、30年以上では「地域活動や行事などを活発にする」「安全を確保し、子どもたちが安心して遊べるようにする」「子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」などの回答が多くなっている。

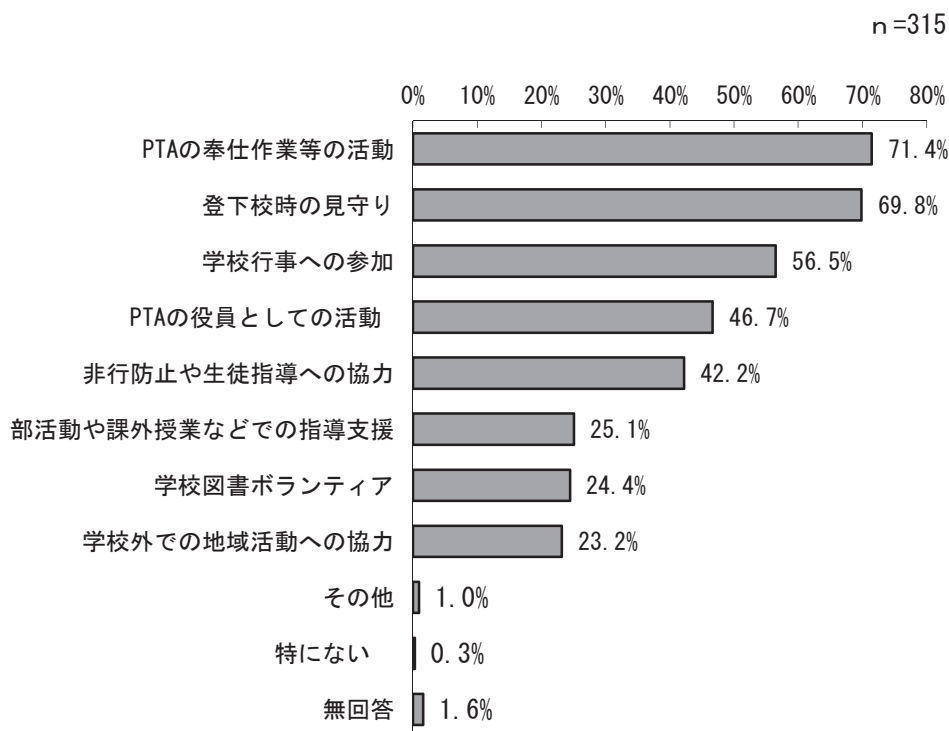
中学校では、10年未満で「地域の大人が、地域の子どもの関心を持ち、ほめたり、注意したりする」「子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」との回答が多くなっている。10～30年未満では「地域の大人が、地域の子どもの関心を持ち、ほめたり、注意したりする」「子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」「地域に、子どもの模範となる大人を増やす」、30年以上は、「子どもが保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」「地域に、子どもの模範となる大人を増やす」などの回答が他の層に比べ多くなっている。

単位: 上段 人, 下段 %

問13 地域の教育力を 高めるために	合計	地域の大人が、地域の子どもの関心を持ち、ほめたり、注意したりする	地域活動や行事などを活発にする	子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす	安全を確保し、子どもたちが安心して遊べるようにする	子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする	地域に、子どもの模範となる大人を増やす	家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする	その他	無回答
全体	315 100.0	218 69.2	120 38.1	120 38.1	110 34.9	105 33.3	89 28.3	84 26.7	2 0.6	6 1.9
問1 性別										
男性	121 100.0	85 70.2	42 34.7	52 43.0	34 28.1	41 33.9	40 33.1	44 36.4	1 0.8	1 0.8
女性	192 100.0	132 68.8	78 40.6	67 34.9	76 39.6	64 33.3	48 25.0	40 20.8	1 0.5	4 2.1
問3 勤務先										
小学校	191 100.0	128 67.0	77 40.3	64 33.5	79 41.4	66 34.6	44 23.0	45 23.6	2 1.0	5 2.6
中学校	123 100.0	90 73.2	43 35.0	56 45.5	31 25.2	39 31.7	45 36.6	39 31.7	0 0.0	0 0.0
勤務先×経験年数(統合)										
小学校-10年未満	31 100.0	19 61.3	10 32.3	10 32.3	13 41.9	14 45.2	4 12.9	12 38.7	1 3.2	1 3.2
小学校-10～30年未満	106 100.0	74 69.8	43 40.6	32 30.2	42 39.6	29 27.4	32 30.2	24 22.6	1 0.9	2 1.9
小学校-30年以上	53 100.0	34 64.2	24 45.3	21 39.6	24 45.3	23 43.4	7 13.2	9 17.0	0 0.0	2 3.8
中学校-10年未満	46 100.0	34 73.9	18 39.1	23 50.0	14 30.4	12 26.1	14 30.4	19 41.3	0 0.0	0 0.0
中学校-10～30年未満	54 100.0	41 75.9	16 29.6	21 38.9	12 22.2	22 40.7	21 38.9	17 31.5	0 0.0	0 0.0
中学校-30年以上	23 100.0	15 65.2	9 39.1	12 52.2	5 21.7	5 21.7	10 43.5	3 13.0	0 0.0	0 0.0

問 14 保護者の方に、学校と協力したり、参加していただきたいと思う活動はありますか。
[あてはまるものすべてに○]

○保護者に参加してほしい活動については、「PTA の奉仕 作業等の活動」(71.4%)、「登下校時の見守り」(69.8%)が多く、次いで「学校行事への参加」(56.5%)、「PTA の役員としての活動」(46.7%)、「非行防止や生徒指導への協力」(42.2%)となっている。



○性別でみると、男性では「PTA の役員としての活動」「非行防止や生徒指導への協力」「学校外での地域活動への協力」「部活動や課外授業などでの指導支援」が、女性では「学校行事への参加」「学校図書ボランティア」などで、それぞれの回答の割合を上回る。

○勤務先別でみると、小学校では「登下校時の見守り」「PTA の奉仕作業等の活動」「学校図書ボランティア」、中学校では「非行防止や生徒指導への協力」「部活動や課外授業などでの指導支援」「学校外での地域活動への協力」などの回答が多くなっている。

○勤務先・経験年数別にみると、小学校では、10年未満で「登下校時の見守り」「PTA の役員としての活動」、10～30年未満では「学校図書ボランティア」、30年以上では「学校行事への参加」「学校図書ボランティア」「学校外での地域活動への協力」などの回答が多くなっている。

中学校では、10年未満で「学校外での地域活動への協力」、10～30年未満で「PTA の奉仕作業等の活動」「PTA の役員としての活動」「学校外での地域活動への協力」、30年以上で「非行防止や生徒指導への協力」「部活動や課外授業などでの指導支援」が多くなっている。

単位:上段 人、下段 %

問14 保護者に参加して ほしい活動		合計	PTAの奉 仕作業等 の活動	登下校時 の見守り	学校行事 への参加	PTAの役 員として の活動	非行防止 や生徒指 導への協 力	部活動や 課外授業 などでの 指導支援
全体		315 100.0	225 71.4	220 69.8	178 56.5	147 46.7	133 42.2	79 25.1
問1 性別	男性	121 100.0	84 69.4	85 70.2	60 49.6	61 50.4	62 51.2	38 31.4
	女性	192 100.0	140 72.9	134 69.8	117 60.9	86 44.8	70 36.5	40 20.8
問3 勤務先	小学校	191 100.0	141 73.8	145 75.9	111 58.1	89 46.6	74 38.7	38 19.9
	中学校	123 100.0	84 68.3	75 61.0	67 54.5	58 47.2	59 48.0	41 33.3
勤務先×経 験年数(統合)	小学校-10年 未満	31 100.0	22 71.0	25 80.6	17 54.8	19 61.3	11 35.5	7 22.6
	小学校-10~ 30年未満	106 100.0	80 75.5	82 77.4	61 57.5	44 41.5	42 39.6	19 17.9
	小学校-30年 以上	53 100.0	38 71.7	38 71.7	33 62.3	26 49.1	21 39.6	12 22.6
	中学校-10年 未満	46 100.0	29 63.0	28 60.9	27 58.7	21 45.7	20 43.5	15 32.6
	中学校-10~ 30年未満	54 100.0	42 77.8	32 59.3	29 53.7	29 53.7	25 46.3	17 31.5
	中学校-30年 以上	23 100.0	13 56.5	15 65.2	11 47.8	8 34.8	14 60.9	9 39.1

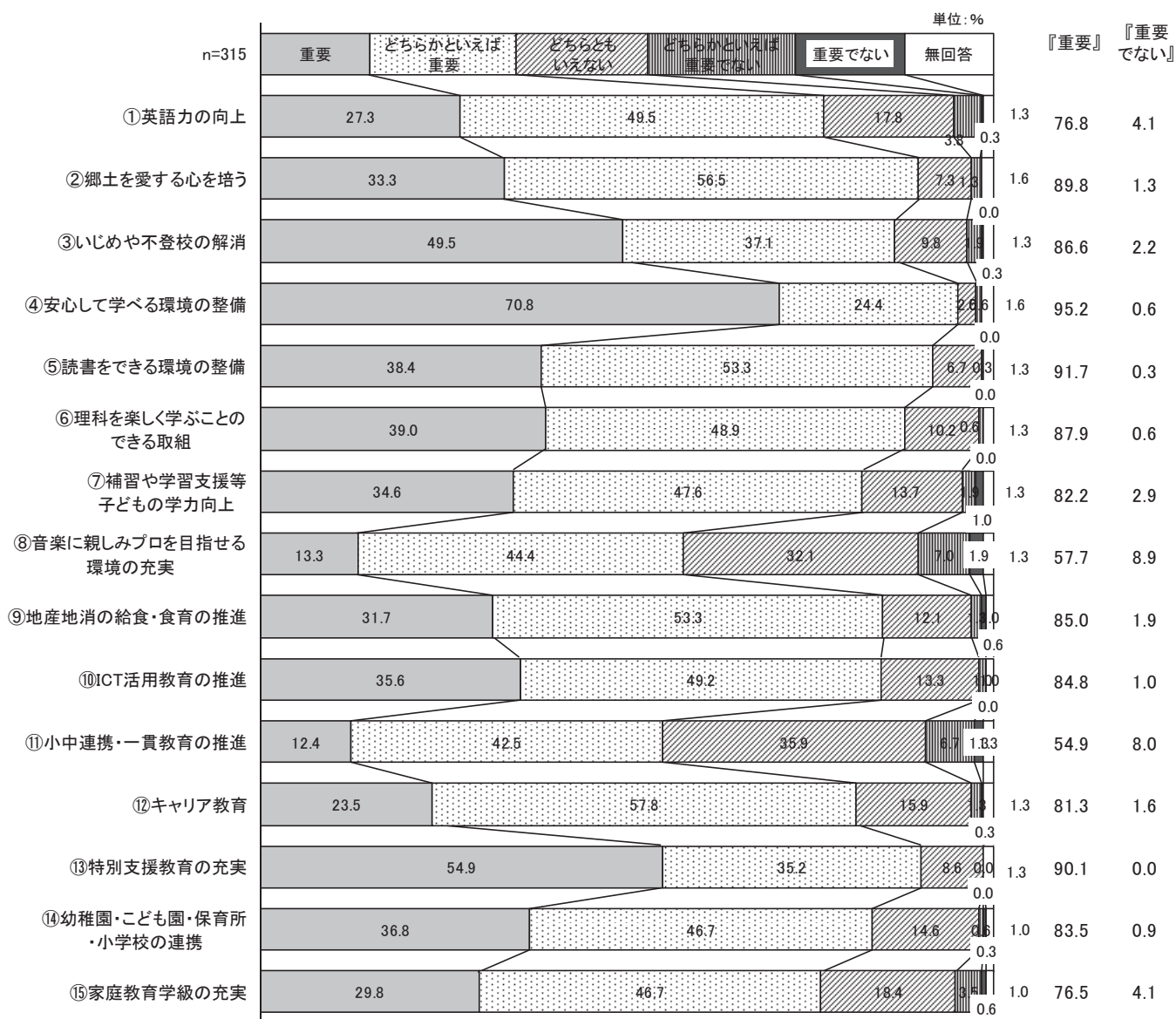
問14 保護者に参加して ほしい活動		合計	学校図書 ボランティア	学校外で の地域活 動への協 力	特にな い	その他	無回答
全体		315 100.0	77 24.4	73 23.2	1 0.3	3 1.0	5 1.6
問1 性別	男性	121 100.0	21 17.4	39 32.2	0 0.0	2 1.7	0 0.0
	女性	192 100.0	55 28.6	34 17.7	1 0.5	1 0.5	4 2.1
問3 勤務先	小学校	191 100.0	67 35.1	38 19.9	1 0.5	3 1.6	3 1.6
	中学校	123 100.0	10 8.1	35 28.5	0 0.0	0 0.0	1 0.8
勤務先×経 験年数(統合)	小学校-10年 未満	31 100.0	6 19.4	4 12.9	1 3.2	1 3.2	0 0.0
	小学校-10~ 30年未満	106 100.0	38 35.8	17 16.0	0 0.0	2 1.9	1 0.9
	小学校-30年 以上	53 100.0	23 43.4	17 32.1	0 0.0	0 0.0	2 3.8
	中学校-10年 未満	46 100.0	6 13.0	13 28.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中学校-10~ 30年未満	54 100.0	3 5.6	18 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中学校-30年 以上	23 100.0	1 4.3	4 17.4	0 0.0	0 0.0	1 4.3

(4) 市の教育施策や“笠間らしさ”について

問15 笠間市が取り組んでいる教育施策について、いずれの施策が重要だと思いますか。
[それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○]

○笠間市が取り組む教育施策について、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』が9割を超えるのは、「④安心して学べる環境の整備」(95.2%)、「⑤読書のできる環境の整備」(91.7%)、「⑬特別支援教育の充実」(90.1%)の3項目である。

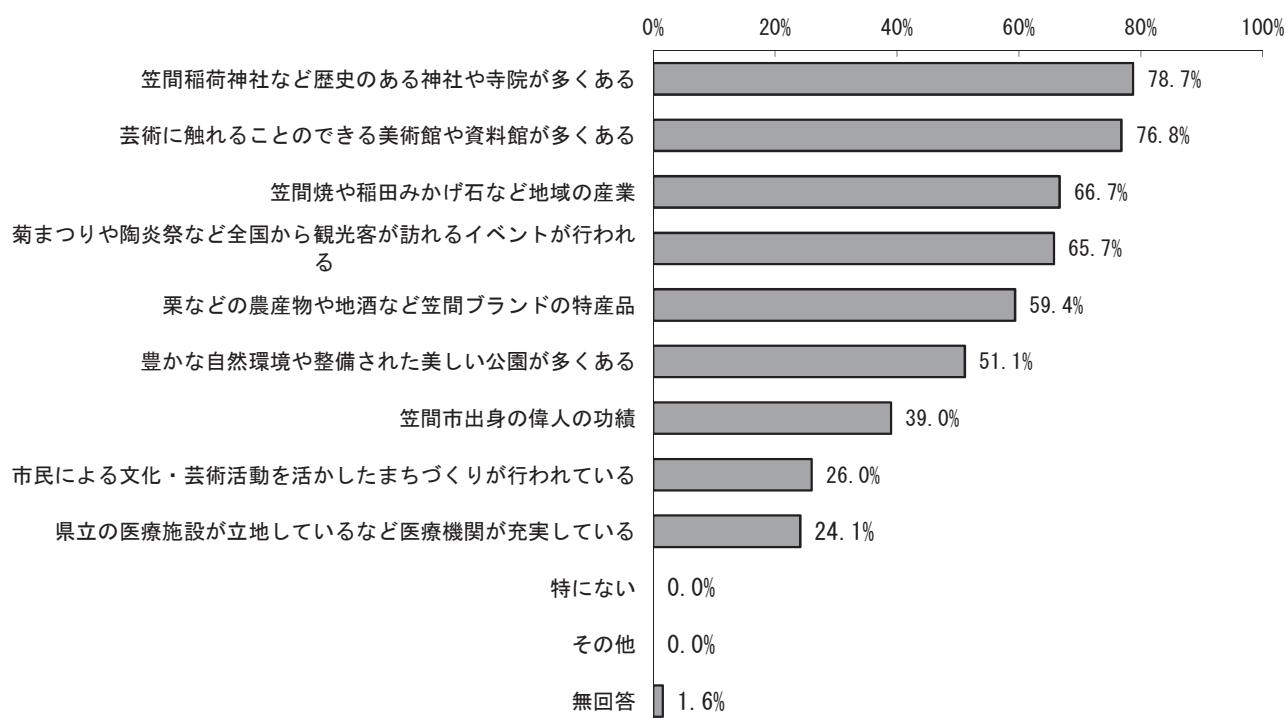
また、8割を超えたのは、「②郷土を愛する心を培う」(89.8%)、「⑥理科を楽しく学ぶことのできる取組」(87.9%)、「③いじめや不登校の解消」(86.6%)、「⑨地産地消の給食・食育の推進」(85.0%)、「⑩ICT活用教育の推進」(84.8%)、「⑭幼稚園・こども園・保育所・小学校の連携」(83.5%)、「⑦補習や学習支援等子どもの学力向上」(82.2%)、「⑫キャリア教育」(81.3%)となっている。



問 16 あなたが、“笠間らしい”教育に活用できると考える地域資源は何ですか。
[あてはまるものすべてに○]

○教育に活用できる地域資源については、「笠間稲荷神社など歴史のある神社や寺院が多くある」(78.7%)「芸術に触れることのできる美術館や資料館が多くある」(76.8%)が7割を超えており、次いで「笠間焼や稲田みかげ石など地域の産業」(66.7%)、「菊まつりや陶炎祭など全国から観光客が訪れるイベントが行われる」(65.7%)、「栗などの農産物や地酒など笠間ブランドの特産品」(59.4%)、「豊かな自然環境や整備された美しい公園が多くある」(51.1%)となっている。

n=315



- 性別でみると、すべての項目で女性の回答の割合が男性の回答を上回る。特に「笠間稲荷神社など歴史のある神社や寺院が多くある」「芸術に触れることのできる美術館や資料館が多くある」「笠間焼や稲田みかげ石など地域の産業」との回答が多くなっている。
- 年代別でみると、全体的に20歳代や50歳以上に比べ、30歳代、40歳代で回答の割合が高い。30歳代、40歳代ともに、「笠間稲荷神社など歴史のある神社や寺院が多くある」が8割を超え多くなっている。また、30歳代では「菊まつりや陶炎祭など全国から観光客が訪れるイベントが行われる」、40歳代では「笠間焼や稲田みかげ石など地域の産業」「栗などの農産物や地酒など笠間ブランドの特産品」「笠間市出身の偉人の功績」などの回答が多くなっている。
- 勤務先別でみると、すべての項目で小学校の回答の割合が中学校の回答を上回る。特に「笠間稲荷神社など歴史のある神社や寺院が多くある」「笠間焼や稲田みかげ石など地域の産業」「栗などの農産物や地酒など笠間ブランドの特産品」「笠間市出身の偉人の功績」で差が大きい。

単位:上段 人、下段 %

問16 教育に活用できる 地域資源		合計	笠間稲荷 神社など歴 史のある神 社や寺院 が多くある	芸術に触れ ることので きる美術館 や資料館 が多くある	笠間焼や 稲田みか げ石など地 域の産業	菊まつりや 陶炎祭など 全国から観 光客が訪 れるイベン トが行われ る	栗などの農 産物や地 酒など笠間 ブランドの 特産品	豊かな自然 環境や整 備された美 しい公園が 多くある
全体		315 100.0	248 78.7	242 76.8	210 66.7	207 65.7	187 59.4	161 51.1
問1 性別	男性	121 100.0	85 70.2	82 67.8	68 56.2	79 65.3	61 50.4	60 49.6
	女性	192 100.0	162 84.4	159 82.8	141 73.4	127 66.1	125 65.1	100 52.1
問2 年代	20歳代	46 100.0	30 65.2	31 67.4	25 54.3	30 65.2	21 45.7	19 41.3
	30歳代	53 100.0	43 81.1	41 77.4	30 56.6	41 77.4	31 58.5	27 50.9
	40歳代	86 100.0	74 86.0	67 77.9	67 77.9	58 67.4	59 68.6	47 54.7
	50歳以上	129 100.0	101 78.3	103 79.8	88 68.2	78 60.5	76 58.9	68 52.7
問3 勤務先	小学校	191 100.0	158 82.7	152 79.6	141 73.8	130 68.1	127 66.5	106 55.5
	中学校	123 100.0	90 73.2	90 73.2	69 56.1	77 62.6	60 48.8	55 44.7

問16 教育に活用できる 地域資源		合計	笠間市出 身の偉人 の功績	市民による 文化・芸術 活動を活か したまちづ くりが行わ れている	県立の医 療施設が 立地してい るなど医療 機関が充 実している	特にない	その他	無回答
全体		315 100.0	123 39.0	82 26.0	76 24.1	0 0.0	0 0.0	5 1.6
問1 性別	男性	121 100.0	44 36.4	27 22.3	27 22.3	0 0.0	0 0.0	2 1.7
	女性	192 100.0	78 40.6	54 28.1	49 25.5	0 0.0	0 0.0	2 1.0
問2 年代	20歳代	46 100.0	11 23.9	12 26.1	3 6.5	0 0.0	0 0.0	1 2.2
	30歳代	53 100.0	17 32.1	13 24.5	13 24.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	86 100.0	45 52.3	22 25.6	23 26.7	0 0.0	0 0.0	1 1.2
	50歳以上	129 100.0	50 38.8	35 27.1	37 28.7	0 0.0	0 0.0	2 1.6
問3 勤務先	小学校	191 100.0	84 44.0	54 28.3	48 25.1	0 0.0	0 0.0	2 1.0
	中学校	123 100.0	39 31.7	28 22.8	28 22.8	0 0.0	0 0.0	2 1.6